

第 137 回 火山噴火予知連絡会資料

(その4)

その他の火山（気象庁）

（※ その1－1 ～ その3－5に掲載されていない気象庁資料）

平成 29 年 2 月 14 日

火山噴火予知連絡会資料（その4）

目次

気象庁

その他の火山（要約）	3
------------------	---

北海道地方の火山	4
----------------	---

知床硫黄山 4-5、羅臼岳 6-7、天頂山 8-9、摩周 10-11、丸山 12-14、
利尻山 15-16、恵庭岳 17-20、羊蹄山 21-24、ニセコ 25-28、渡島大島 29-30、
茂世路岳 31-32、散布山 33-34、指臼岳 35-36、小田萌山 37-38、
択捉焼山 39-40、択捉阿登佐岳 41-42、ベルタルベ山 43-44、ルレイ岳 45-46、
爺爺岳 47-48、羅臼山 49-50、泊山 51-52

東北地方の火山	53
---------------	----

恐山 53-54、八幡平 55-56、鳴子 57-58、肘折 59-61、沼沢 62-63、
燧ヶ岳 64-65

関東・中部地方の火山	66
------------------	----

高原山 66-67、赤城山 68-69、榛名山 70-71、横岳 72-73、妙高山 74-75、
アカンダナ山 76-77

伊豆・小笠原諸島の火山	78
-------------------	----

利島 78-79、御蔵島 80-81、ベヨネース列岩 82、須美寿島 83、伊豆鳥島 84、
孀婦岩 85、海形海山 86、海徳海山 87、噴火浅根 88、北福德堆 89、
福德岡ノ場 90、南日吉海山 91、日光海山 92

中国・九州地方及び南西諸島の火山	93
------------------------	----

三瓶山 93-94、阿武火山群 95-96、由布岳 97-98、福江火山群 99-100、
米丸・住吉池 101-102、若尊 103-104、池田・山川 105-106、開聞岳 107-108、
口之島 109-110、中之島 111-112、硫黄島 113-115、西表島北北東海底火山 116

その他の火山（要約）（2016 年 12 月 31 日現在）

その他の火山の評価（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

火山名

1. 北海道地方

知床硫黄山、羅臼岳、天頂山、摩周、雄阿寒岳、丸山、利尻山、恵庭岳、羊蹄山、ニセコ、渡島大島、茂世路岳、散布山、指臼岳、小田萌山、択捉焼山、択捉阿登佐岳、ベルタルベ山、ルルイ岳、爺爺岳、羅臼山、泊山

2. 東北地方

恐山、八幡平、鳴子、肘折、沼沢、燧ヶ岳

3. 関東・中部地方、伊豆・小笠原諸島

高原山、赤城山、榛名山、横岳、妙高山、アカンダナ山、利島、御蔵島、ベヨネース列岩、須美寿島、伊豆鳥島、嬬婦岩、海形海山、海徳海山、噴火浅根、北福德堆、福德岡ノ場、南日吉海山、日光海山

4. 中国・九州地方及び南西諸島

三瓶山、阿武火山群、由布岳、福江火山群、米丸・住吉池、若尊、池田・山川、開聞岳、口之島、中之島、硫黄鳥島、西表島北北東海底火山

知 床 硫 黄 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

知床硫黄山に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

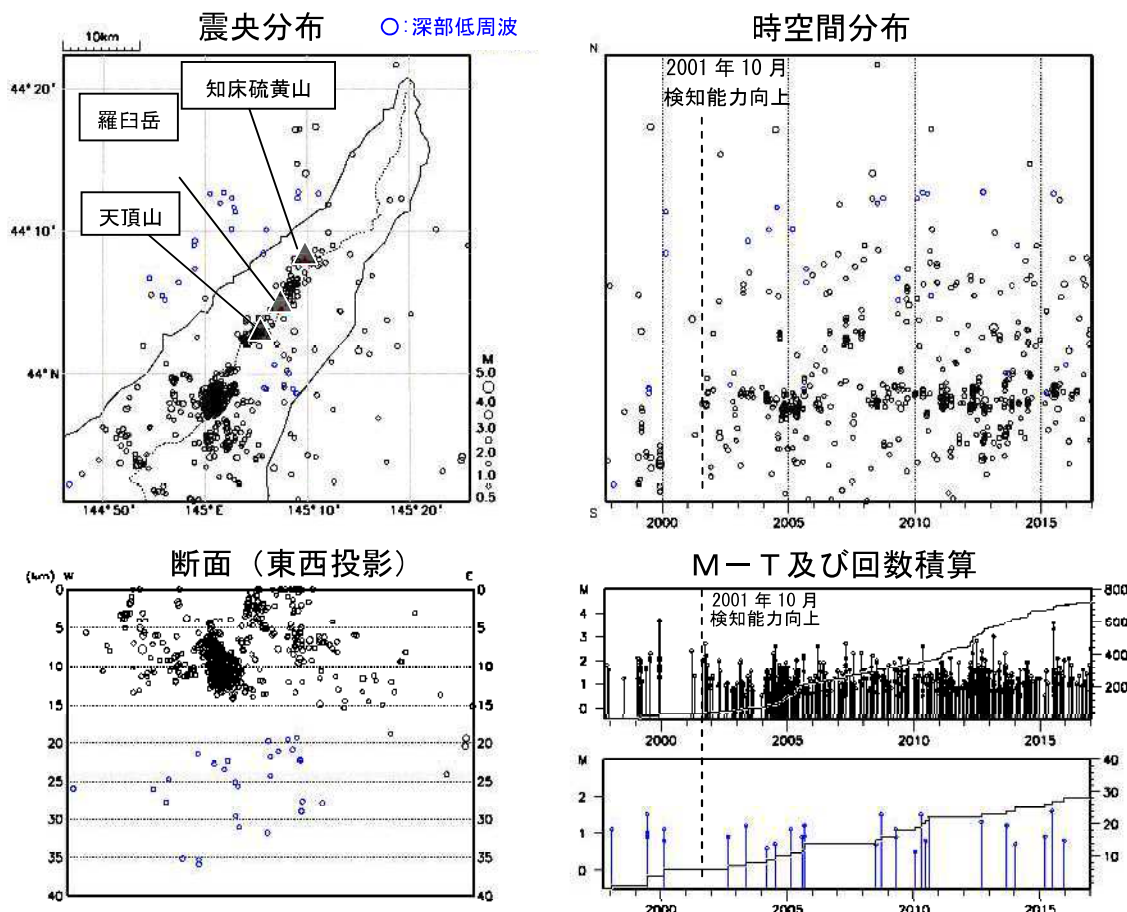


図 1 知床硫黄山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。
2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い、検知力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

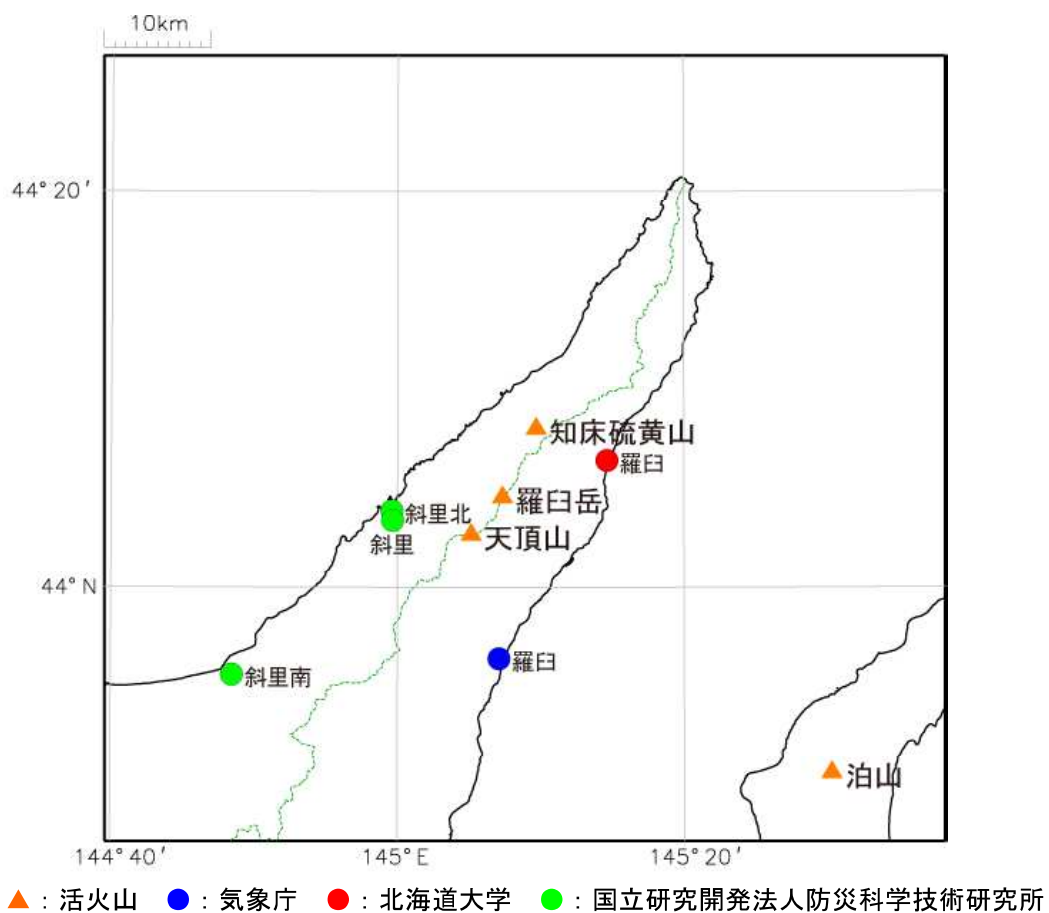


図 2 知床硫黄山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

羅 臼 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

羅臼岳に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

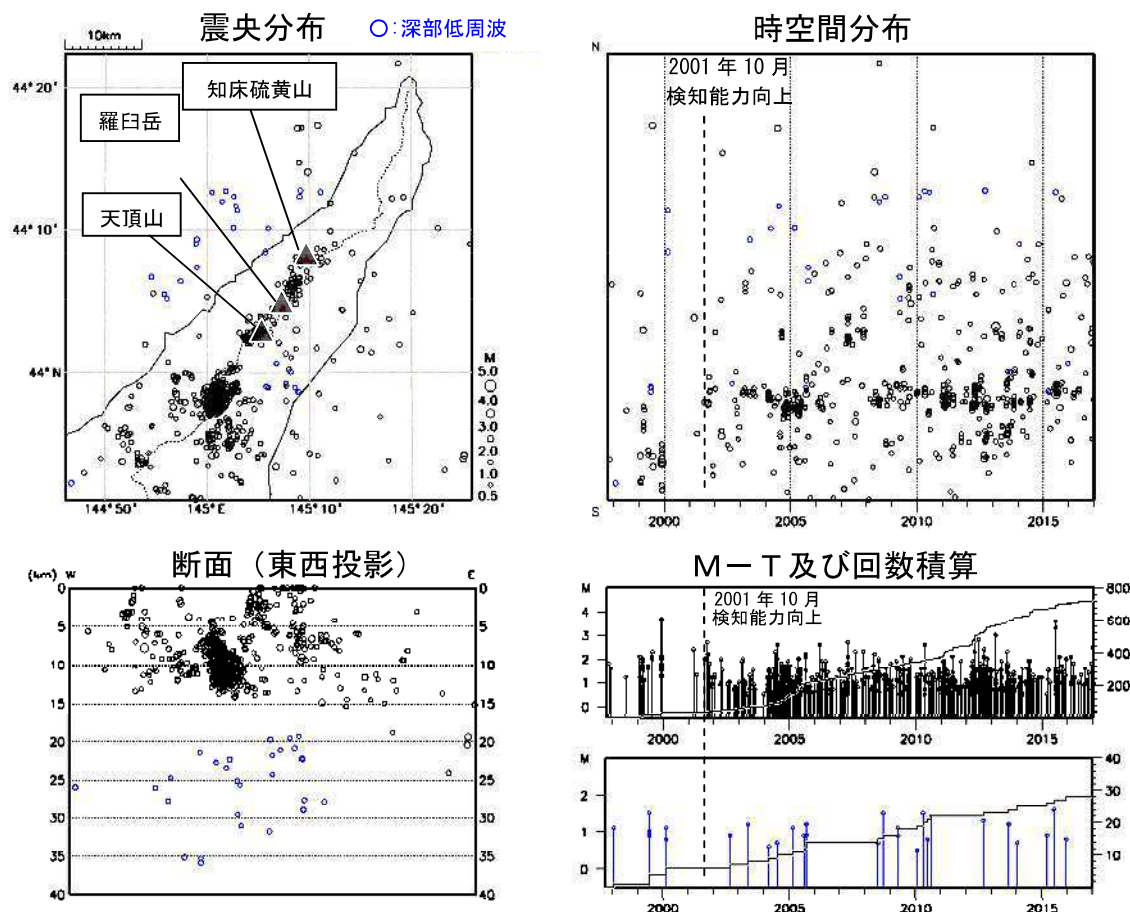


図 1 羅臼岳 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い、検知力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

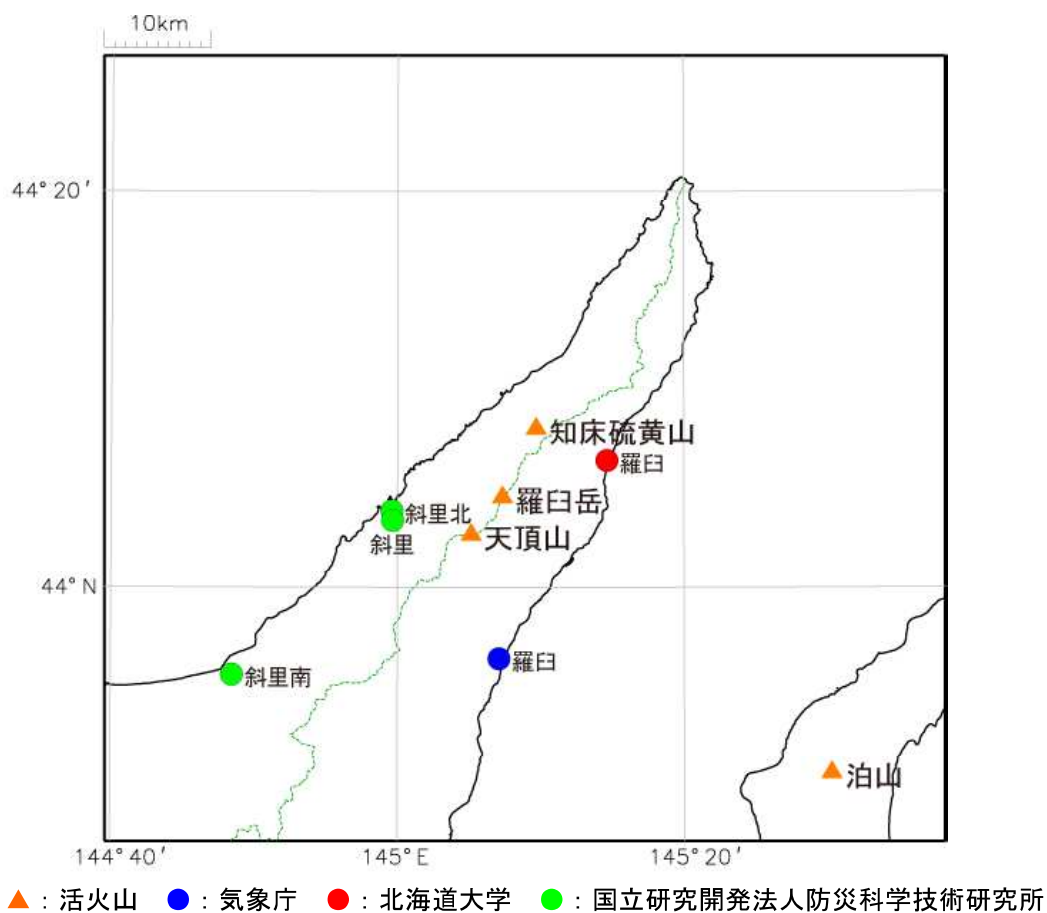


図2 羅臼岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

天 頂 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

天頂山に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

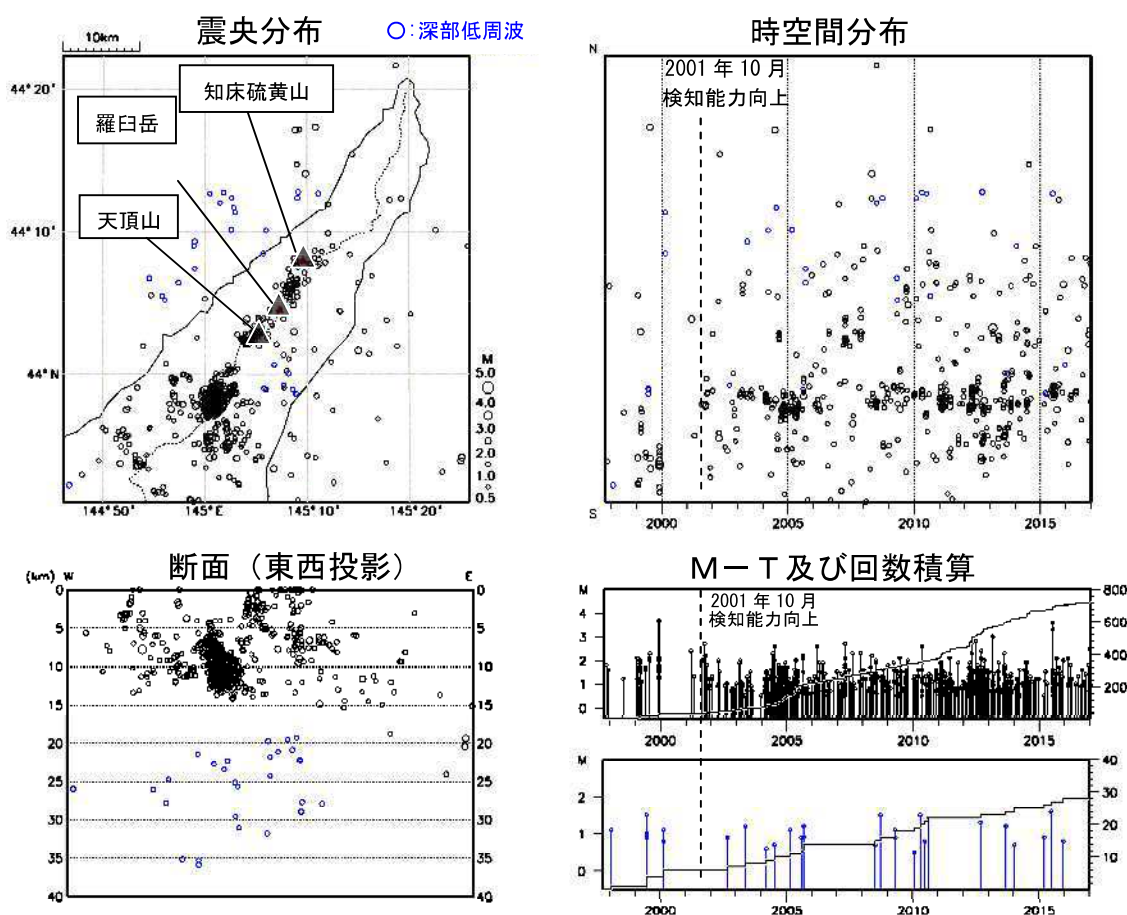


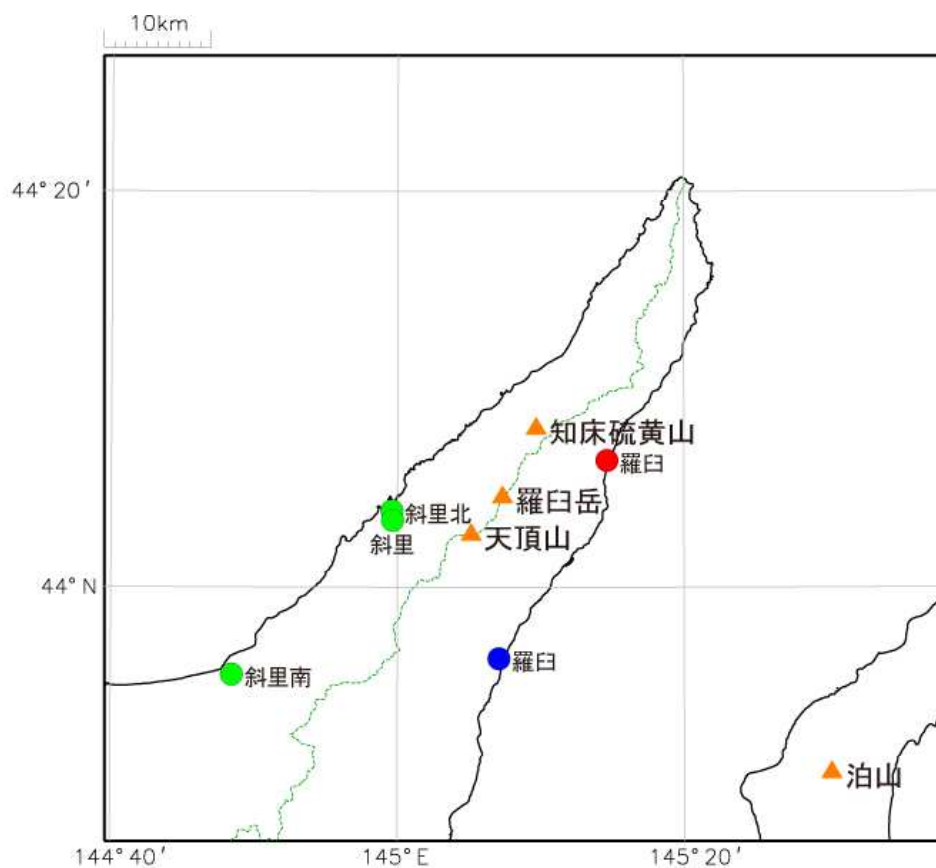
図 1 天頂山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。
2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い、検知力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



▲：活火山 ●：気象庁 ●：北海道大学 ●：国立研究開発法人防災科学技術研究所

図 2 天頂山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

摩 周

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

摩周に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

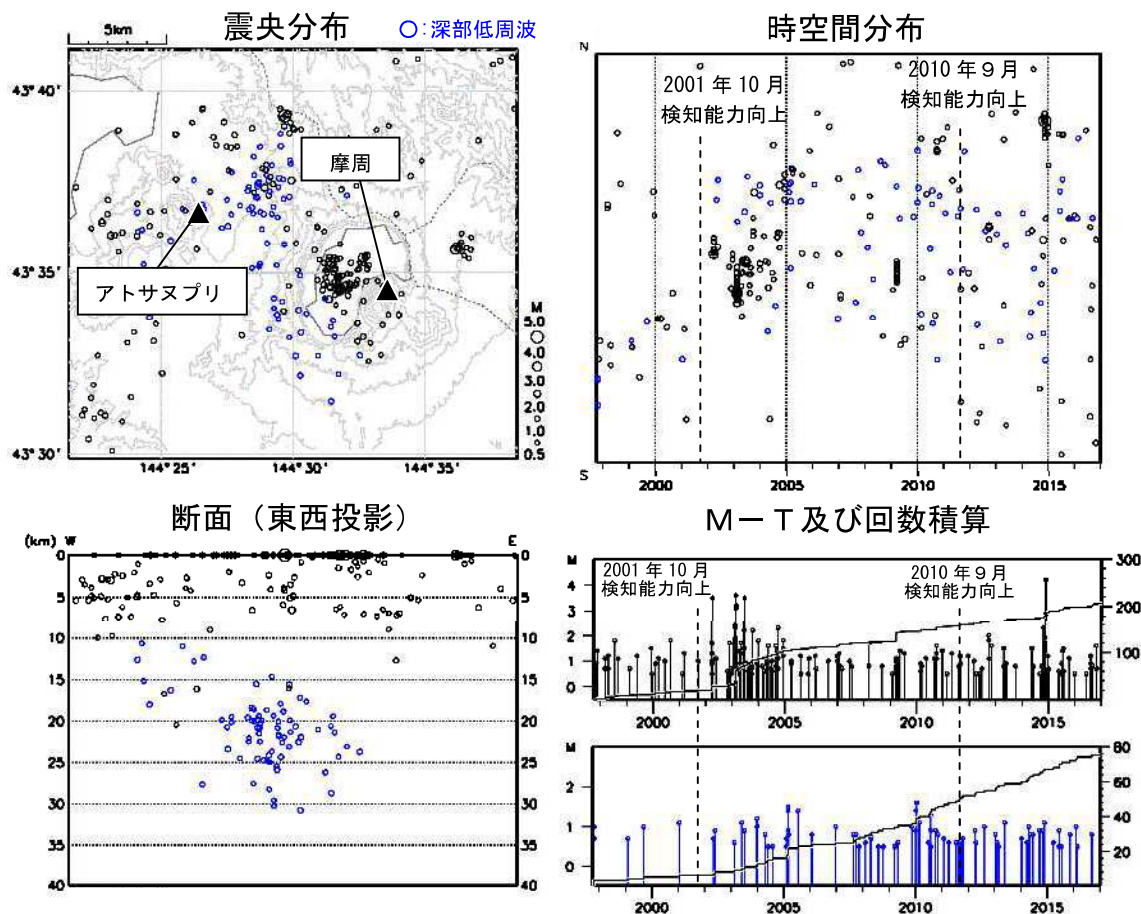


図 1 摩周 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

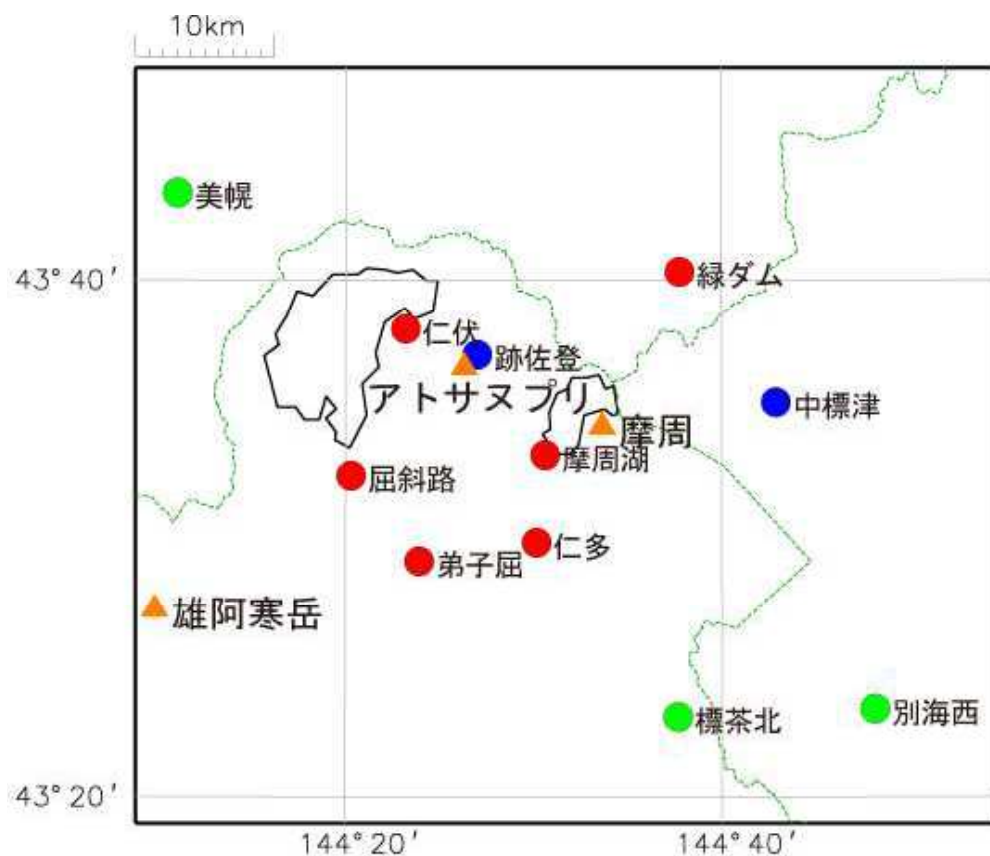
青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ(標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



▲ : 活火山 ● : 気象庁 ● : 北海道大学 ● : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

図 2 摩周 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

丸 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

丸山に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1～2）

山体及び周辺で発生する地震は概ね低調な状態で経過したが、一時的な地震の増加が時々みられた。丸山では過去にもまとまった地震活動がみられており、1989 年には M4.5、2011 年には M4.2 を最大規模とする地震増加が発生している。

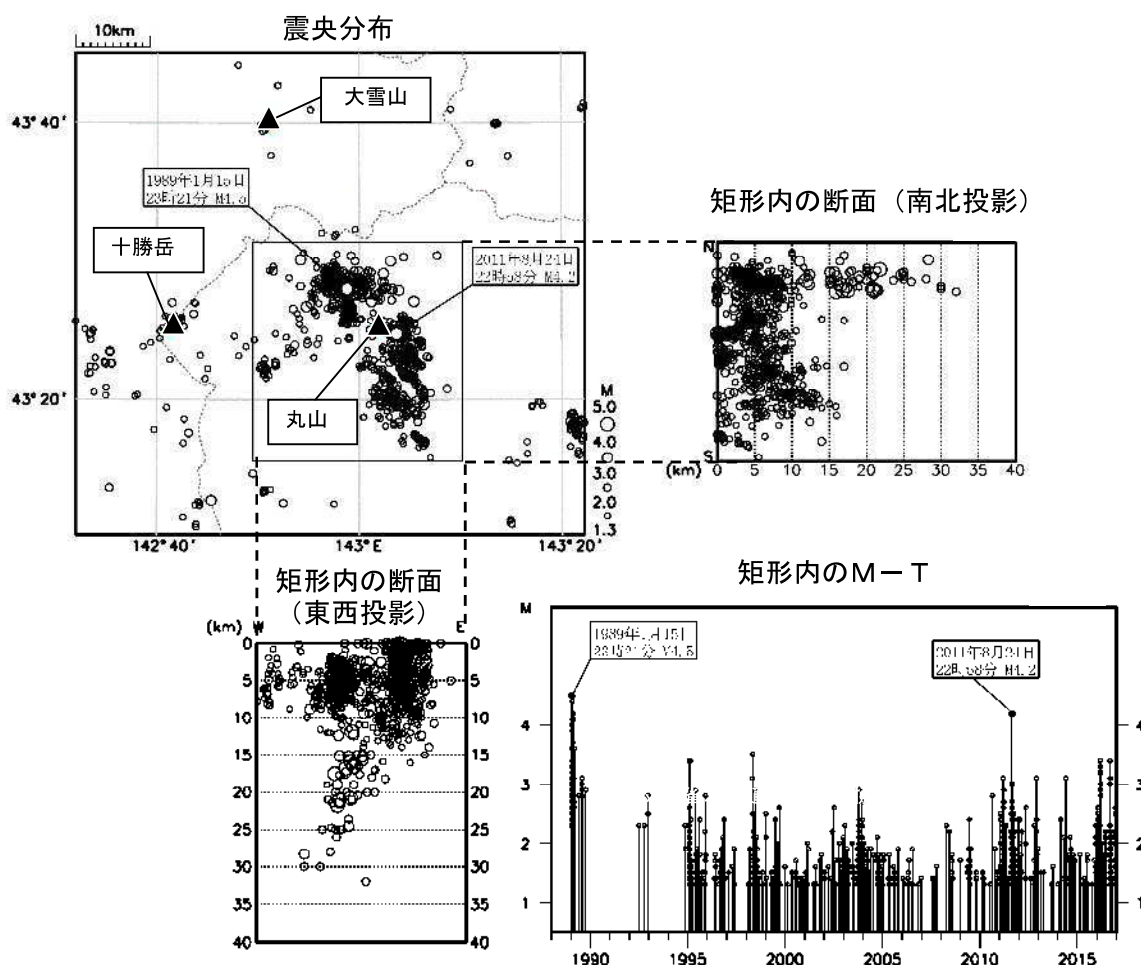


図 1 丸山 一元化震源による周辺の地震活動

(1988 年 1 月 1 日～2016 年 12 月 31 日、M $\geq$ 1.3、深さ 40km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがある。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

表 1 丸山 1988 年以降の震源決定の検知能力の変遷

年月	地震観測網の変更	検知能力
～1995 年 1 月	気象官署地震計	M3.0 以上
1995 年 1 月～	津波地震早期検知網設置	M1.3 以上
1997 年 10 月～	他機関との一元化開始	M1.0 以上
2001 年 10 月～	防災科研 (Hi-net) の導入	M0.5 以上
2010 年 10 月～	火山観測点の利用開始	

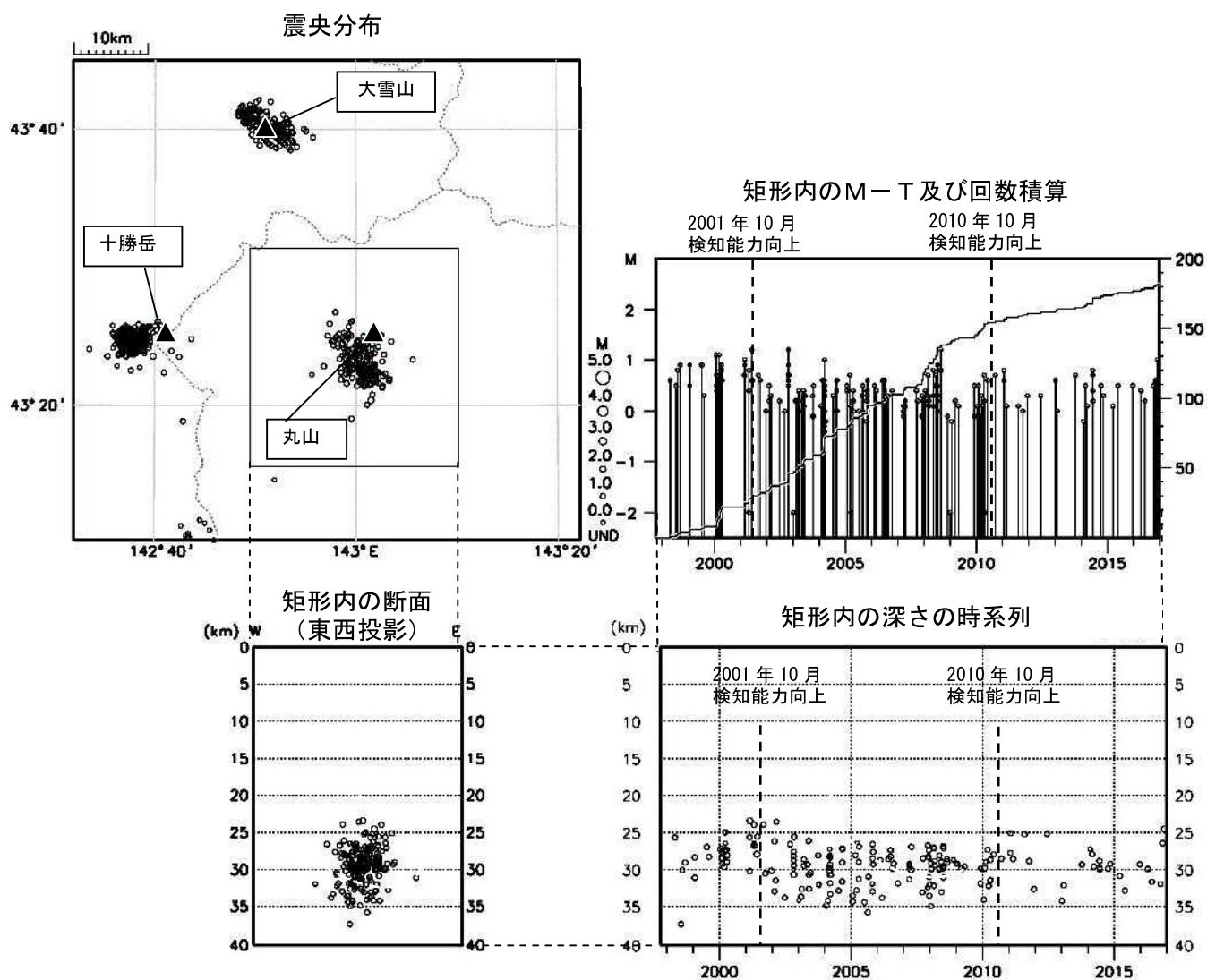


図 2 丸山 一元化震源による深部低周波地震活動
 (1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、M 全て、深さ 40km 以浅)

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。

2010 年 10 月以降、火山観測点の追加に伴い検知能力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。



利 尻 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

利尻山に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

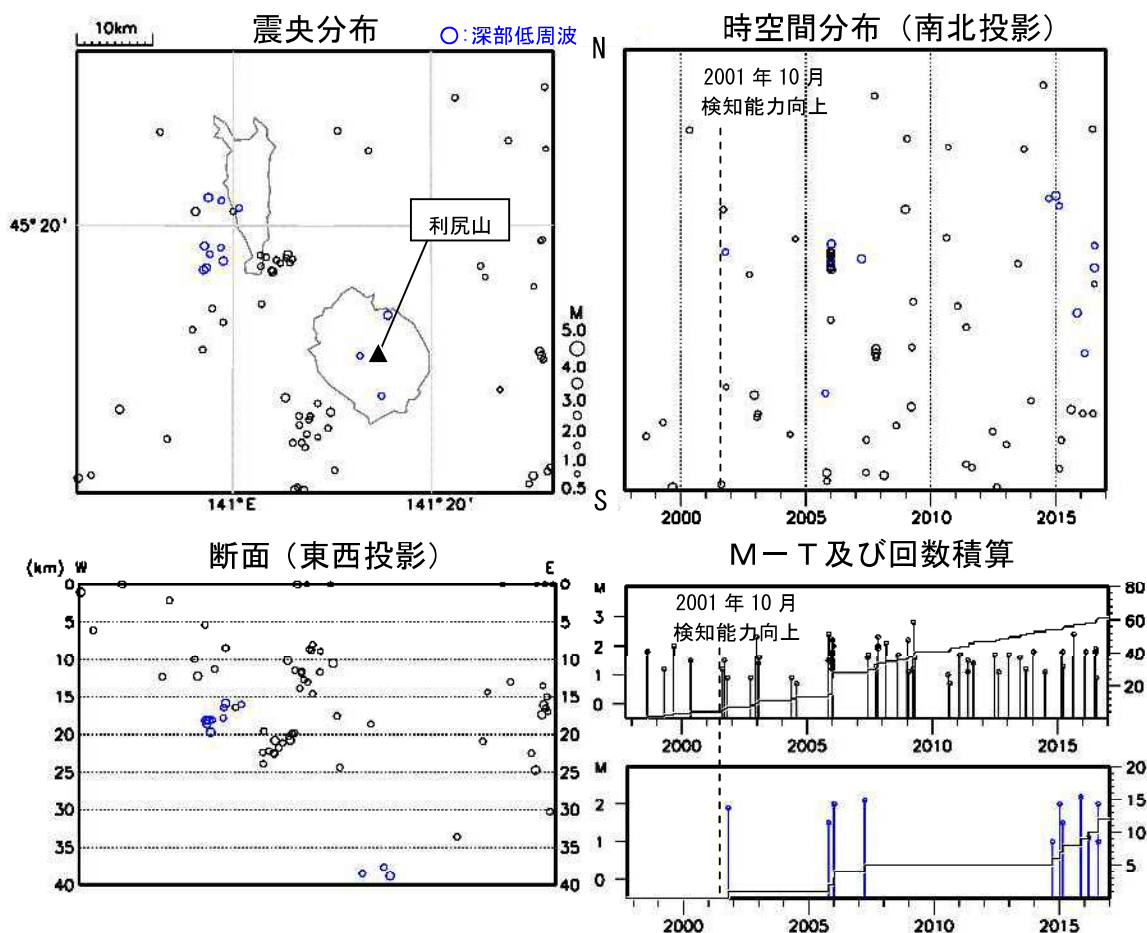


図 1 利尻山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40 km 以浅)

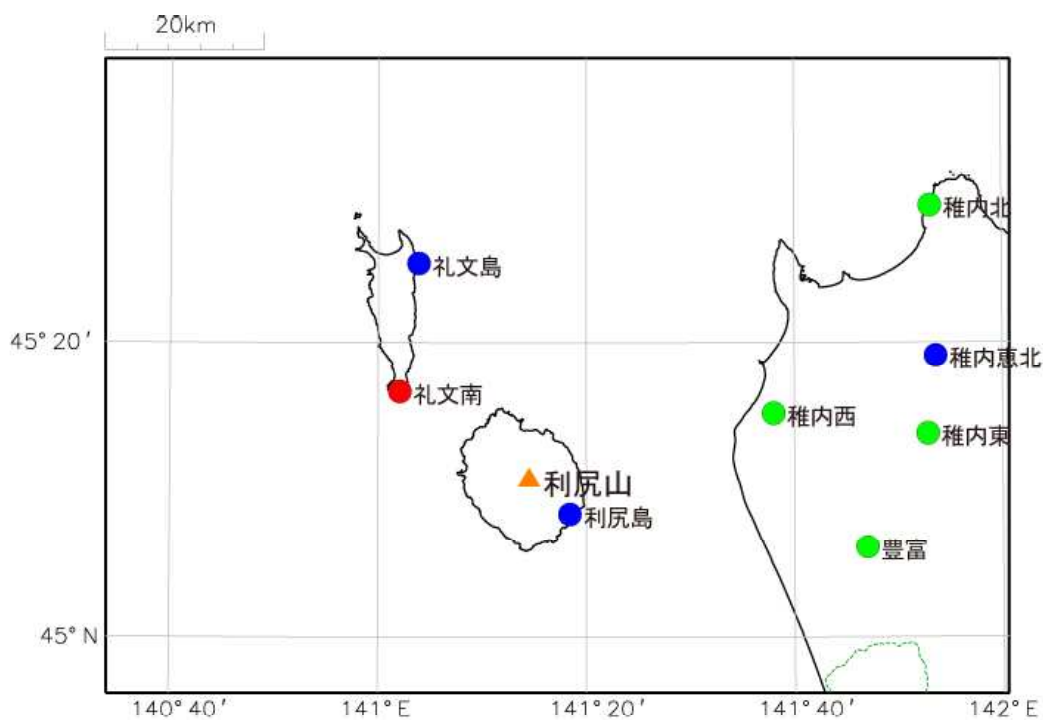
青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



▲：活火山 ●：気象庁 ●：北海道大学 ●：国立研究開発法人防災科学技術研究所

図 2 利尻山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

恵庭 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・表面活動（図 1～図 2）

2016年8月4日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、雲のため山頂東側の爆裂火口を正面から確認することはできなかったが、視認できる範囲では火口の状況にこれまでの観測と比べて変化は認められなかった。

赤外熱映像装置による観測では、地表面温度分布の状況に特段の変化は認められなかった。

・地震活動（図 3）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



図 1 恵庭岳 周辺図

（矢印は写真及び赤外熱映像の撮影方向）

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

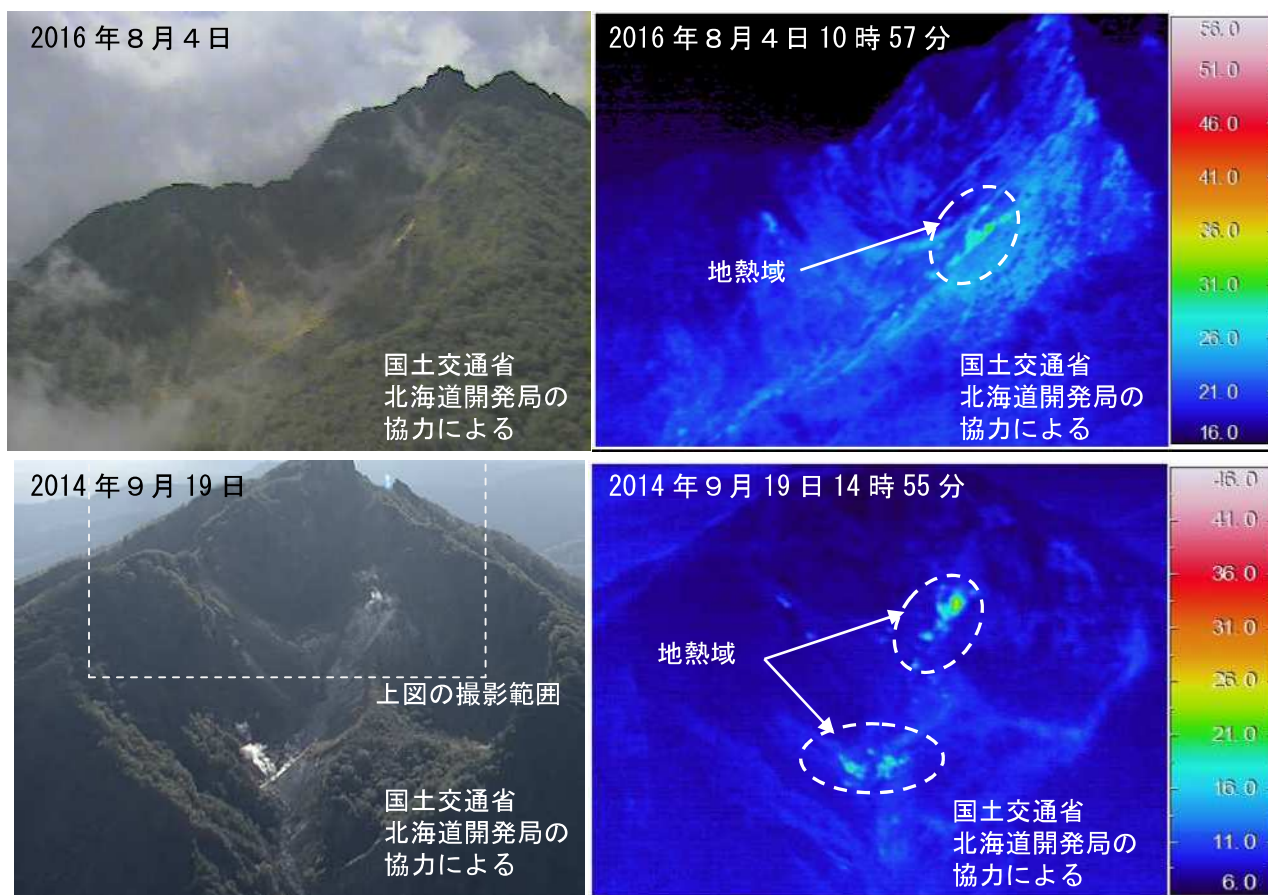


図 2 恵庭岳 赤外熱映像装置による恵庭岳山頂東側爆裂火口の地表面温度分布
 上図：図 1 中の①から撮影 下図：図 1 中の②から撮影
 ・地表面温度分布の状況に特段の変化はみられない。

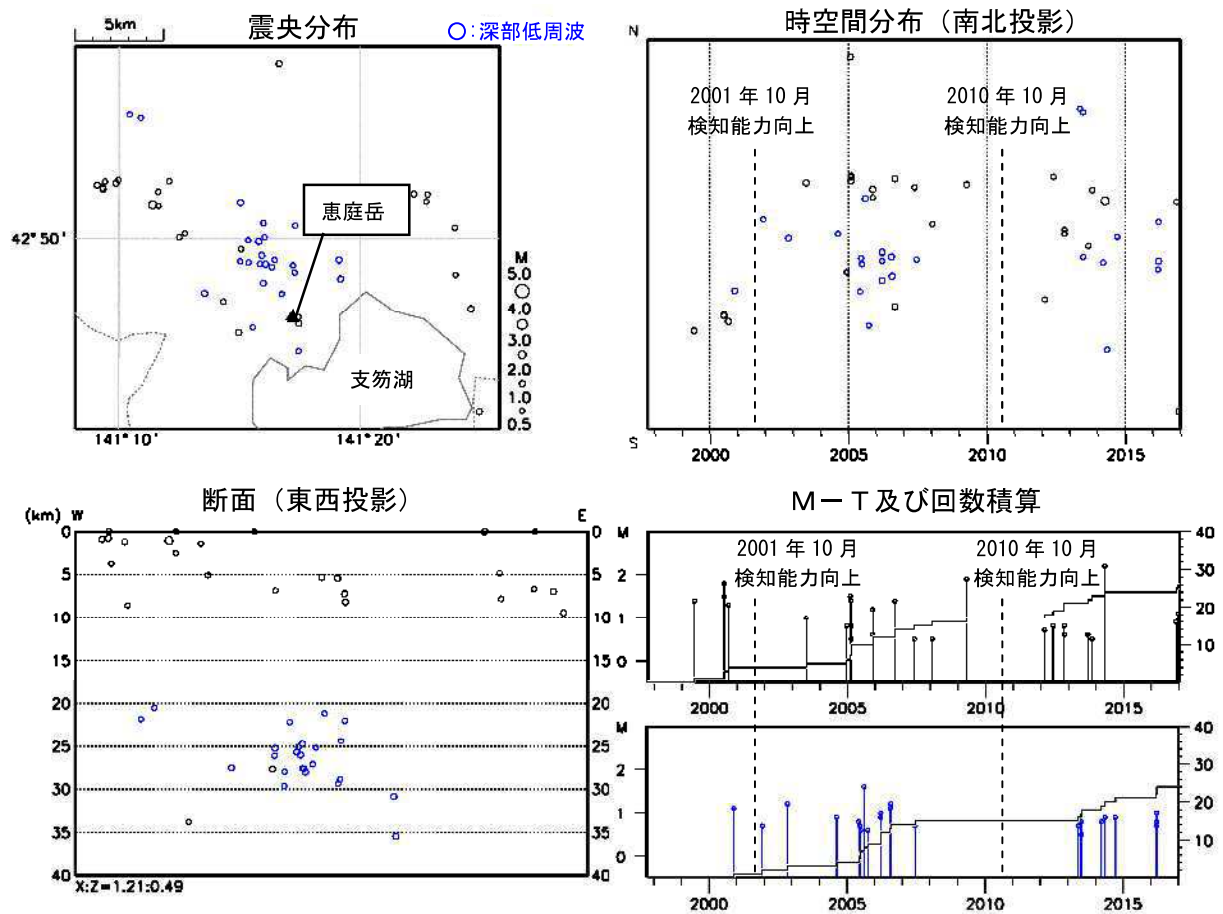


図3 恵庭岳 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997年10月～2016年12月31日、 $M \geq 0.5$ 、深さ40km以浅)

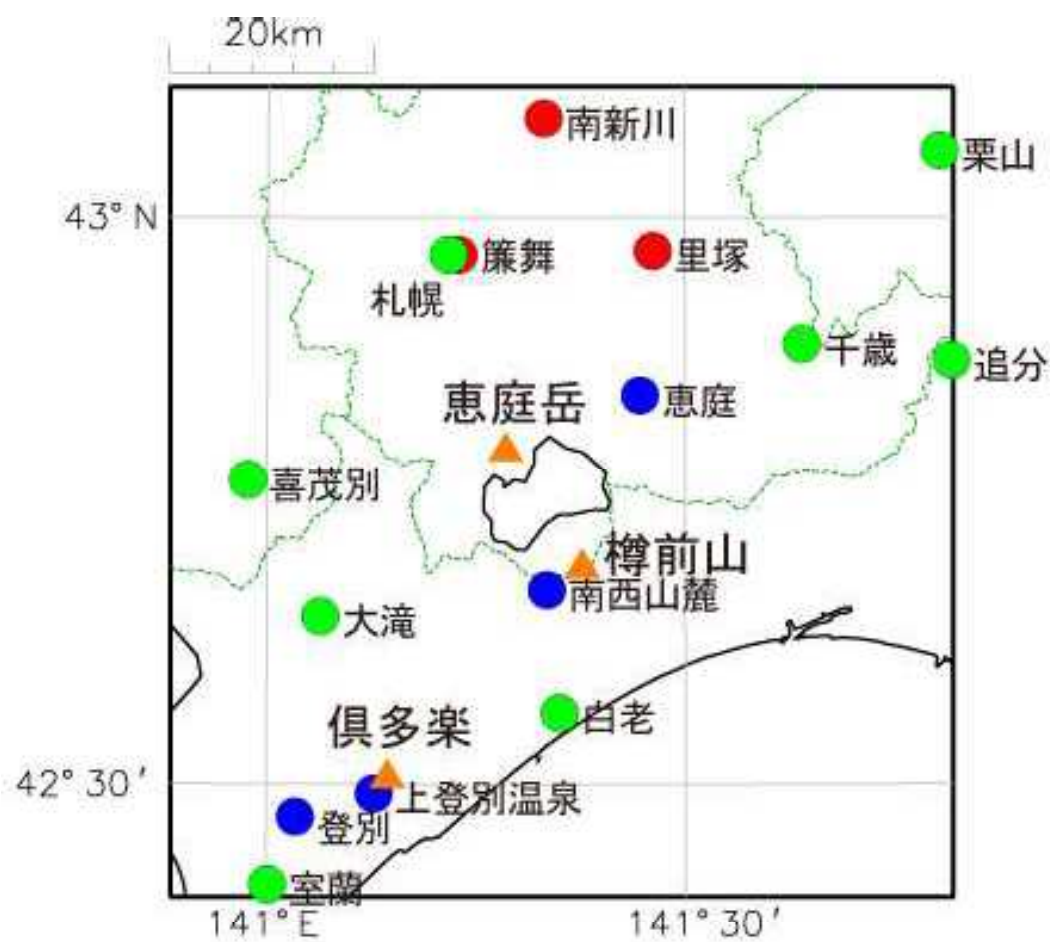
青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがあることがある。

2001年10月以降、Hi-netの追加に伴い検知力が向上している。

2010年10月以降、火山観測点の追加に伴い検知力が向上している。

この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ(標高)』を使用した。



▲ : 活火山 ● : 気象庁 ● : 北海道大学 ● : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

図 4 恵庭岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

羊 蹄 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動（図 1～図 3）

2016 年 8 月 4 日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、山頂火口周辺及び山腹に噴気及び地熱域は認められなかった。

・ 地震活動（図 4）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。



図 1 羊蹄山 周辺図と赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した



図 2 羊蹄山 山頂部の状況
図 1 中の①から撮影

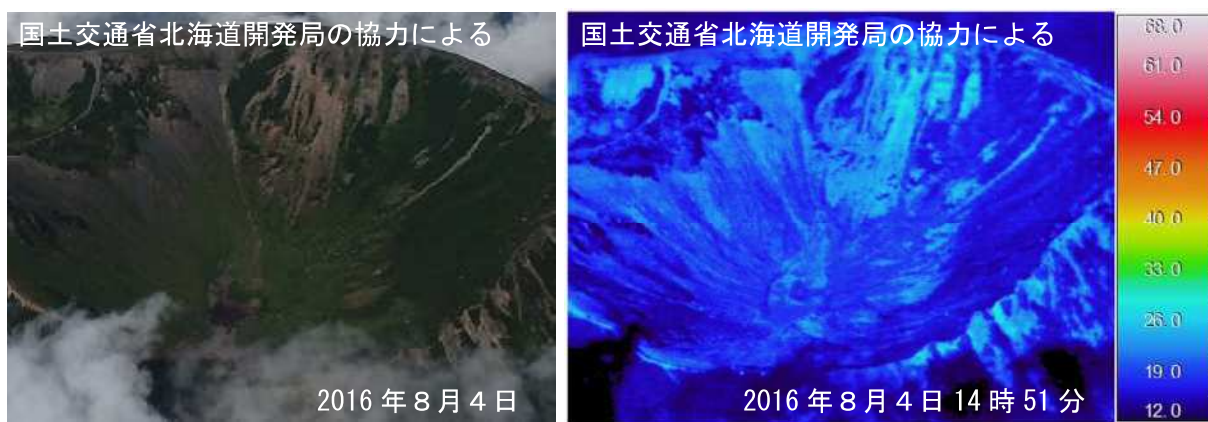


図 3 羊蹄山 赤外熱映像装置による山頂火口の地表面温度分布
図 1 中の②から撮影
・ 山頂火口周辺に地熱域は認められなかった。

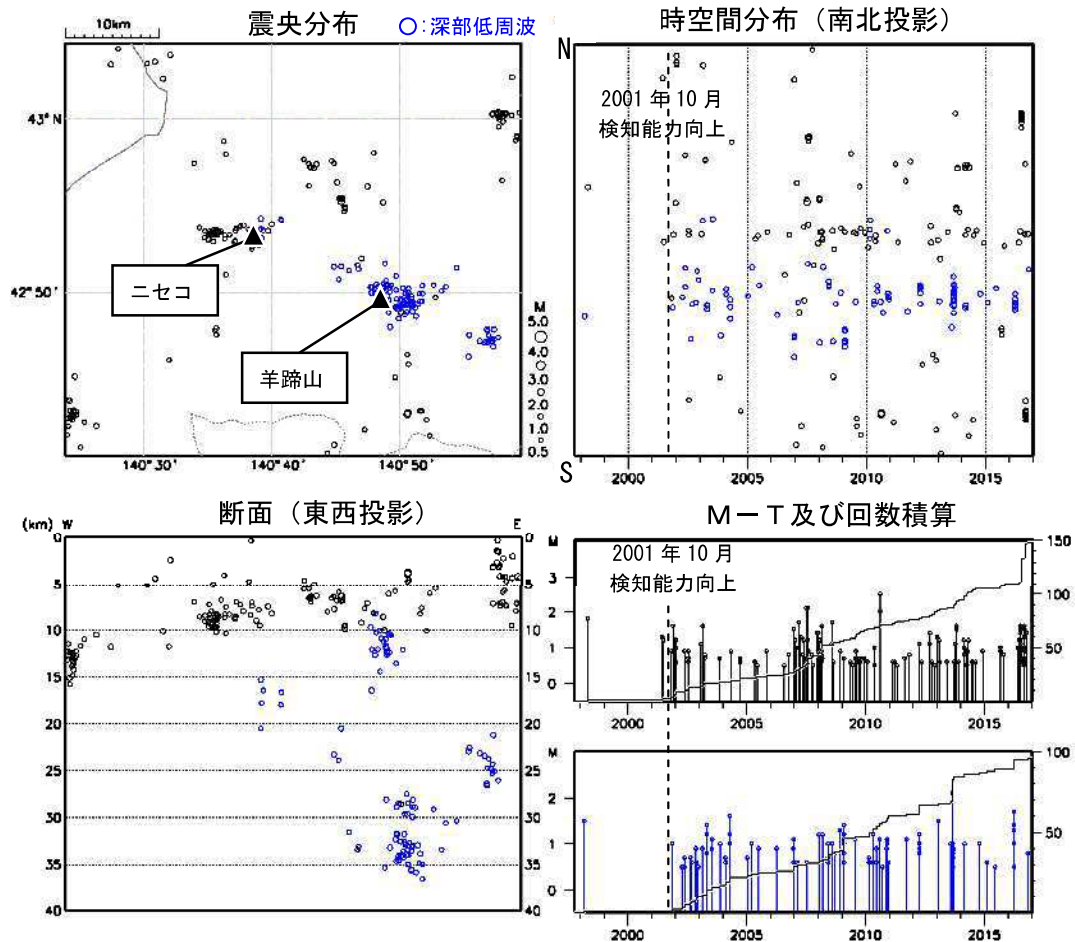


図 4 羊蹄山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動

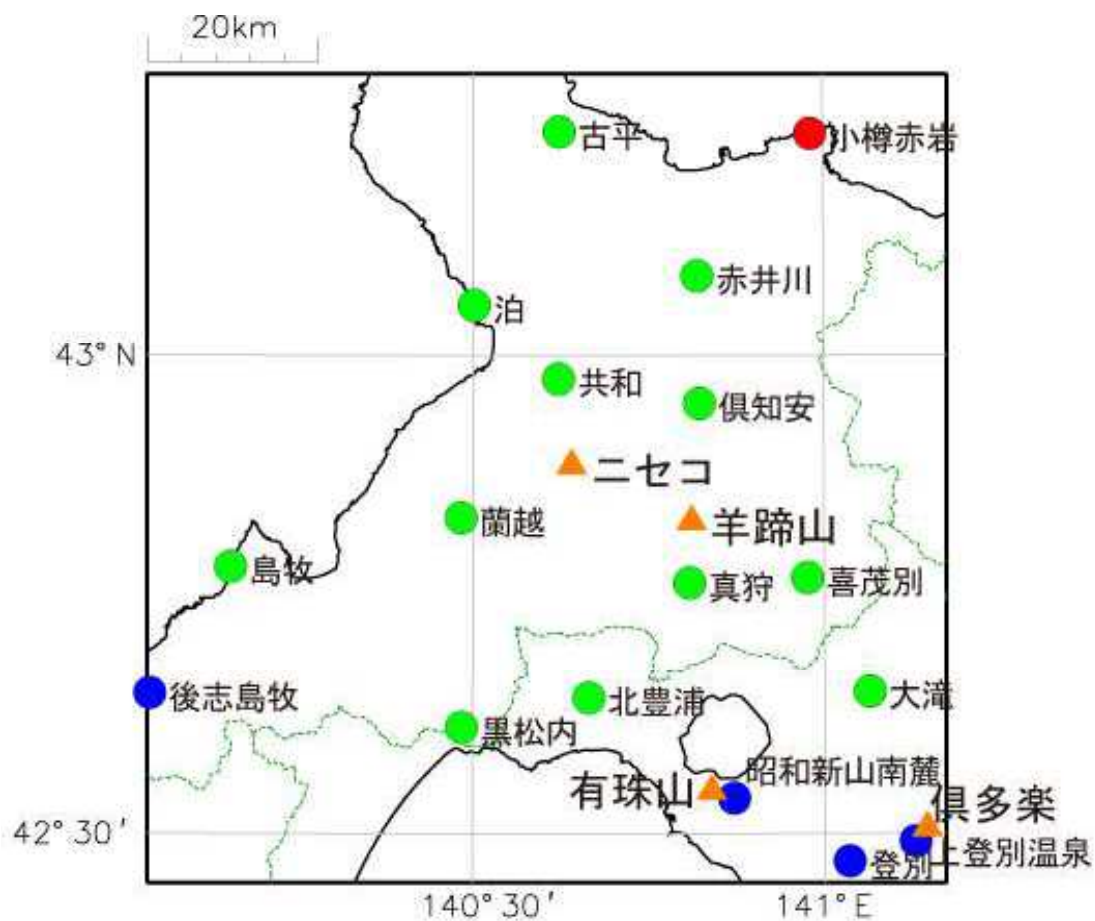
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。



▲ : 活火山 ● : 気象庁 ● : 北海道大学 ● : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

図5 羊蹄山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

ニ セ コ

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動（図 1～図 4）

2016 年 8 月 4 日に実施した上空からの観測（国土交通省北海道開発局の協力による）では、イワオヌプリ（硫黄山）山頂部や五色温泉周辺に噴気は認められず、日射の影響を上回る地熱域は認められなかった。

・ 地震活動（図 5）

山体及び周辺で発生する地震は少ない状態で経過した。

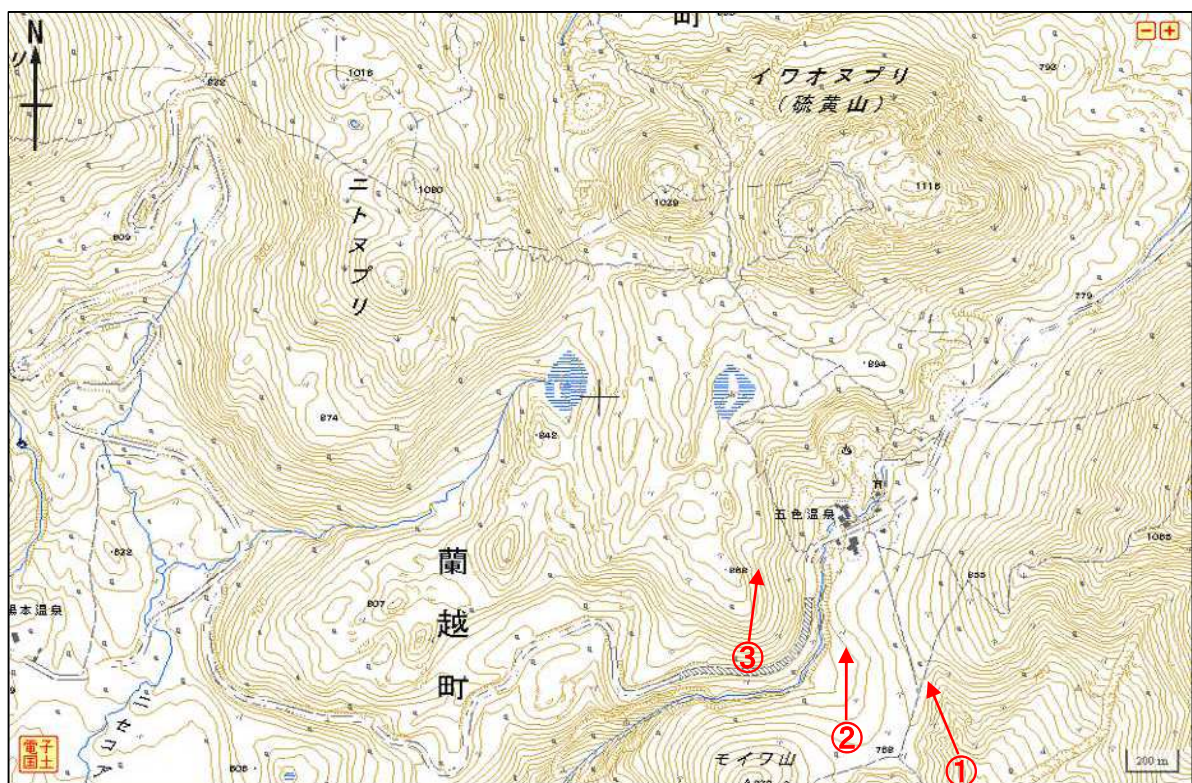


図 1 ニセコ 赤外熱映像及び写真の撮影方向（矢印）

この地図の作成には、国土地理院発行の『電子地形図（タイル）』の複製を使用した



図 2 ニセコ イワオヌプリ、五色温泉周辺の状況
図 1 中の①から撮影



図 3 ニセコ 赤外熱映像装置による五色温泉周辺の地表面温度分布
図 1 中の②から撮影
・日射の影響を上回る地熱域は認められなかった。

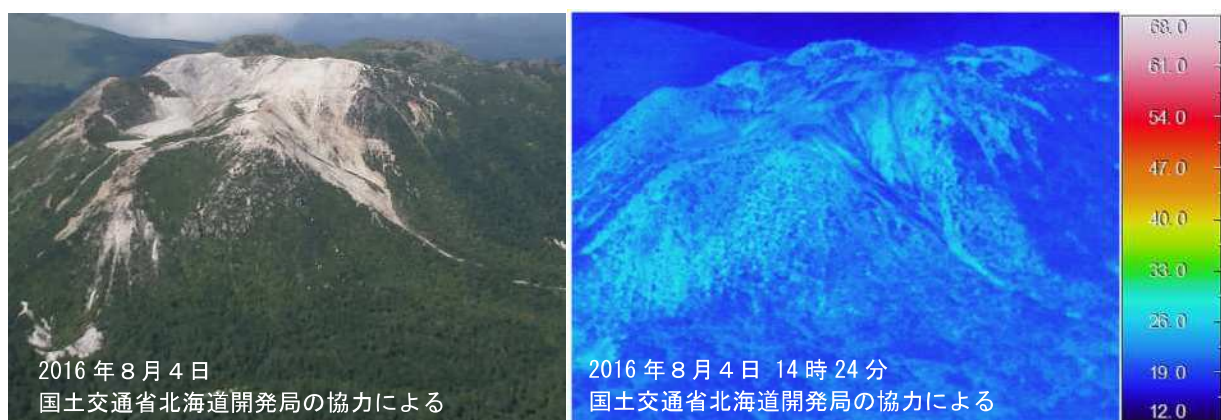


図 4 ニセコ 赤外熱映像装置によるイワオヌプリ山頂部の地表面温度分布
図 1 中の③から撮影
・日射の影響を上回る地熱域は認められなかった。

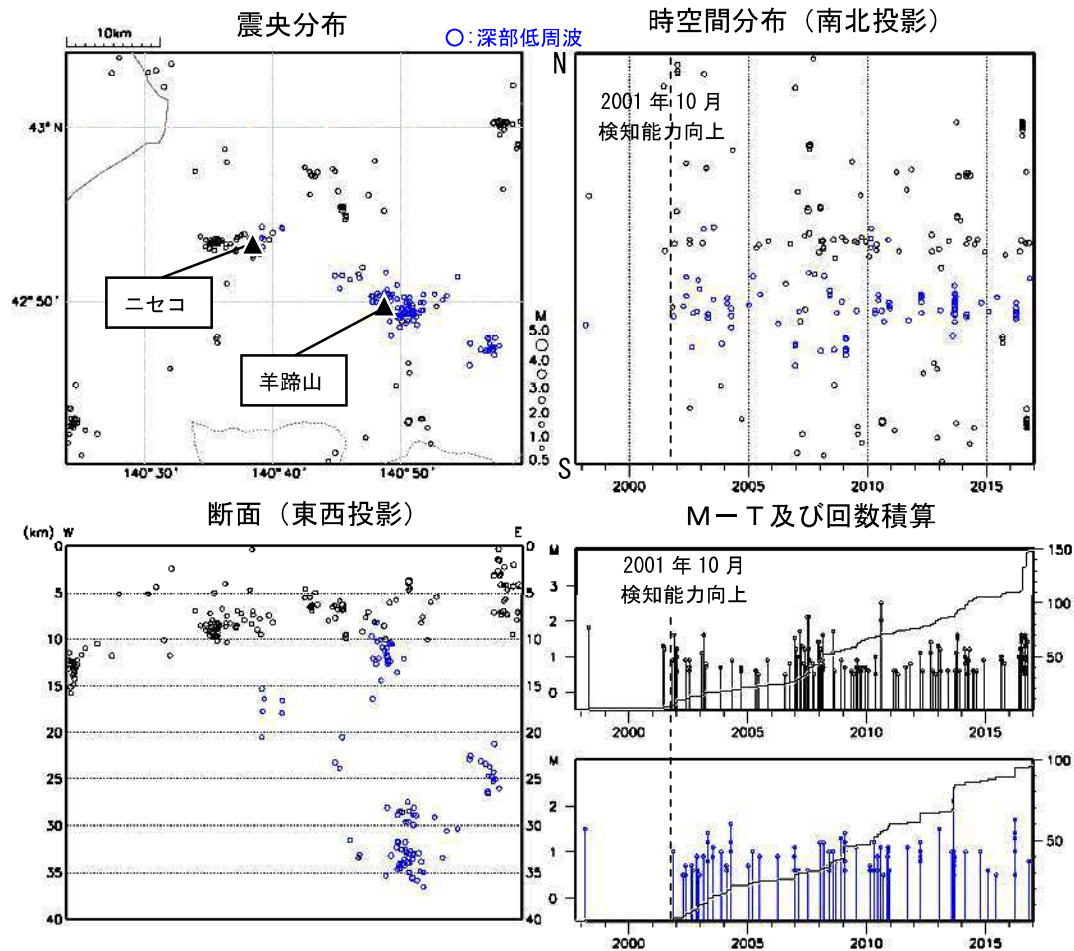


図 5 ニセコ 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 0.5$ 、深さ 40km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがあることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この地図の作成には国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

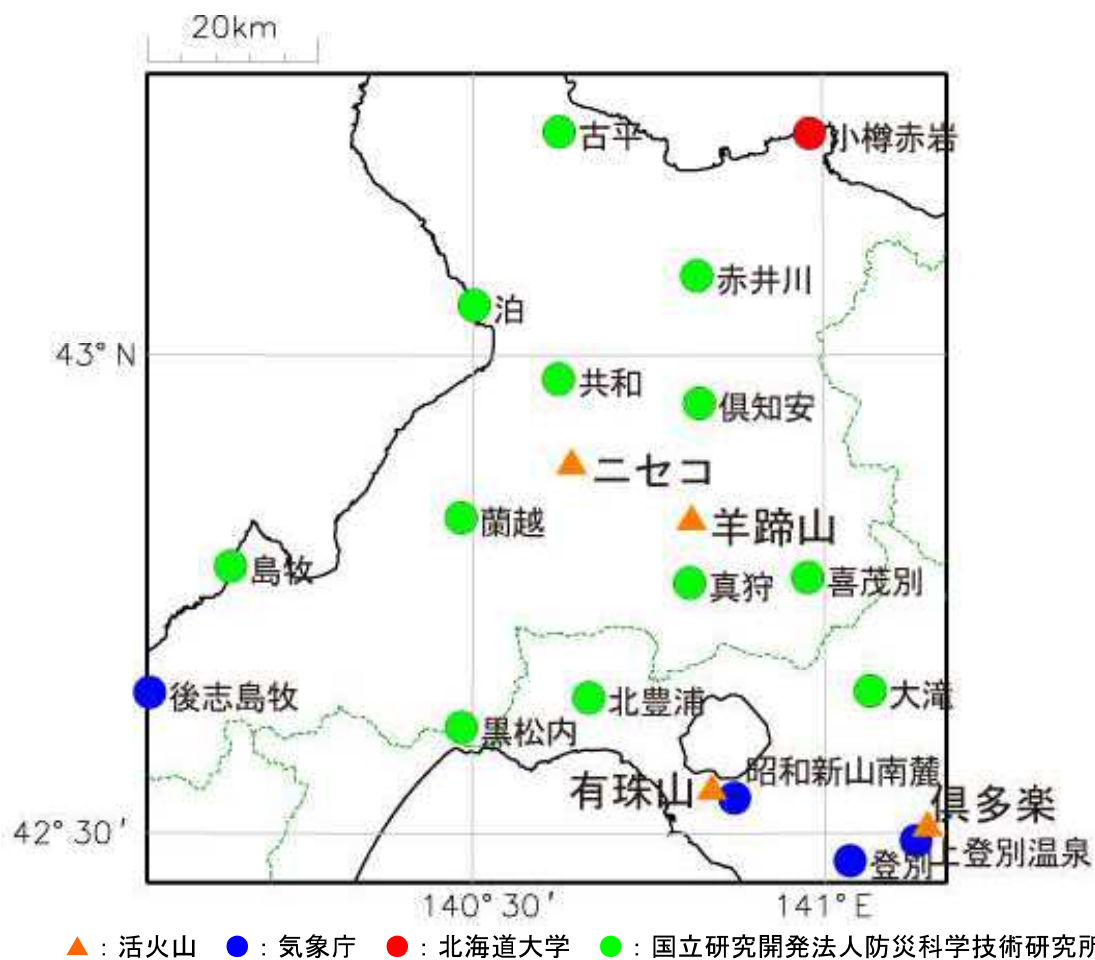


図 6 ニセコ 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

渡 島 大 島

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

・ 表面活動

渡島大島に関して異常現象等の報告はされていない。

・ 地震活動（図 1）

山体を震源とする地震は発生していない。

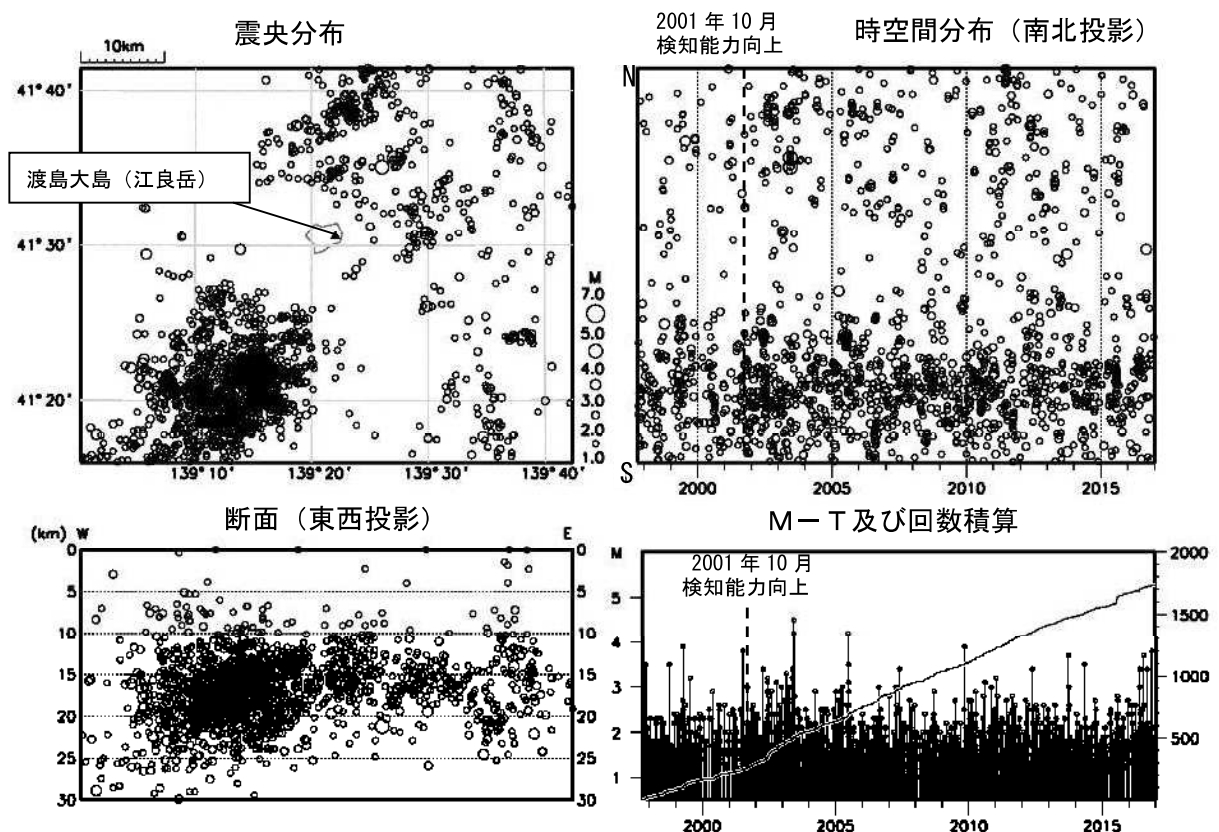


図 1 渡島大島 一元化震源による周辺の地震活動

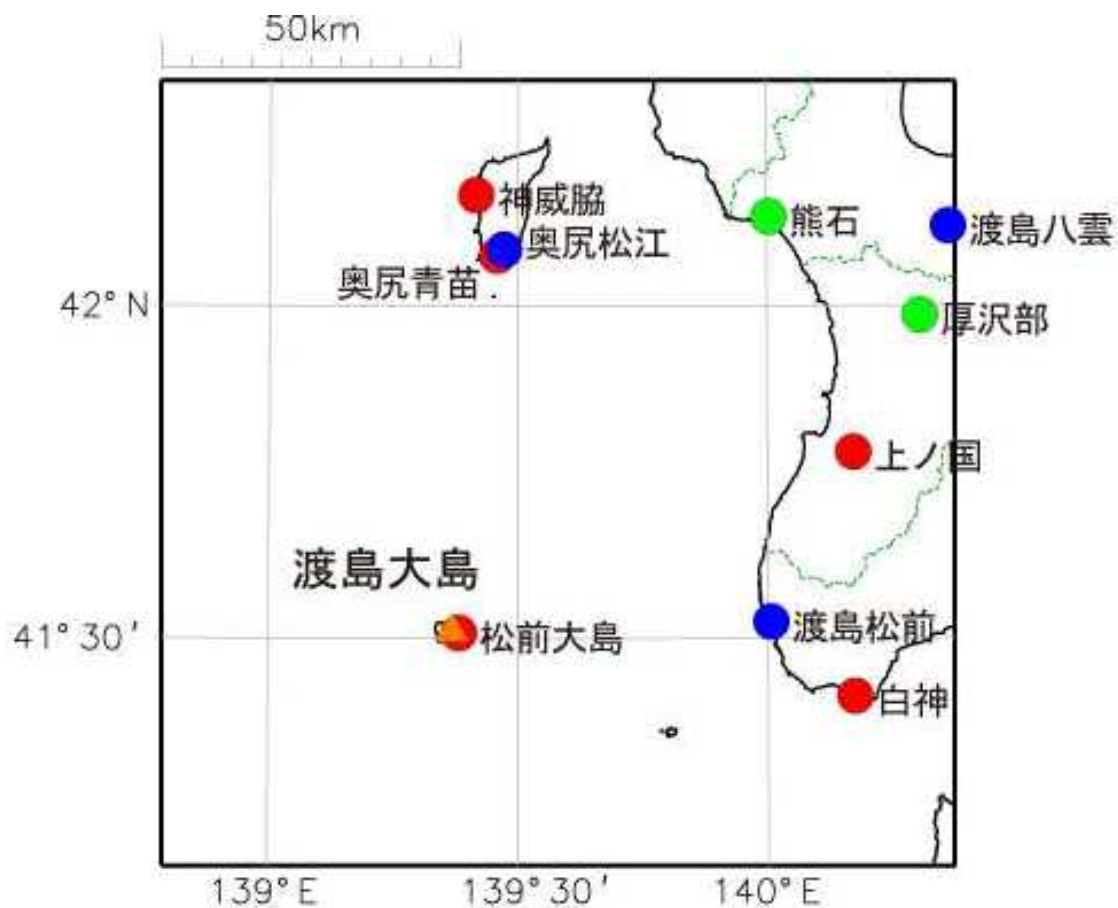
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 30km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知能力が向上している。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



▲ : 活火山 ● : 気象庁 ● : 北海道大学 ● : 国立研究開発法人防災科学技術研究所

図 2 渡島大島 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

茂 世 路 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

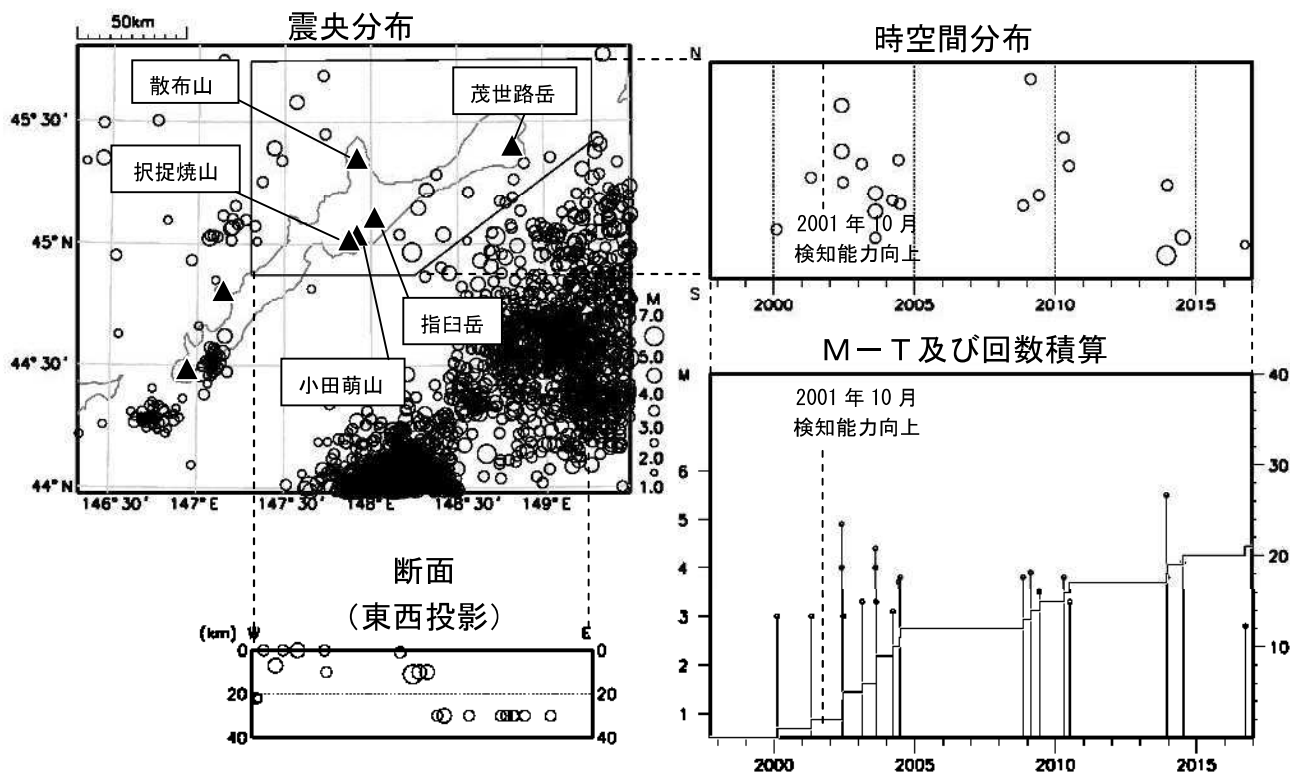


図 1 茂世路岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 (行政界・海岸線)」を使用した。

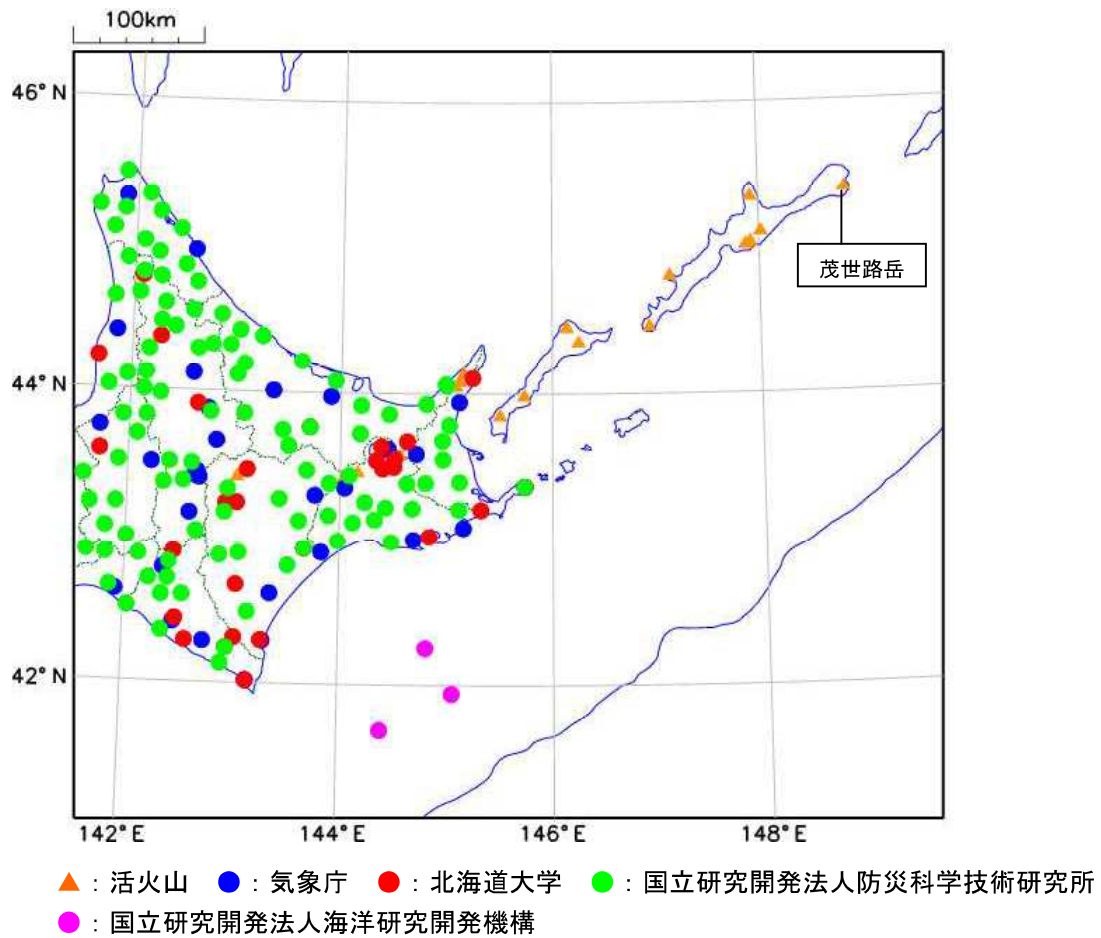


図 2 茂世路岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

散布山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。

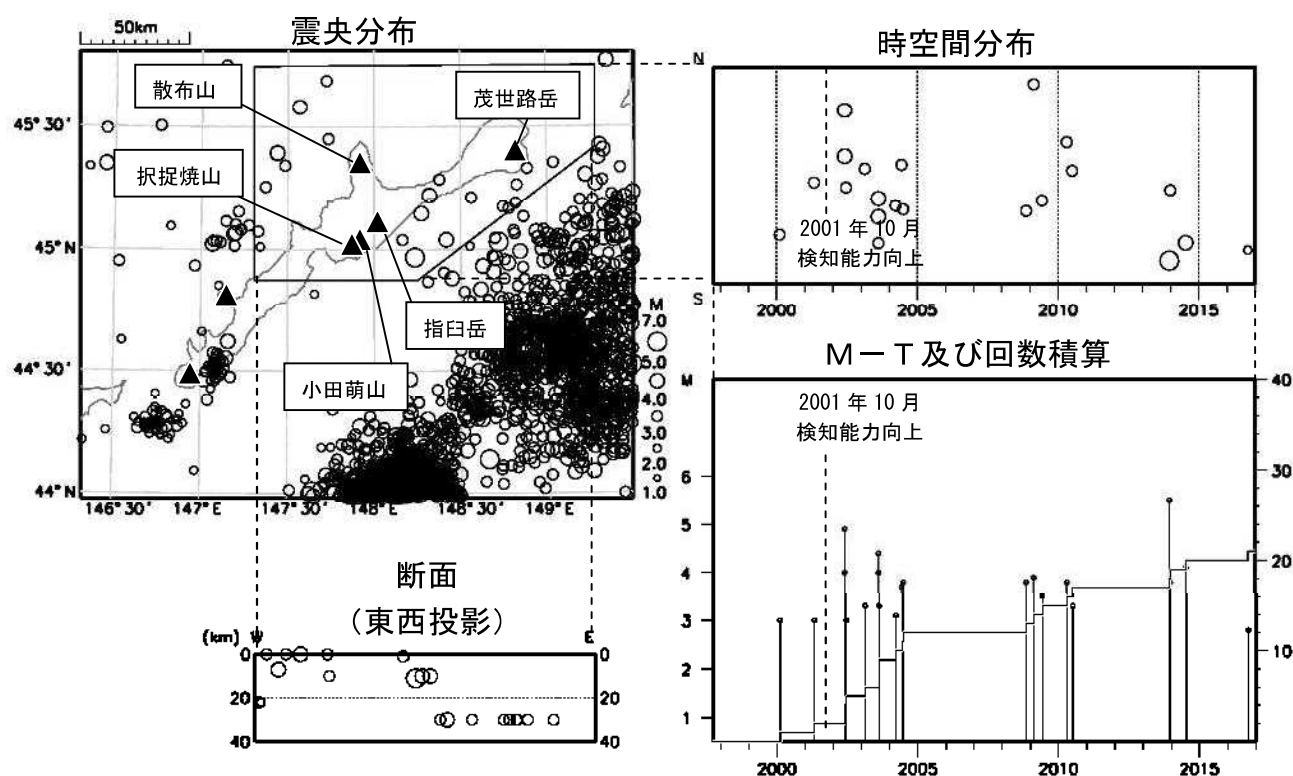


図 1 散布山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

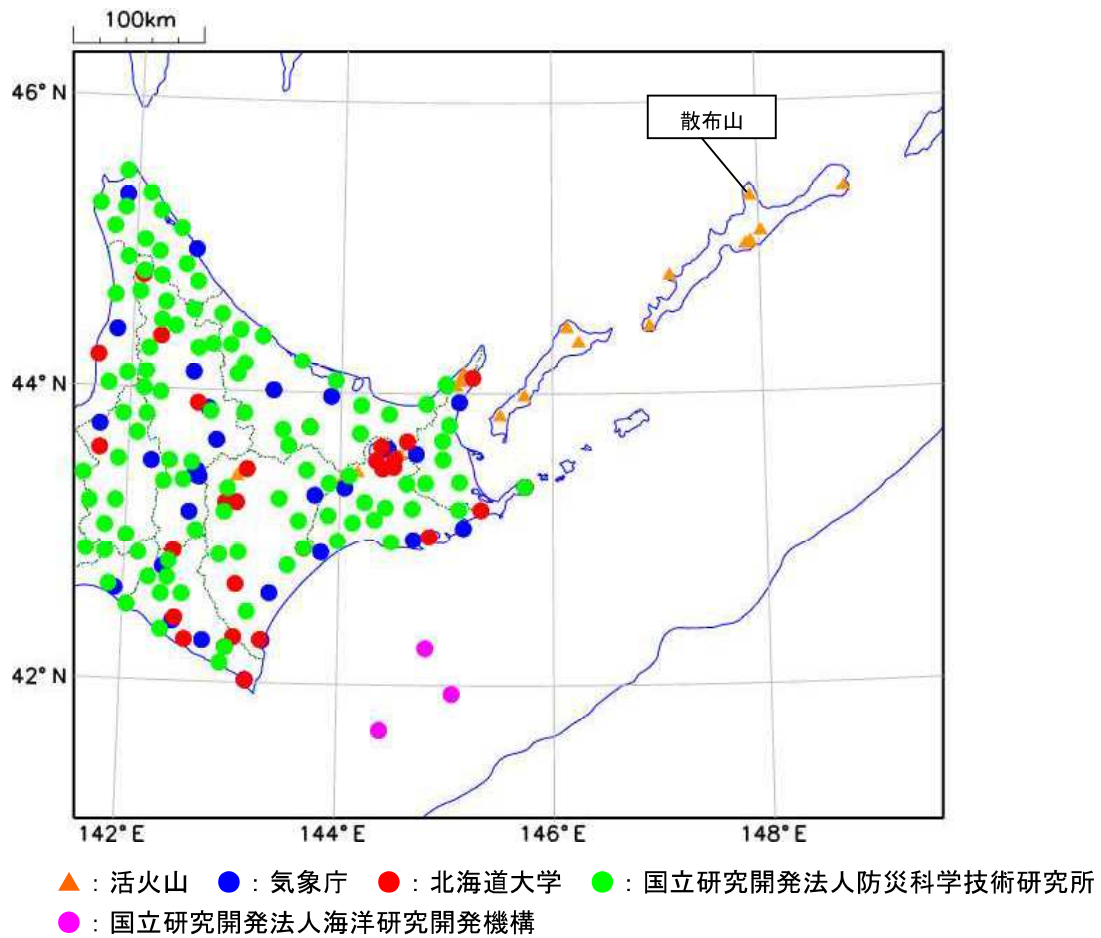


図 2 散布山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

指 臼 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。

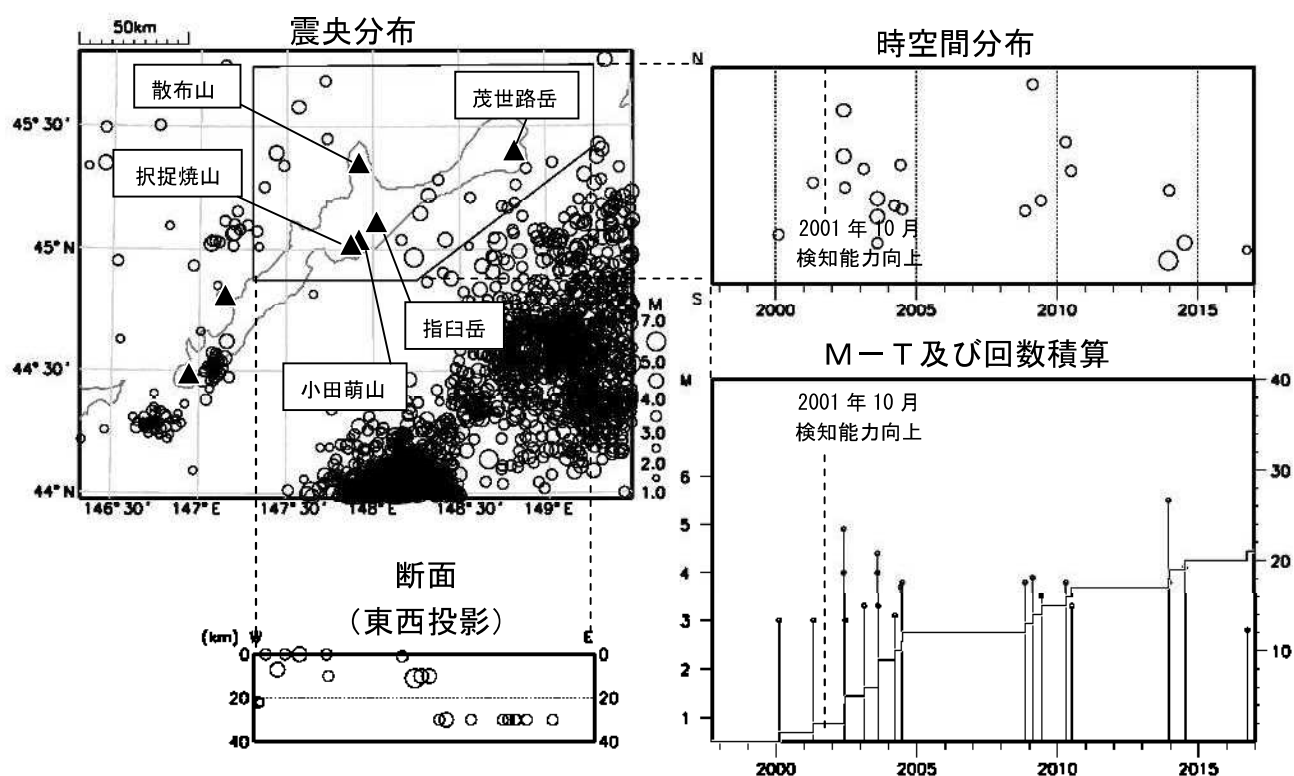


図 1 指臼岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 (行政界・海岸線)」を使用した。

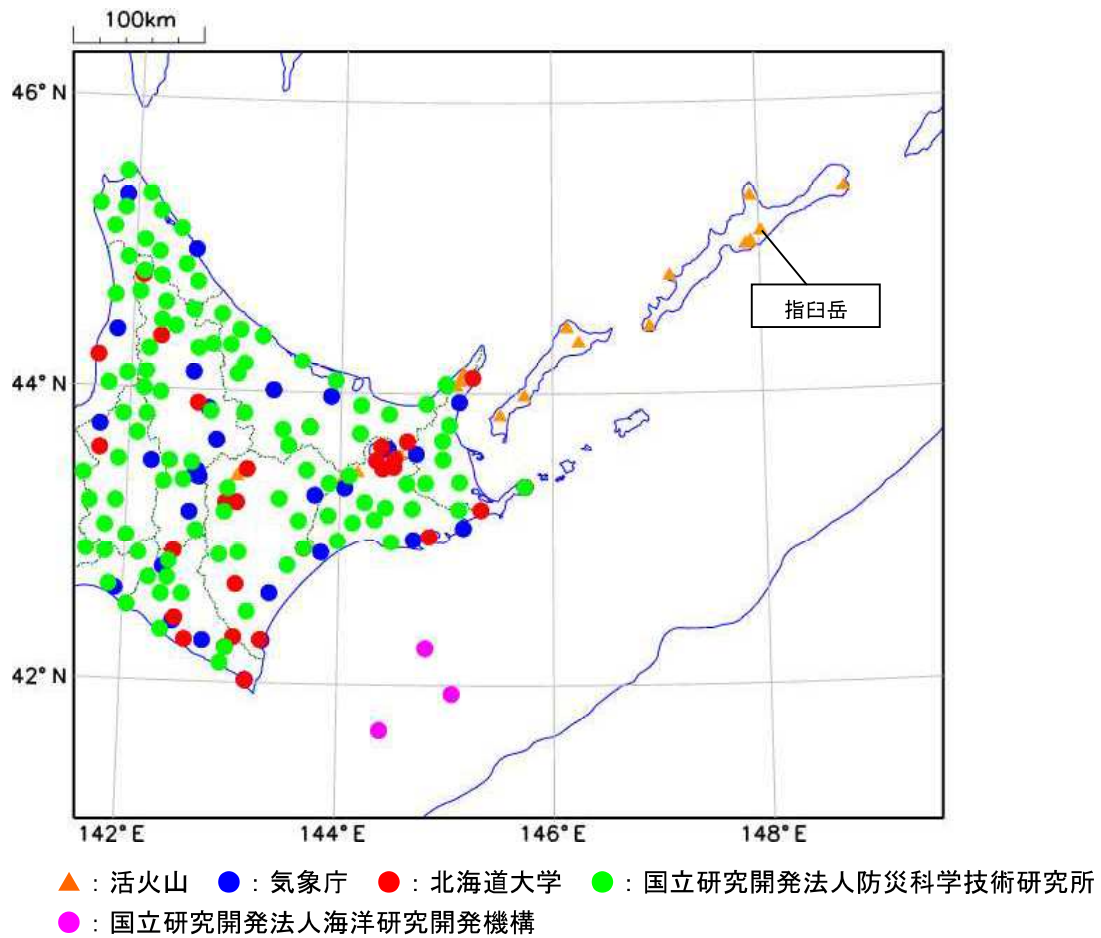


図 2 指臼岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

小 田 萌 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。

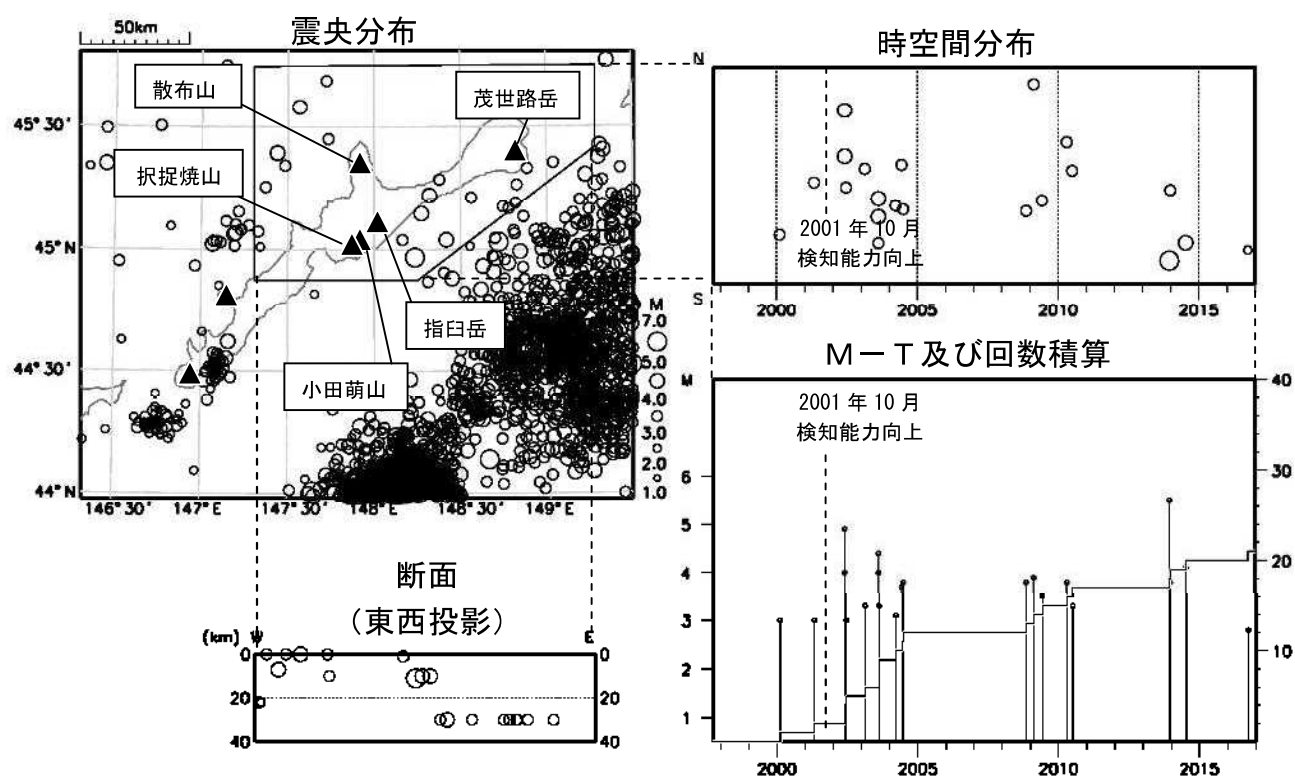


図 1 小田萌山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

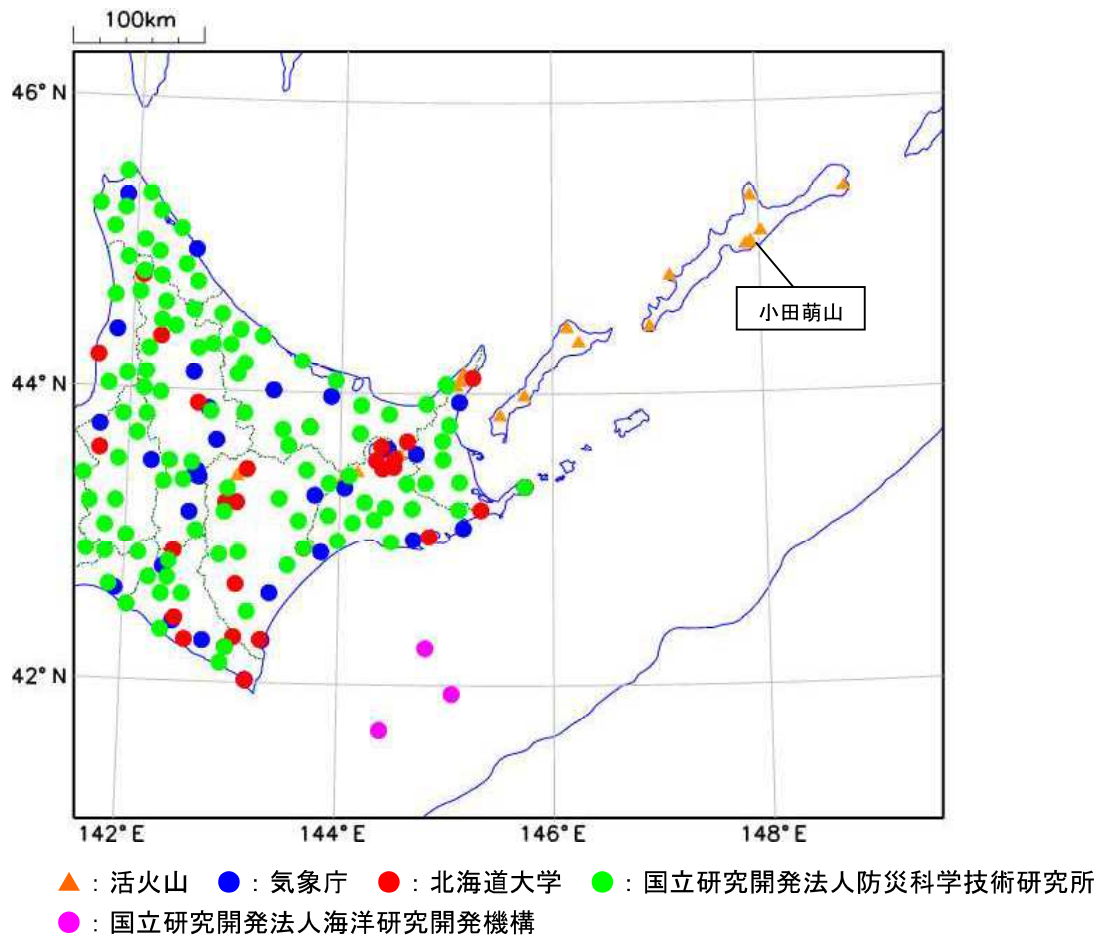


図 2 小田萌山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

択捉焼山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

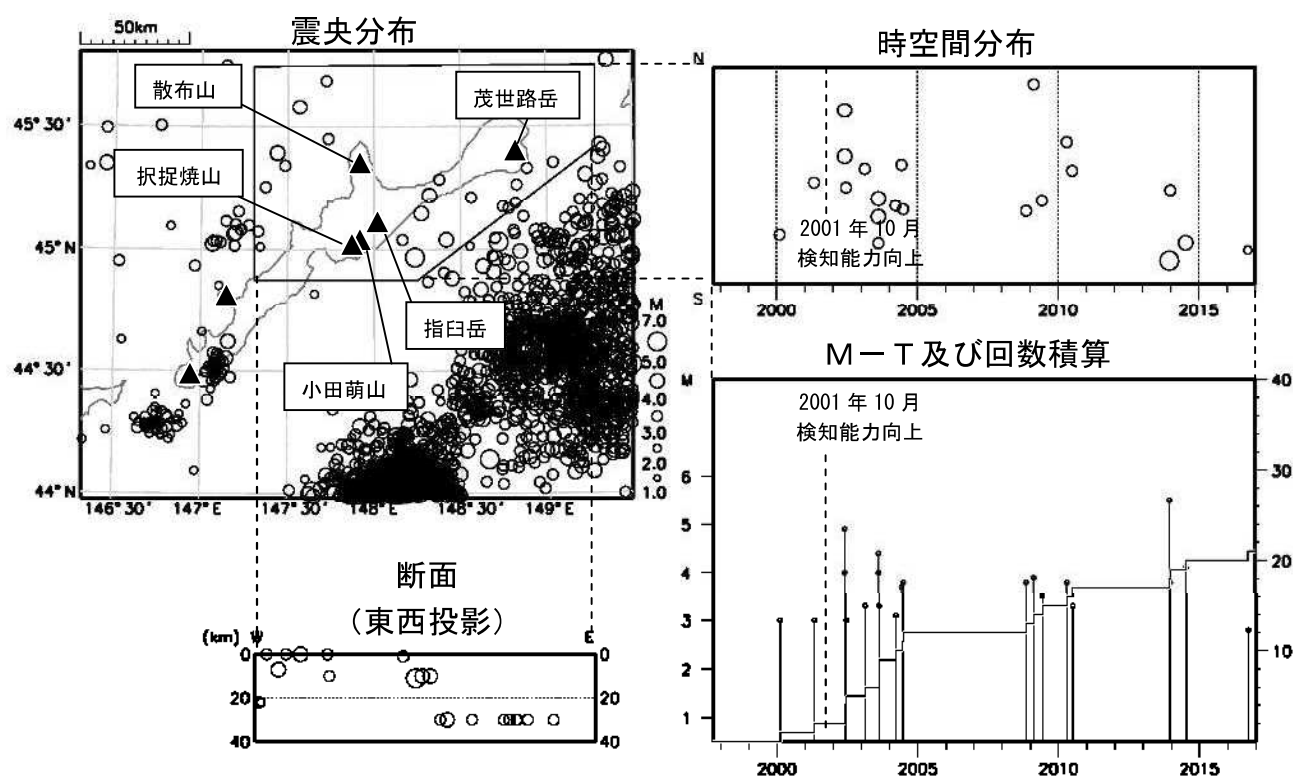


図 1 択捉焼山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

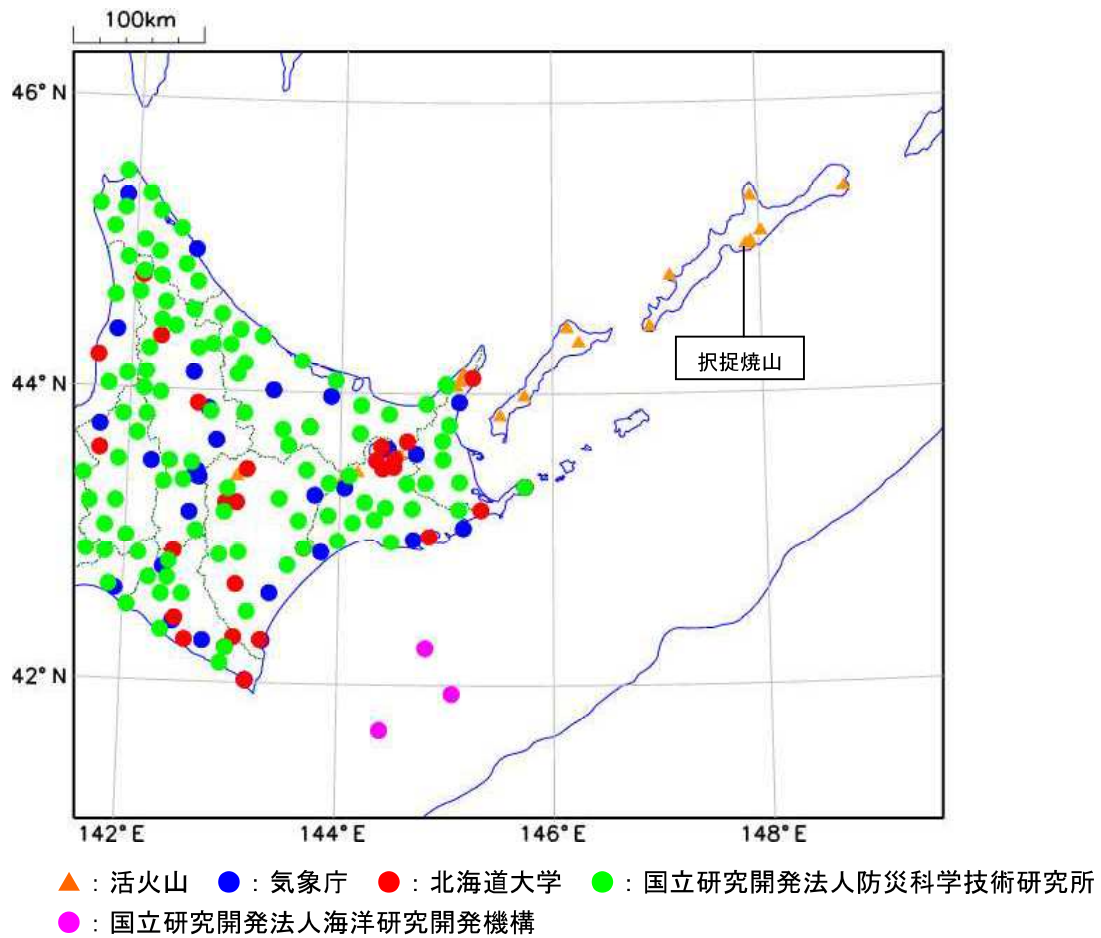


図 2 択捉焼山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

択捉阿登佐岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

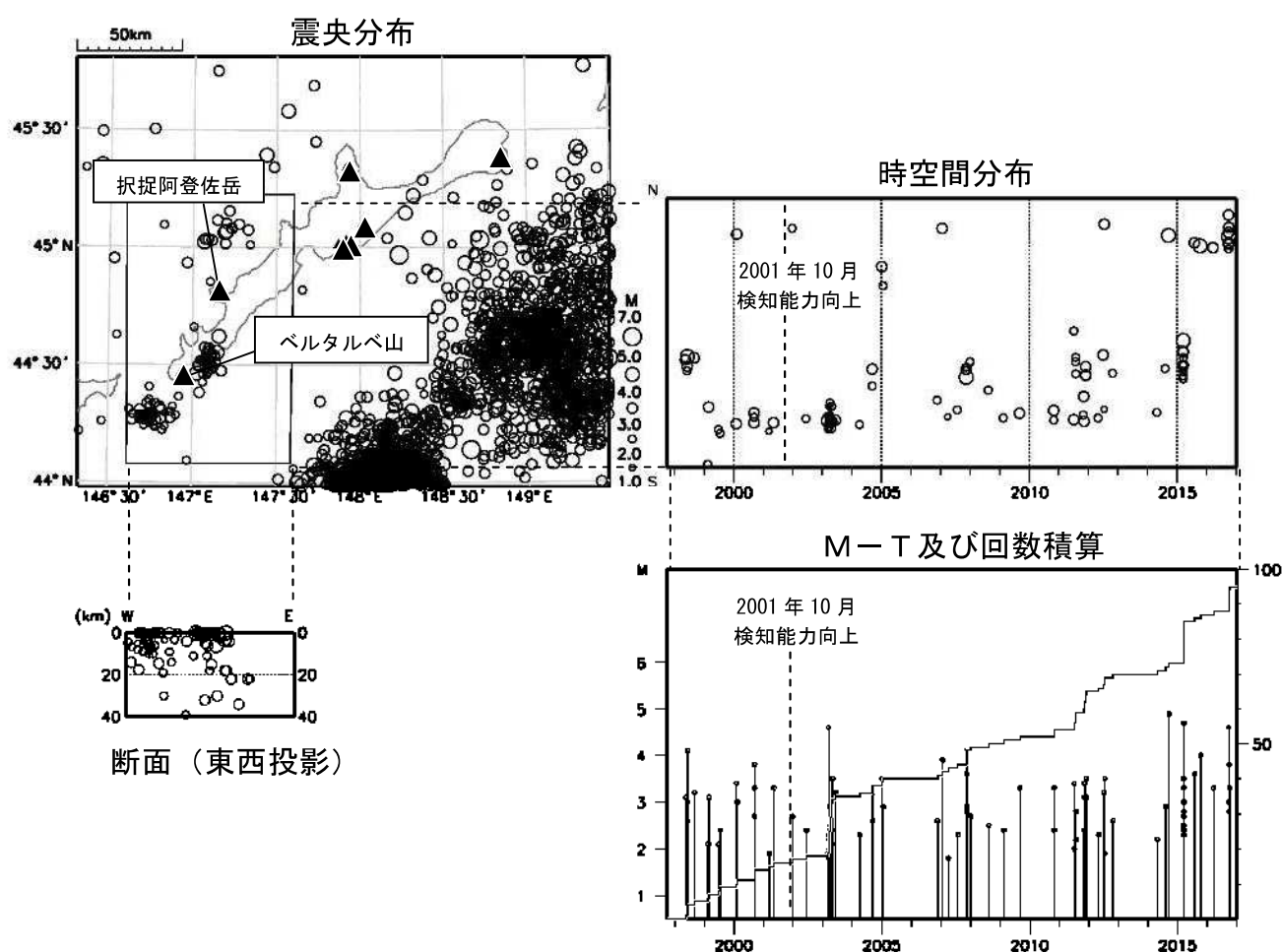


図 1 択捉阿登佐岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

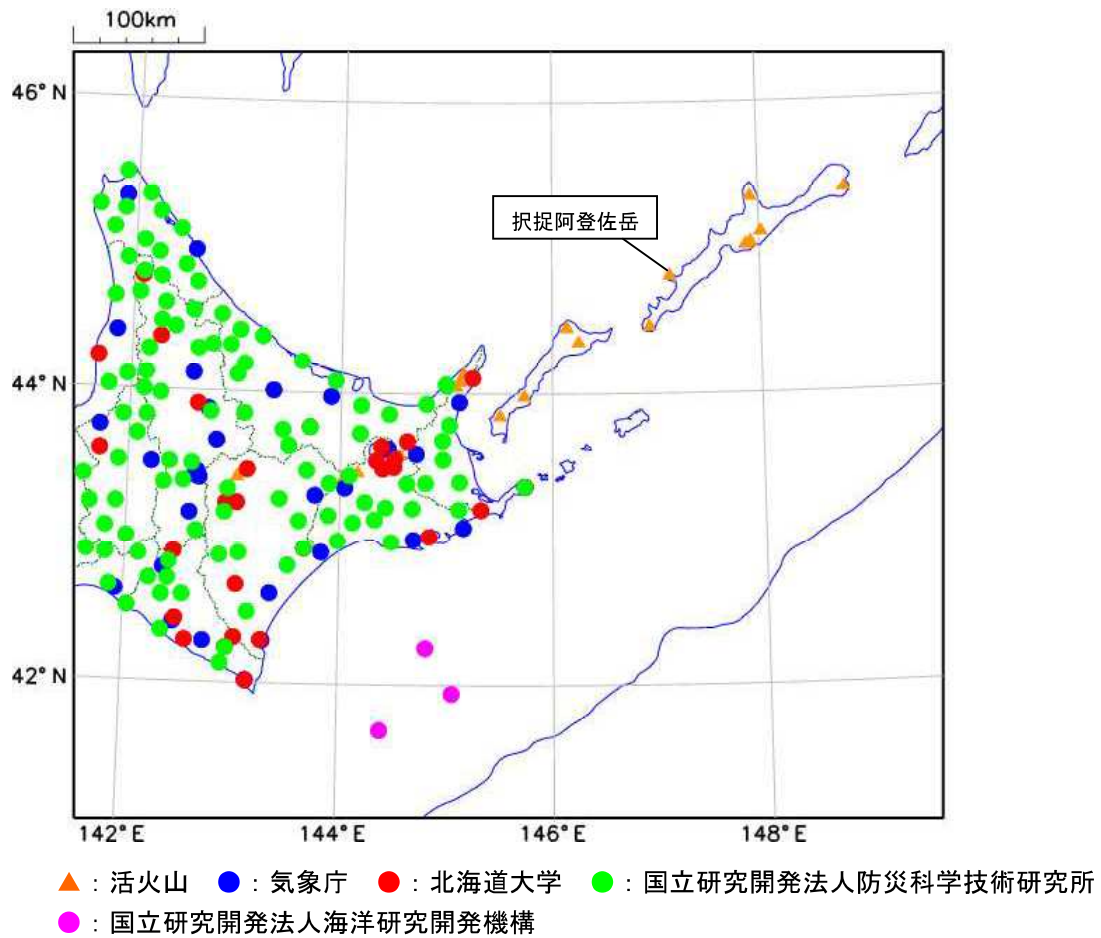


図 2 択捉阿登佐岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

ベルタルベ山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

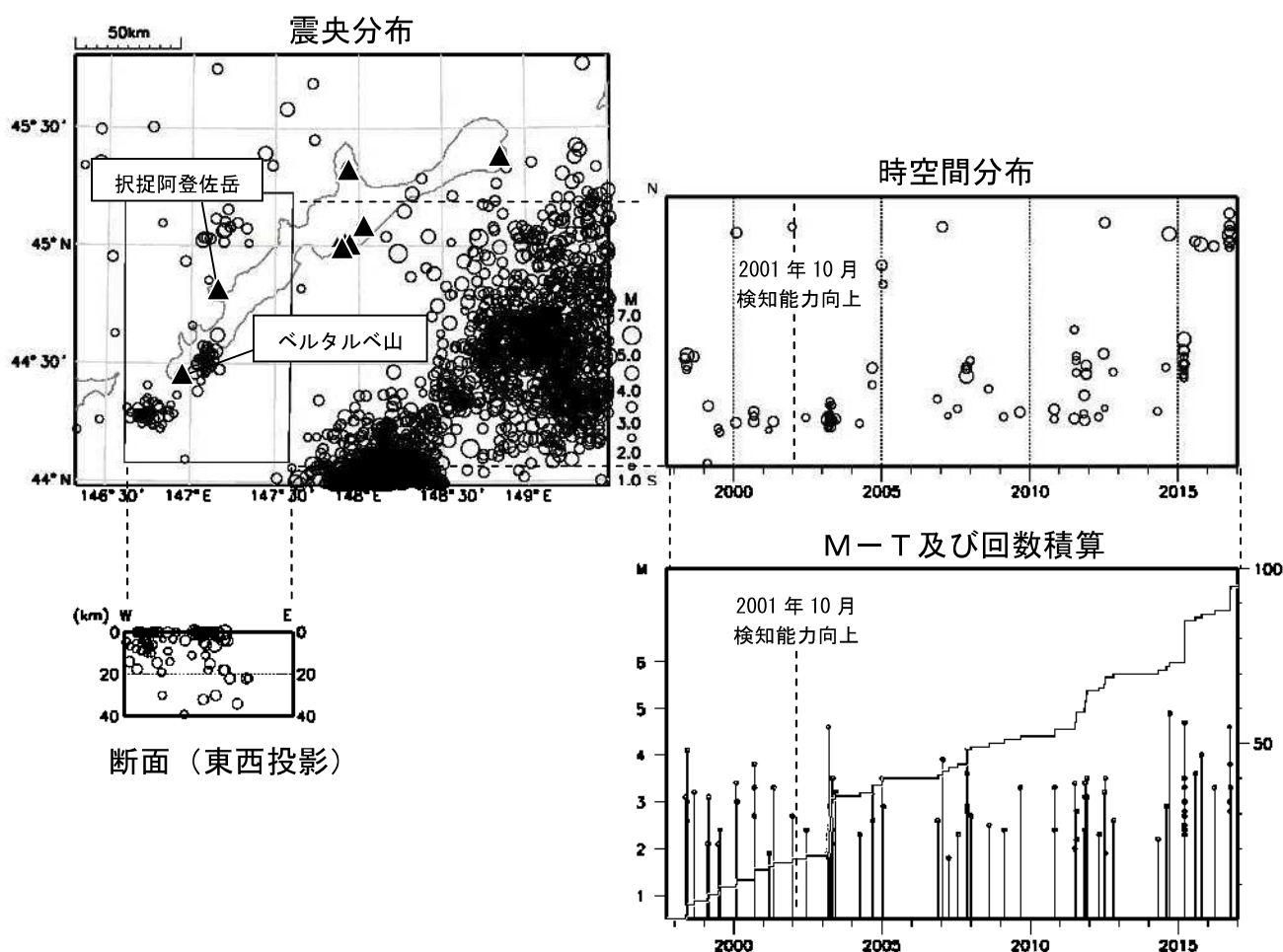


図 1 ベルタルベ山 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

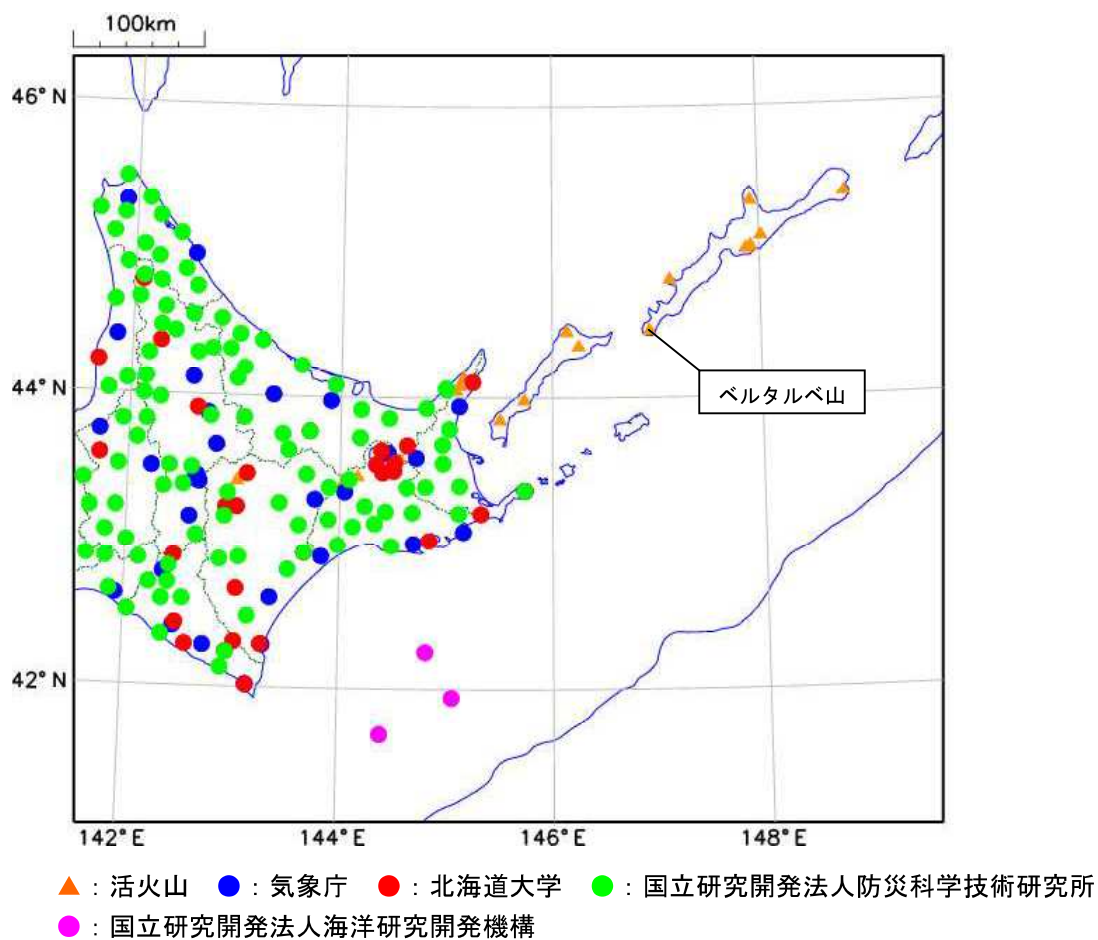


図 2 ベルタルペ山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

ル ル イ 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

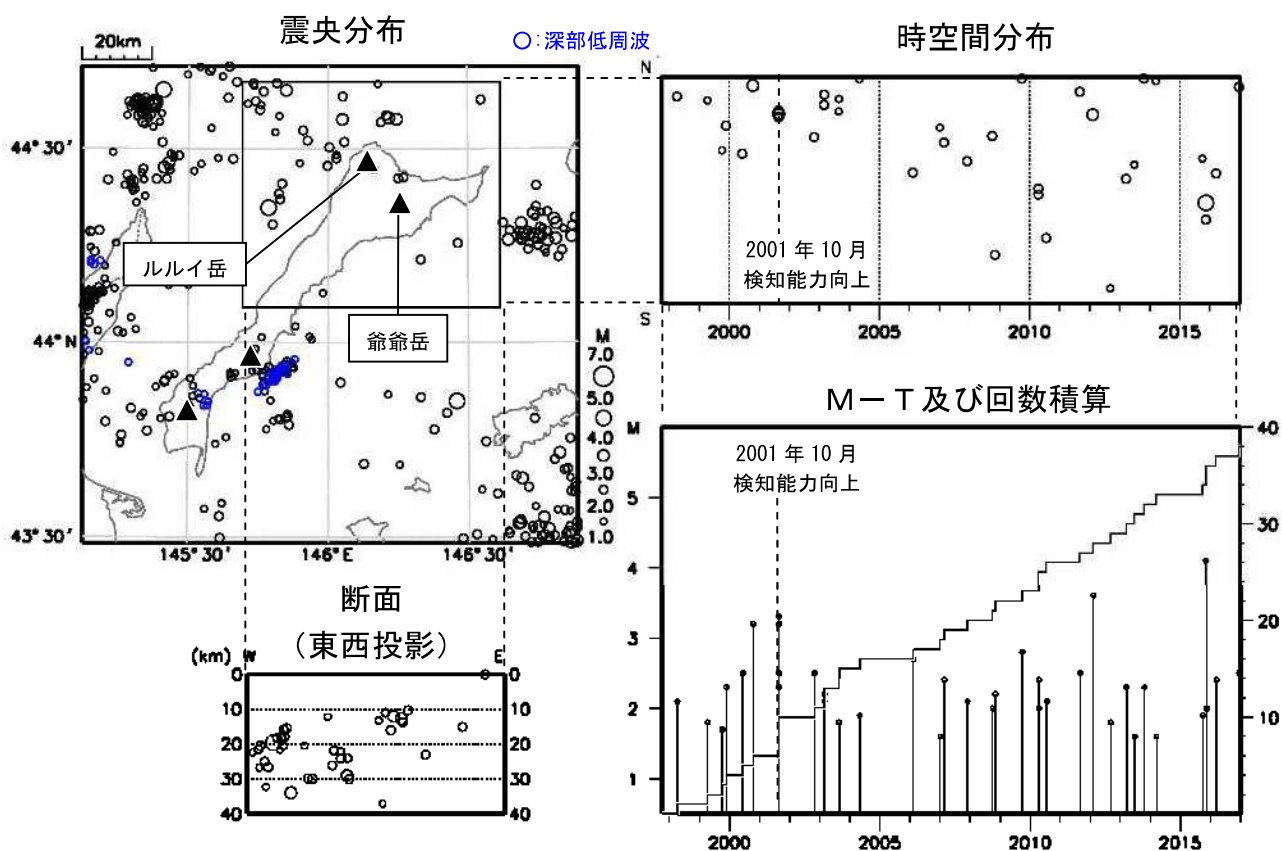


図 1 ルルイ岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000 (行政界・海岸線)」を使用した。

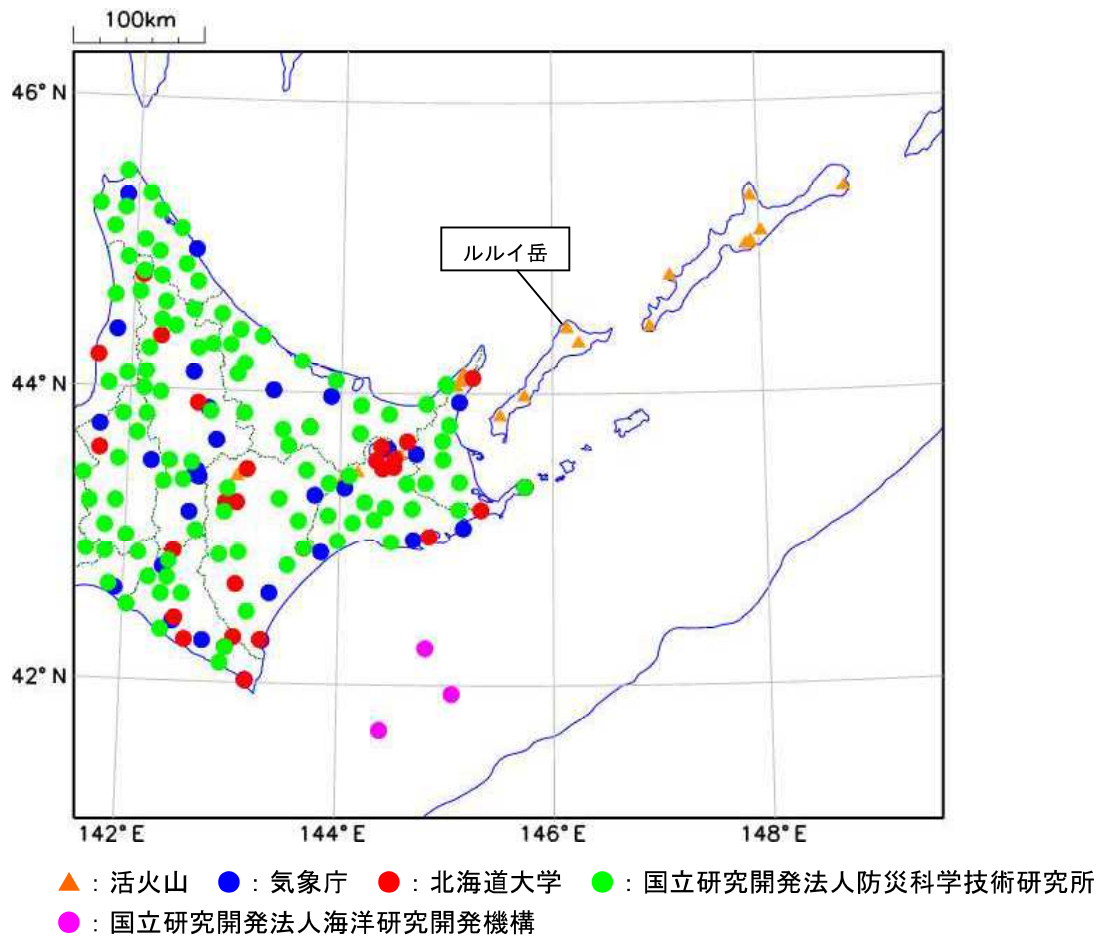


図 2 ルルイ岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

爺 爺 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星(MTSAT-2 及び Himawari-8)で検知できるような噴煙は観測されていない。

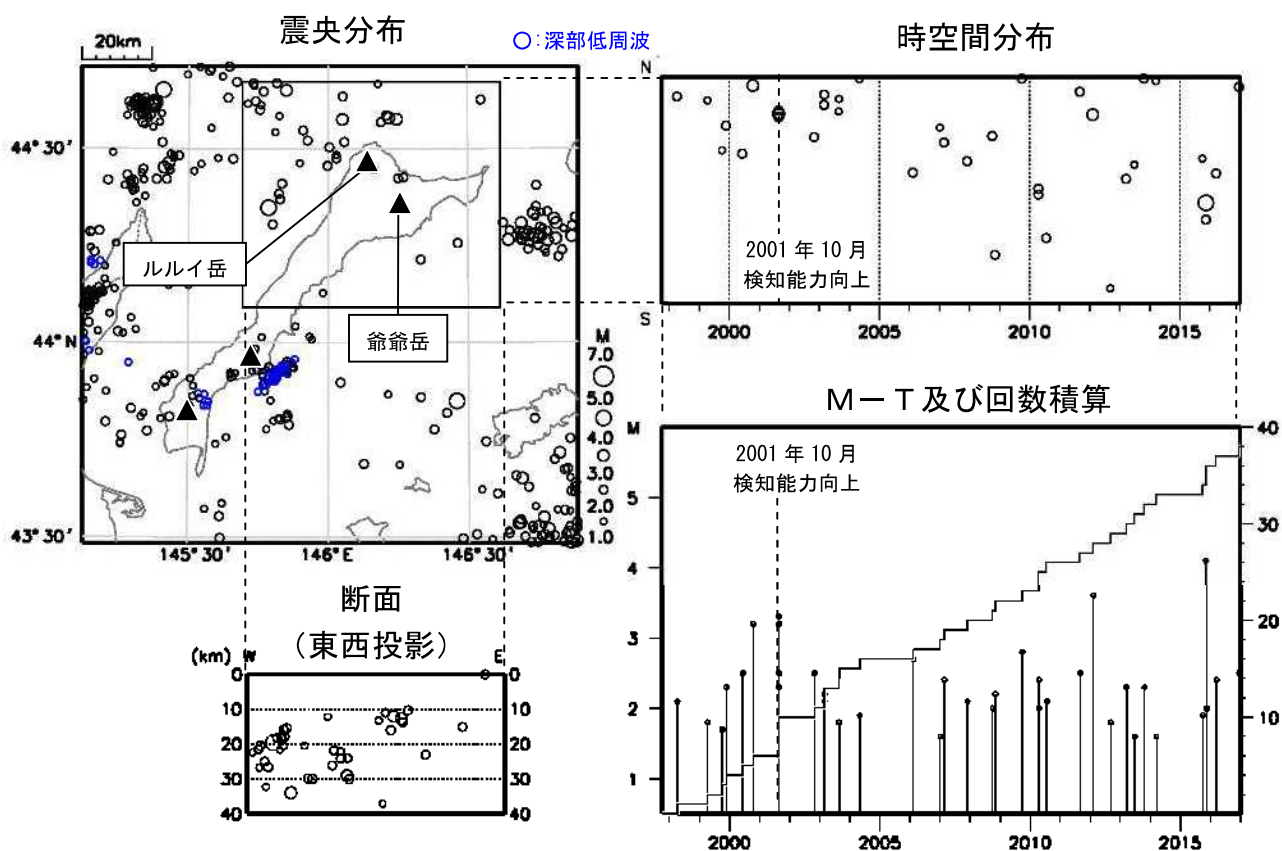


図 1 爺爺岳 一元化震源による周辺の地震活動

(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

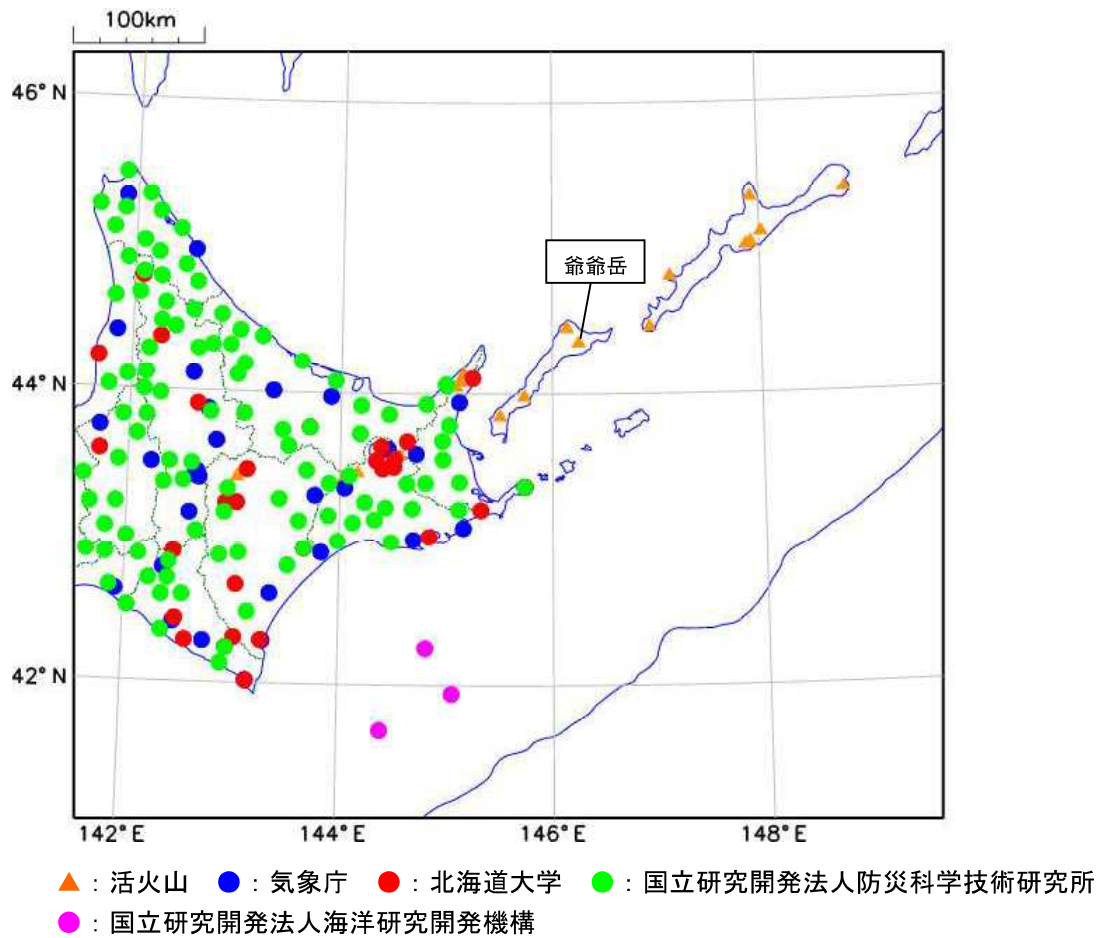


図 2 爺爺岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

羅 臼 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

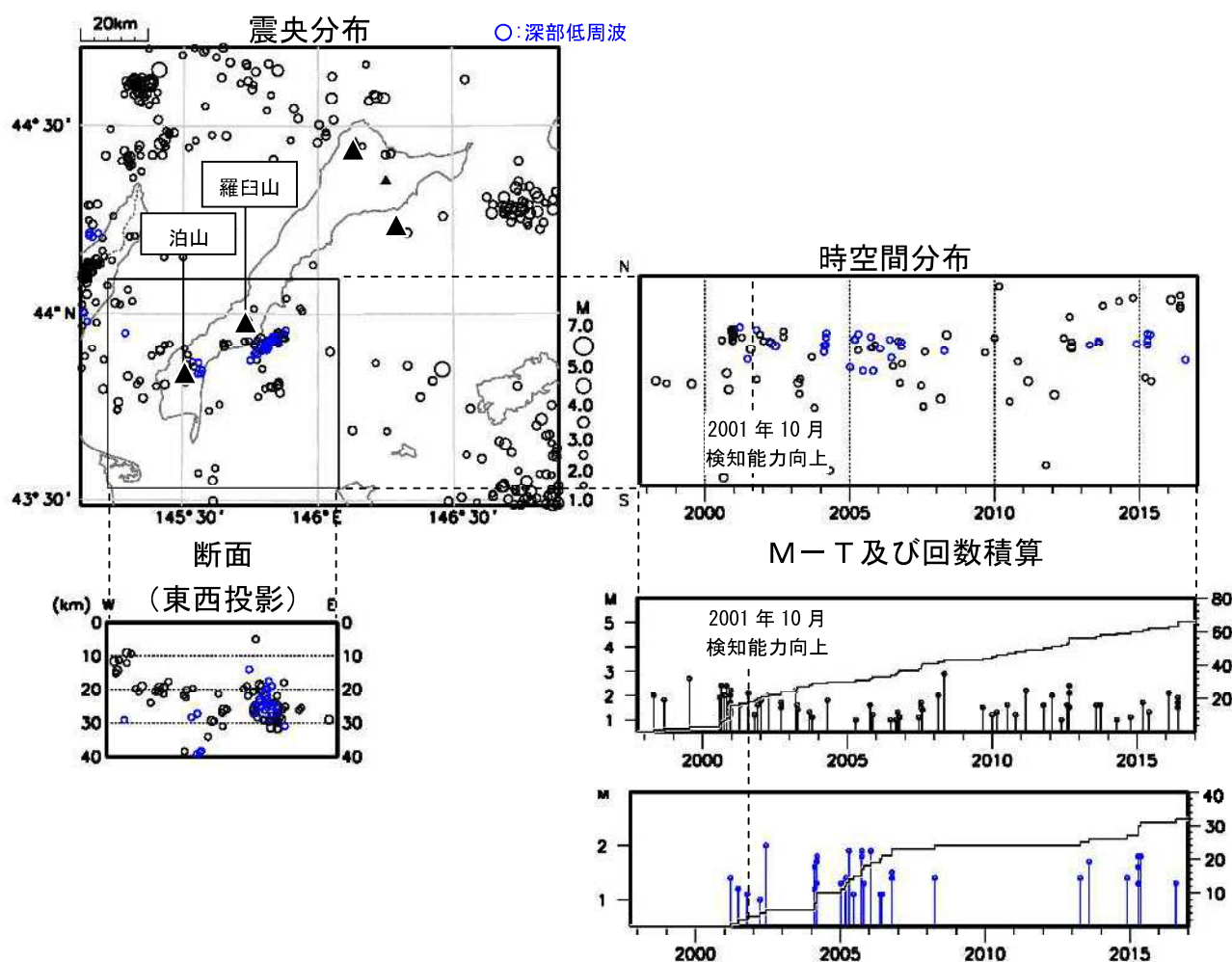


図 1 羅臼山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがあることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

この資料は気象庁のほか、北海道大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、国立研究開発法人海洋研究開発機構のデータを利用して作成した。

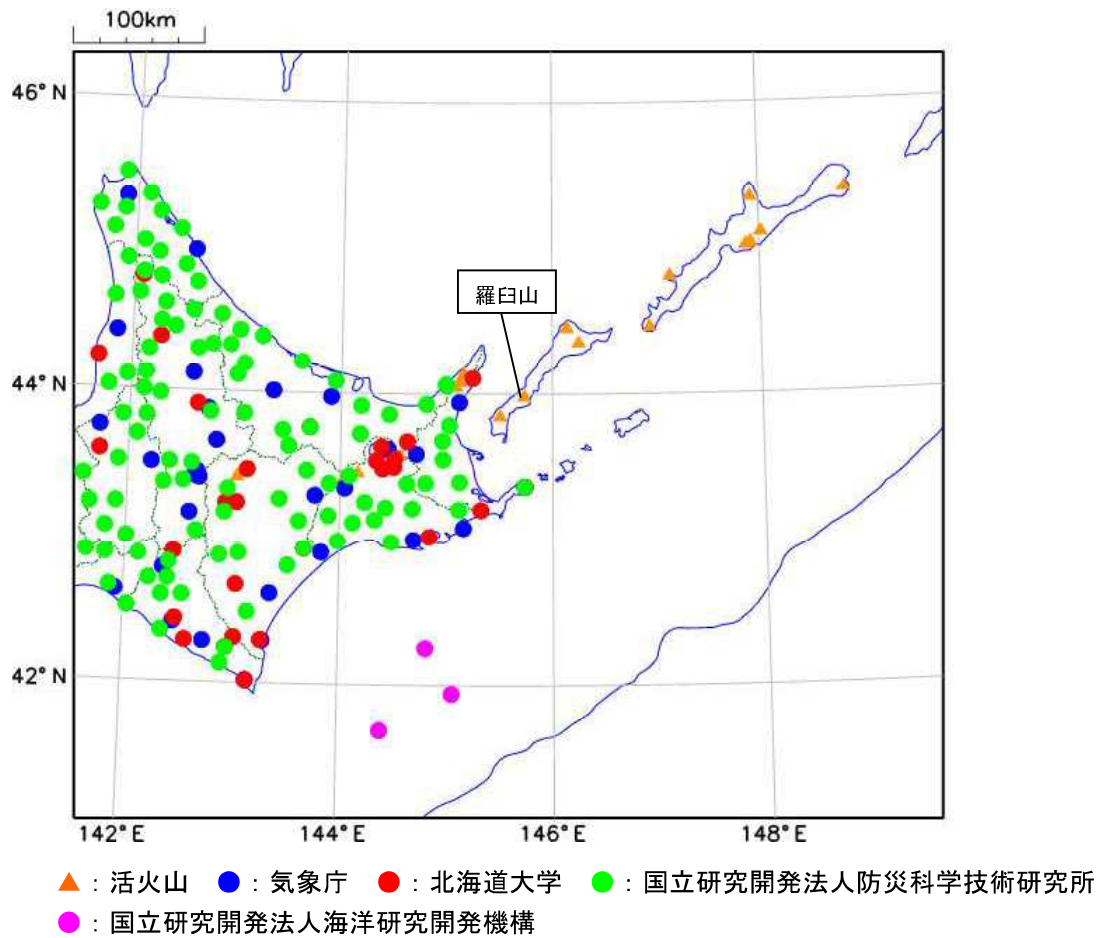


図 2 羅臼山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

泊 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候はみられない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～2016 年 12 月 31 日）

山体周辺で目立った地震活動はみられない。

気象衛星 (MTSAT-2 及び Himawari-8) で検知できるような噴煙は観測されていない。

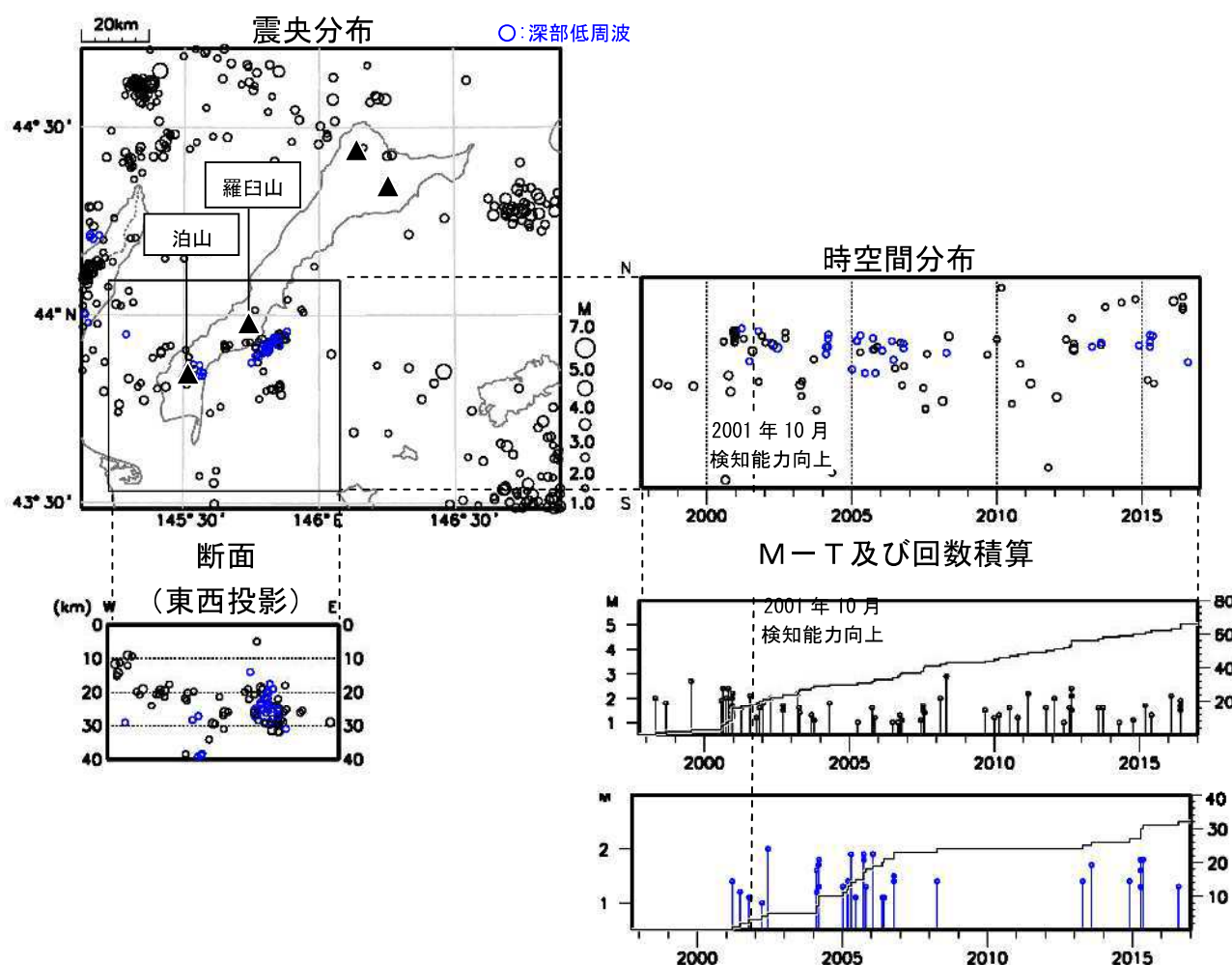


図 1 泊山 一元化震源による周辺の地震及び深部低周波地震活動
(1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日、 $M \geq 1.0$ 、深さ 40 km 以浅)

青色のシンボルは深部低周波地震。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものがあることがある。

2001 年 10 月以降、Hi-net の追加に伴い検知力が向上している。

この図の作成には、国土地理院発行の「数値地図 25000（行政界・海岸線）」を使用した。

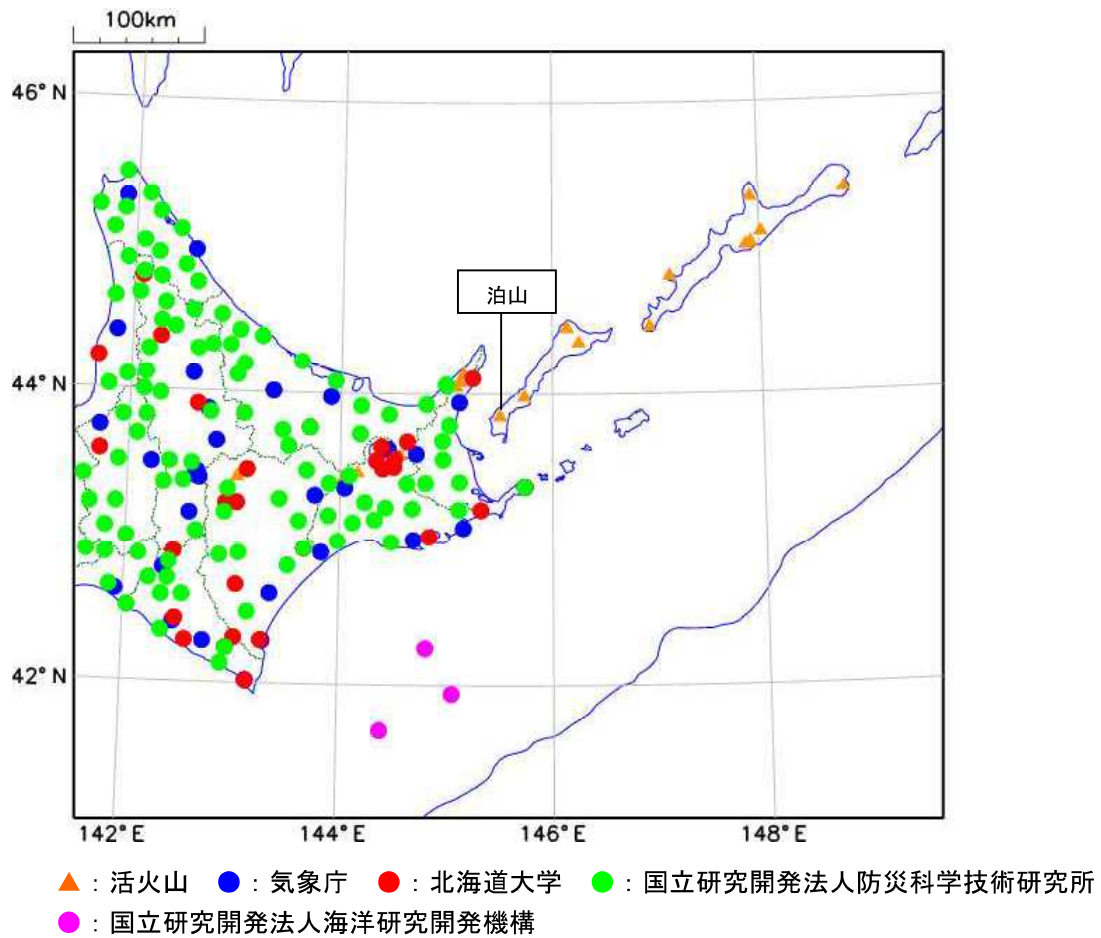


図 2 泊山 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 25000 (行政界・海岸線)』を使用した。

恐 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○概況(2016 年 1 月～12 月 31 日)

・地震活動（図 1）

恐山付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。

・噴気の状況

カルデラ内にある宇曽利山湖（恐山湖）の北岸一帯には噴気孔や温泉が多くあるが、噴気など異常に関する通報はなかった。

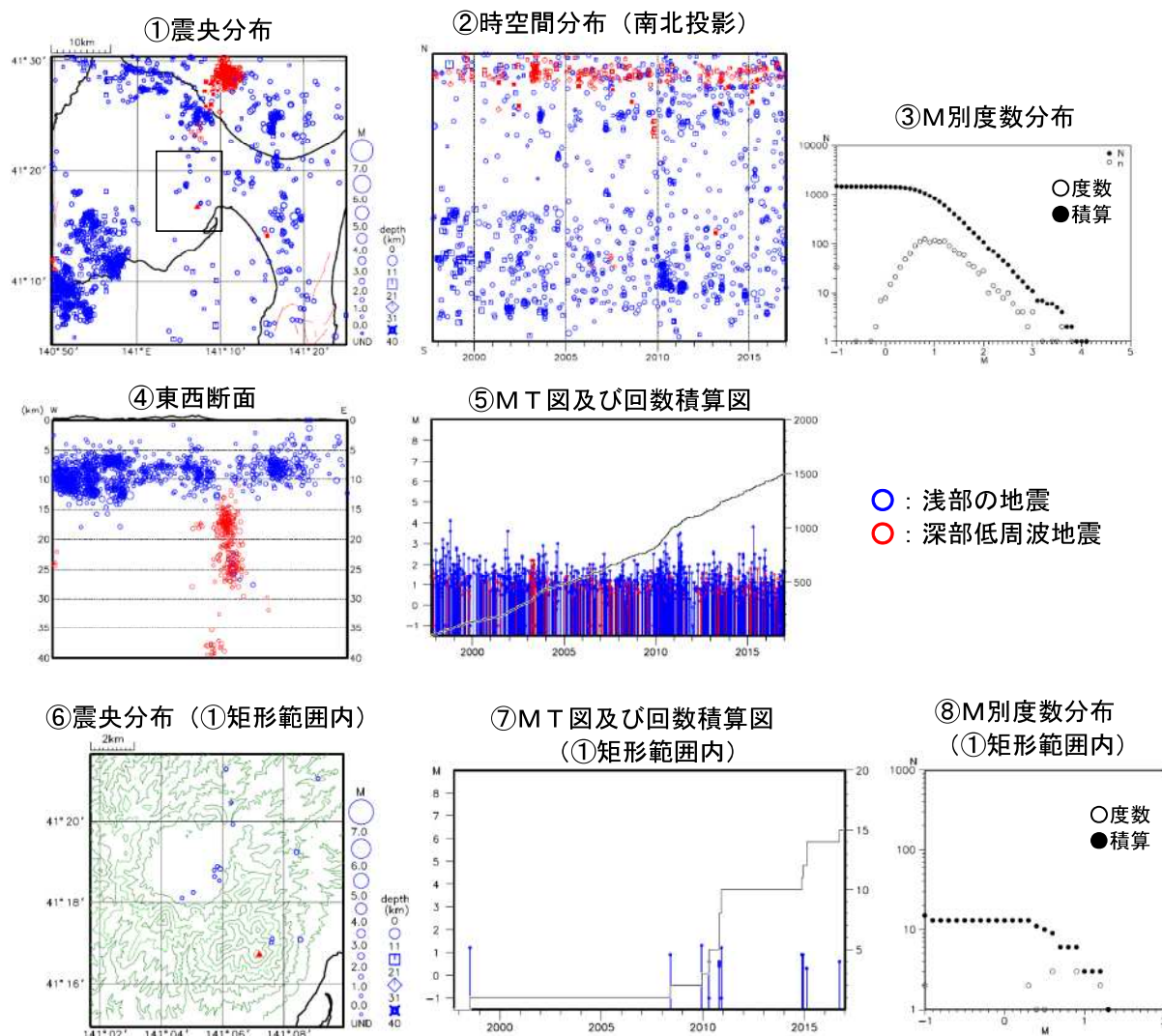


図 1 恐山 一元化震源による恐山周辺の地震活動（1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」、「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。

・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁の他、北海道大学、弘前大学、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所、青森県のデータ等を利用して作成している。

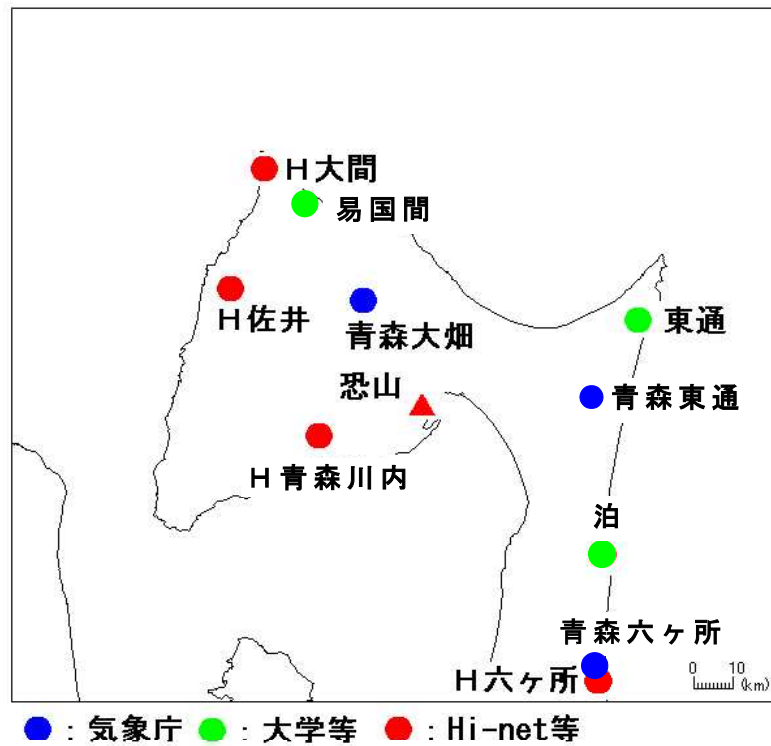


図 2 恐山周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

(2016 年 12 月 31 日現在)

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

嘔気など異常に関する通報はなかった。



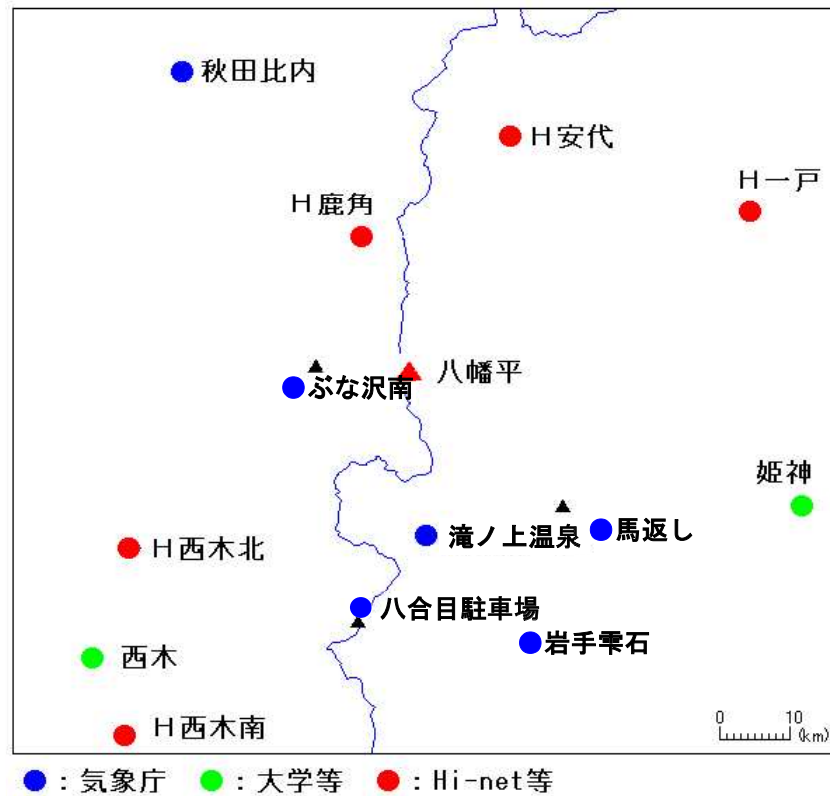


図2 八幡平周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」を使用した。

鳴 子

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○概況(2016 年 1 月～12 月 31 日)

・地震活動（図 1）

今期間、鳴子付近を震源とする地震は観測されなかった。

・噴気の状況

噴気など異常に関する通報はなかった。

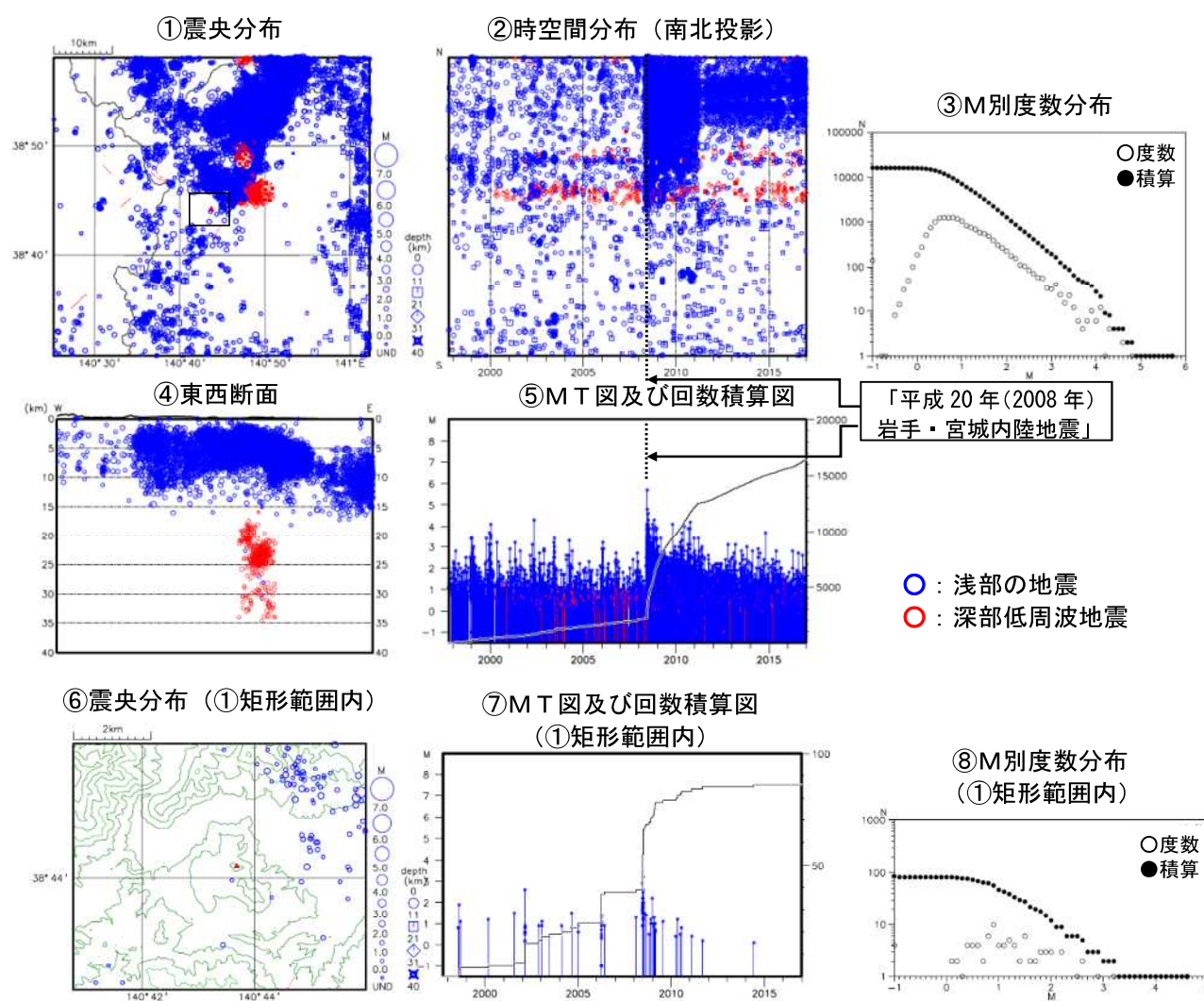


図 1 鳴子 一元化震源による鳴子周辺の地震活動（1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」、「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。

・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁の他、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。

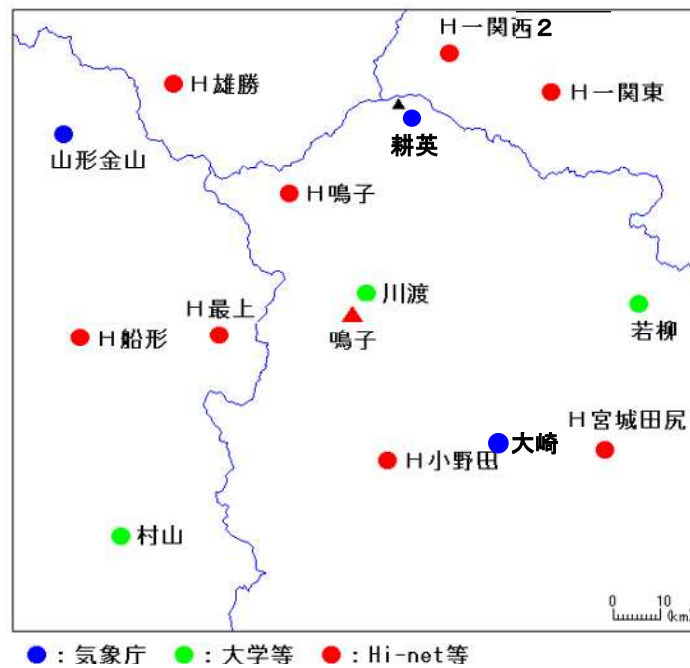


図 2 鳴子周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

肘 折

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○概況 (2016 年 1 月～12 月 31 日)

・地震活動（図 1、図 2）

肘折付近を震源とする地震は観測されなかった。また、2014 年 5 月頃から深部低周波地震がやや増加した状態が続いている。

・噴気の状況

噴気など異常に関する通報はなかった。

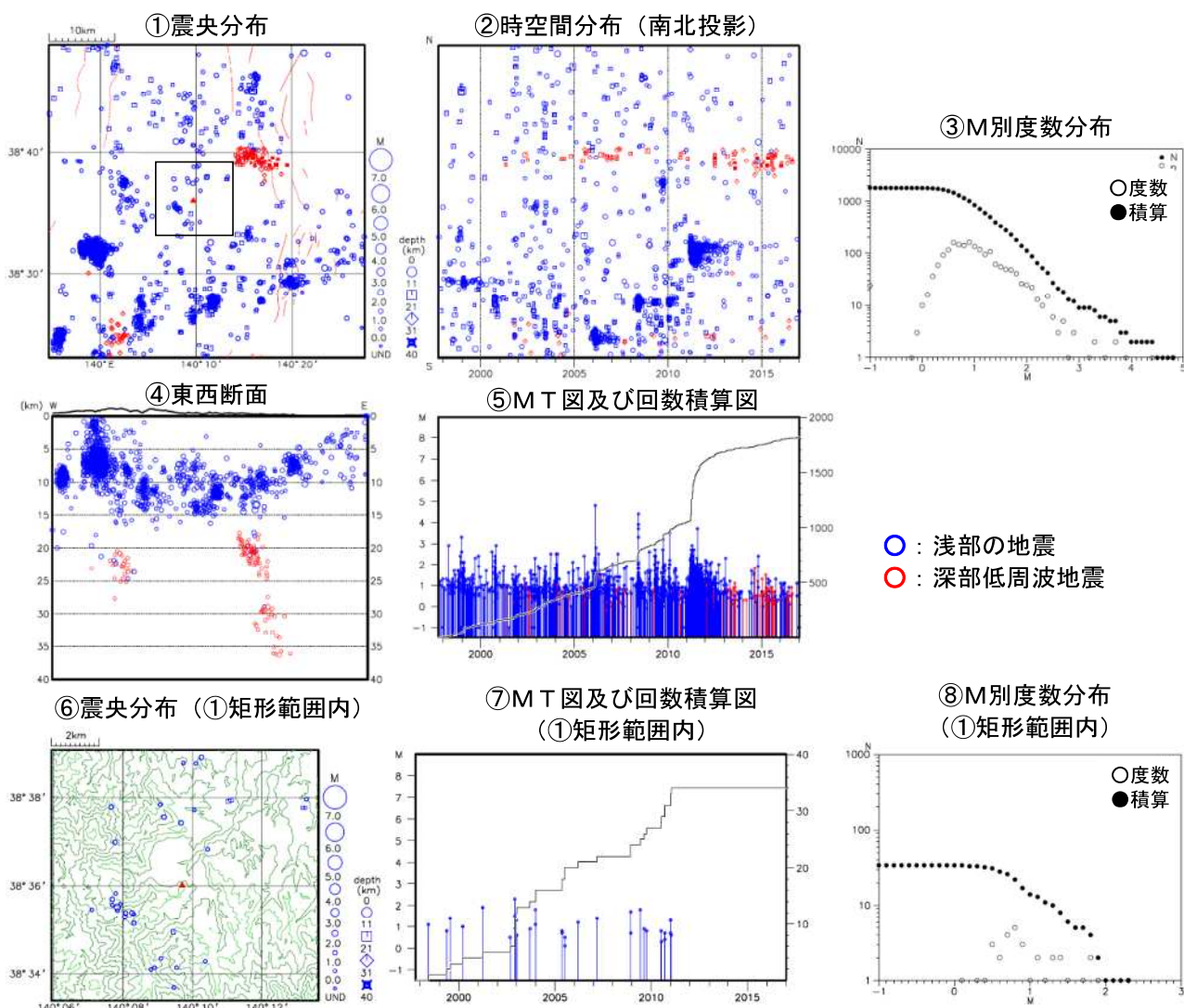


図 1 肘折 一元化震源による肘折周辺の地震活動（1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」、「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。

・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁の他、東北大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。

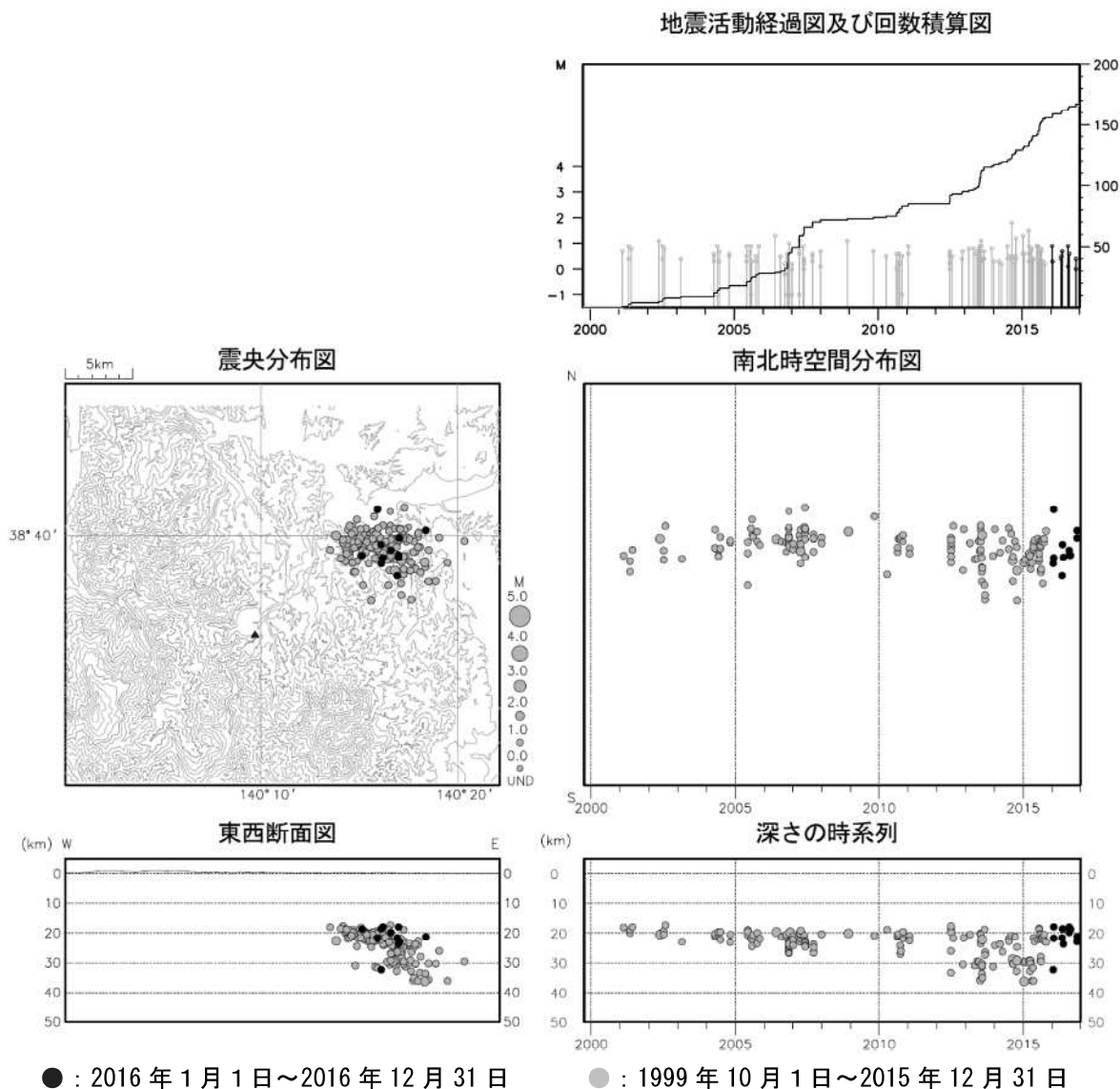


図 2 肘折 一元化震源による深部低周波地震活動（1999 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力が向上している。

- ・この地図の作成には国土地理院発行の「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。
- ・2014 年 5 月頃から深部低周波地震がやや増加している。
- ・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

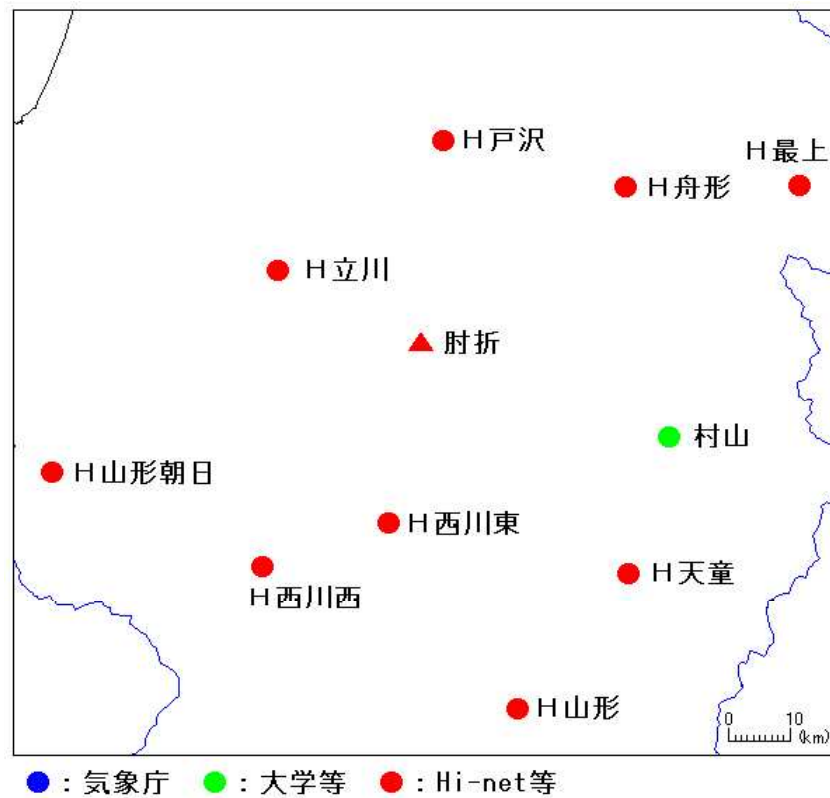


図 3 肘折周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

沼 沢

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○概況(2016 年 1 月～12 月 31 日)

・地震活動（図 1）

沼沢付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。

・噴気の状況

噴気など異常に関する通報はなかった。

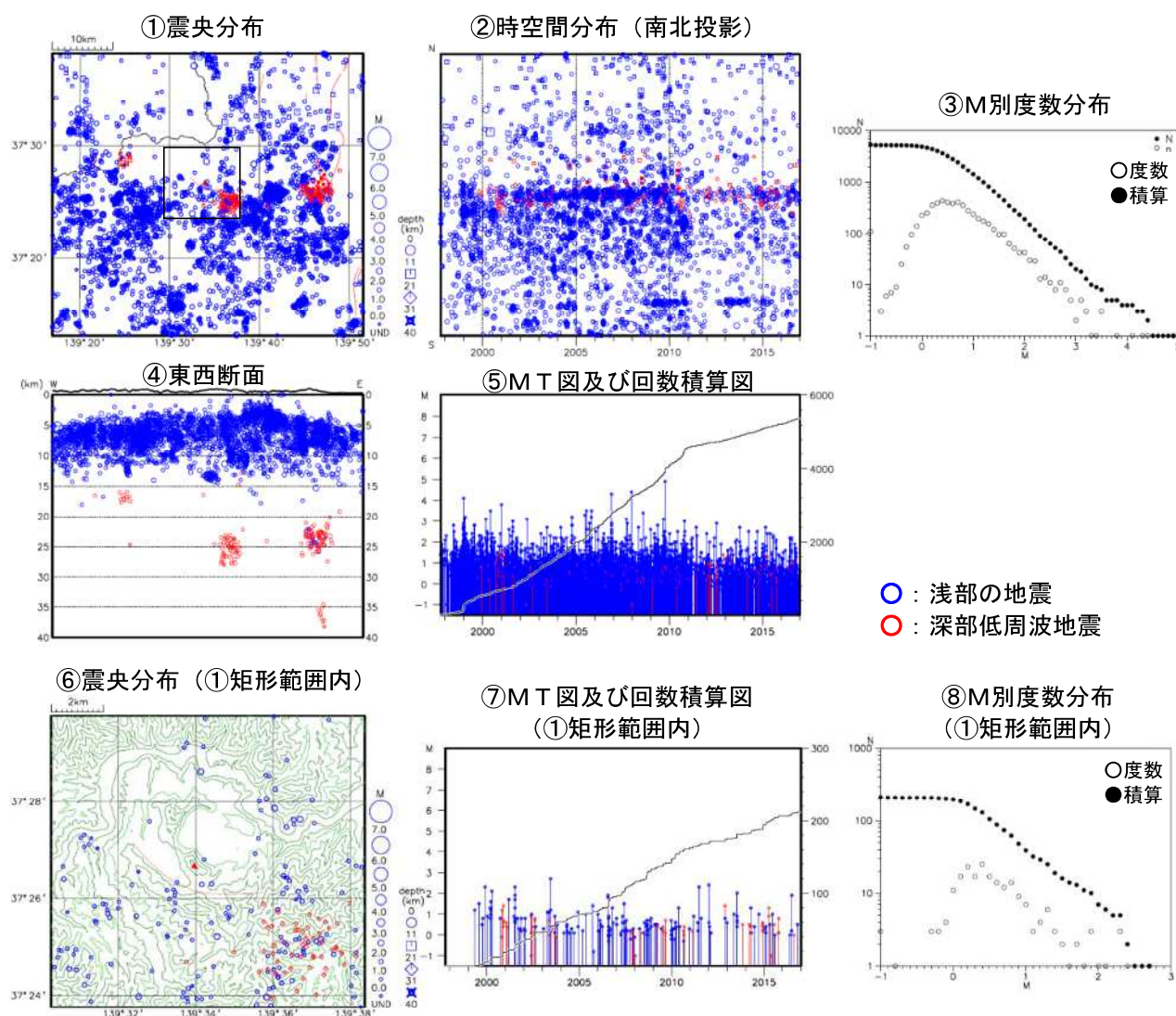


図 1 沼沢 一元化震源による沼沢周辺の地震活動（1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」、「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。

・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁の他、東北大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。

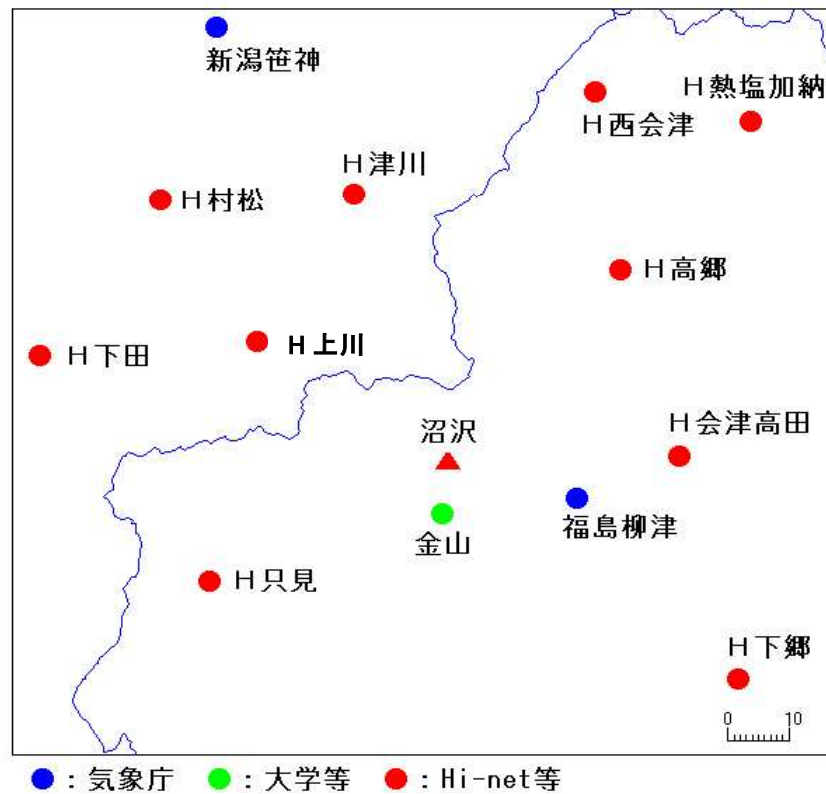


図 2 沼沢周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

燧ヶ岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○概況(2016 年 1 月～12 月 31 日)

・地震活動（図 1）

燧ヶ岳付近を震源とする地震は少ない状態で経過した。

・噴気の状況

噴気など異常に関する通報はなかった。

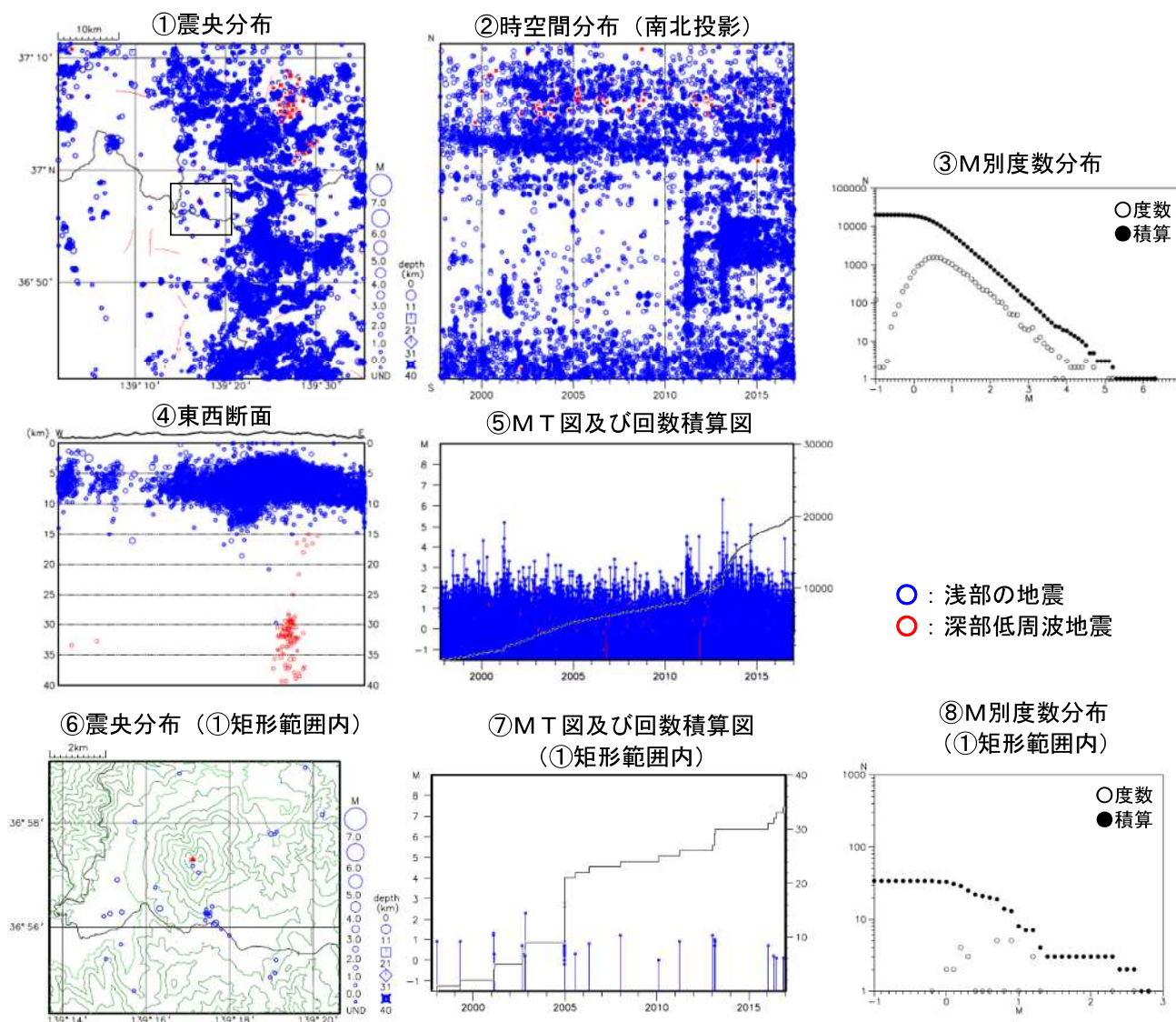


図 1 燧ヶ岳 一元化震源による燧ヶ岳周辺の地震活動（1997 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

注）2001 年 10 月以降、検知能力向上

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000（地図画像）」、「数値地図 50mメッシュ（標高）」を使用した。

・表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁の他、東北大学、東京大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを基に作成している。

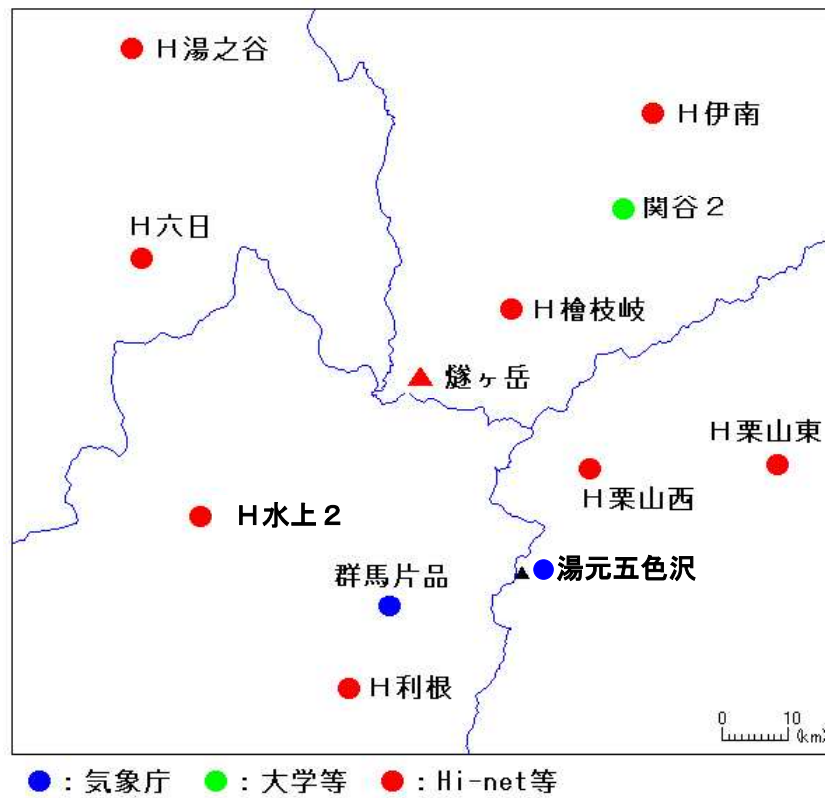


図 2 燧ヶ岳周辺の地震観測点

この地図の作成にあたっては、国土地理院発行の「数値地図 25000 (地図画像)」を使用した。

高 原 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

2008 年 12 月～2009 年 1 月にかけて、高原山山頂（釈迦ヶ岳）付近の浅いところを震源とする地震が一時的に増加したが、最近は特に顕著な地震活動は認められない。

・ 噴気等の状況

高原山北麓の富士山西側の新湯付近には従来から弱い噴気があるが、噴気異常等に関する通報はない。

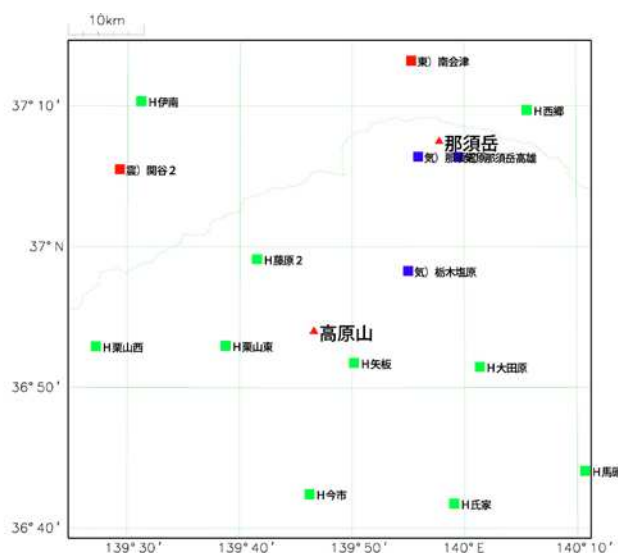


図 1 高原山 周辺の地震観測点

■ 震)：東大震研観測点 ■ 東)：東北大学観測点
 ■ H)：防災科研観測点 ■ 気)：気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

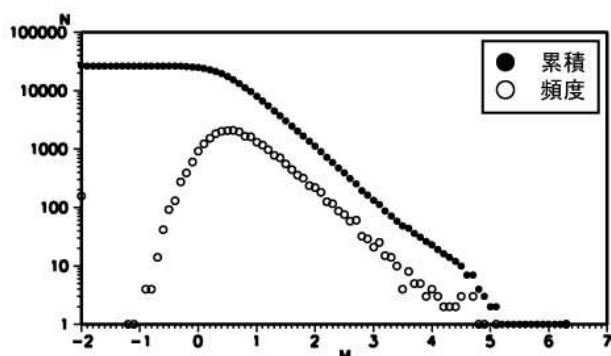


図 2 高原山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
 (図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東北大学、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

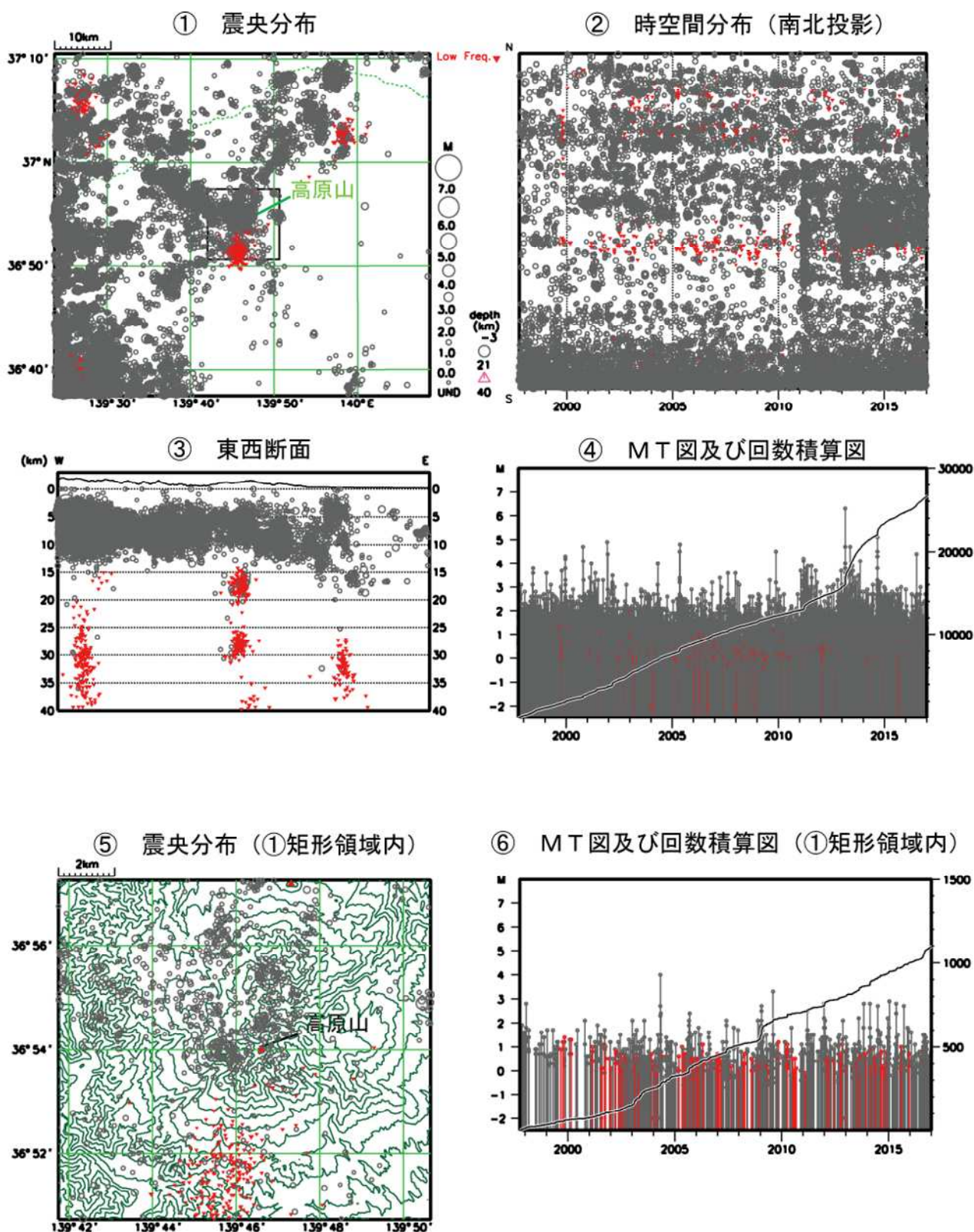


図3 高原山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997年10月1日～2016年12月31日)

注) 2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。

赤 城 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

2016 年 10 月 20 日に山頂から北東約 5 km、深さ 11km で M3.8 の地震が発生し、最大震度 3 を観測した。この地震の震源付近では 11 月下旬頃まで地震活動が活発な状態が続いた。赤城山周辺ではこれまでも度々地震活動が活発になることがあり、この一連の地震活動も火山活動とは直接の関係性はないと考えられる。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

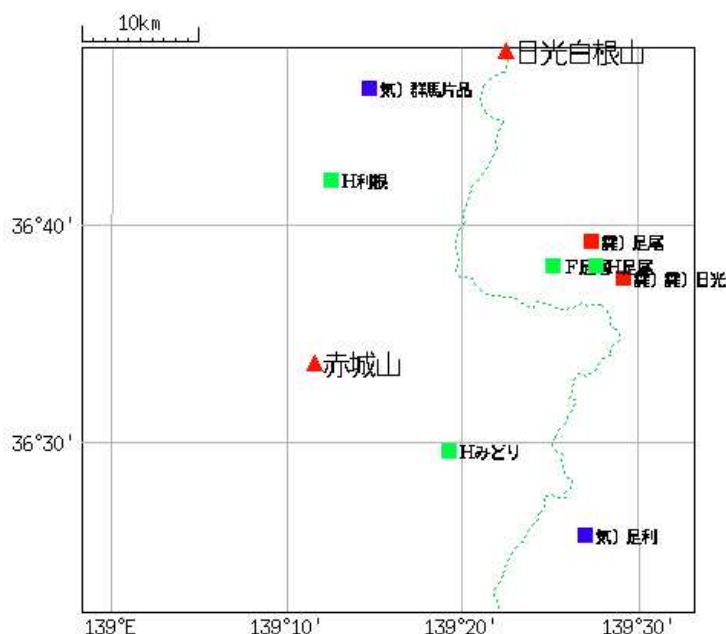


図 1 赤城山 周辺の地震観測点

■(震)：東大震研観測点 ■(H)：防災科研観測点 ■(気)：気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

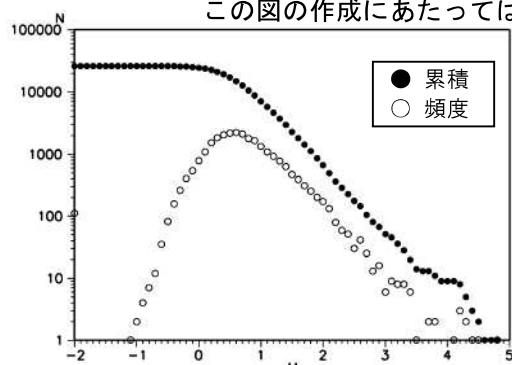


図 2 赤城山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図

(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

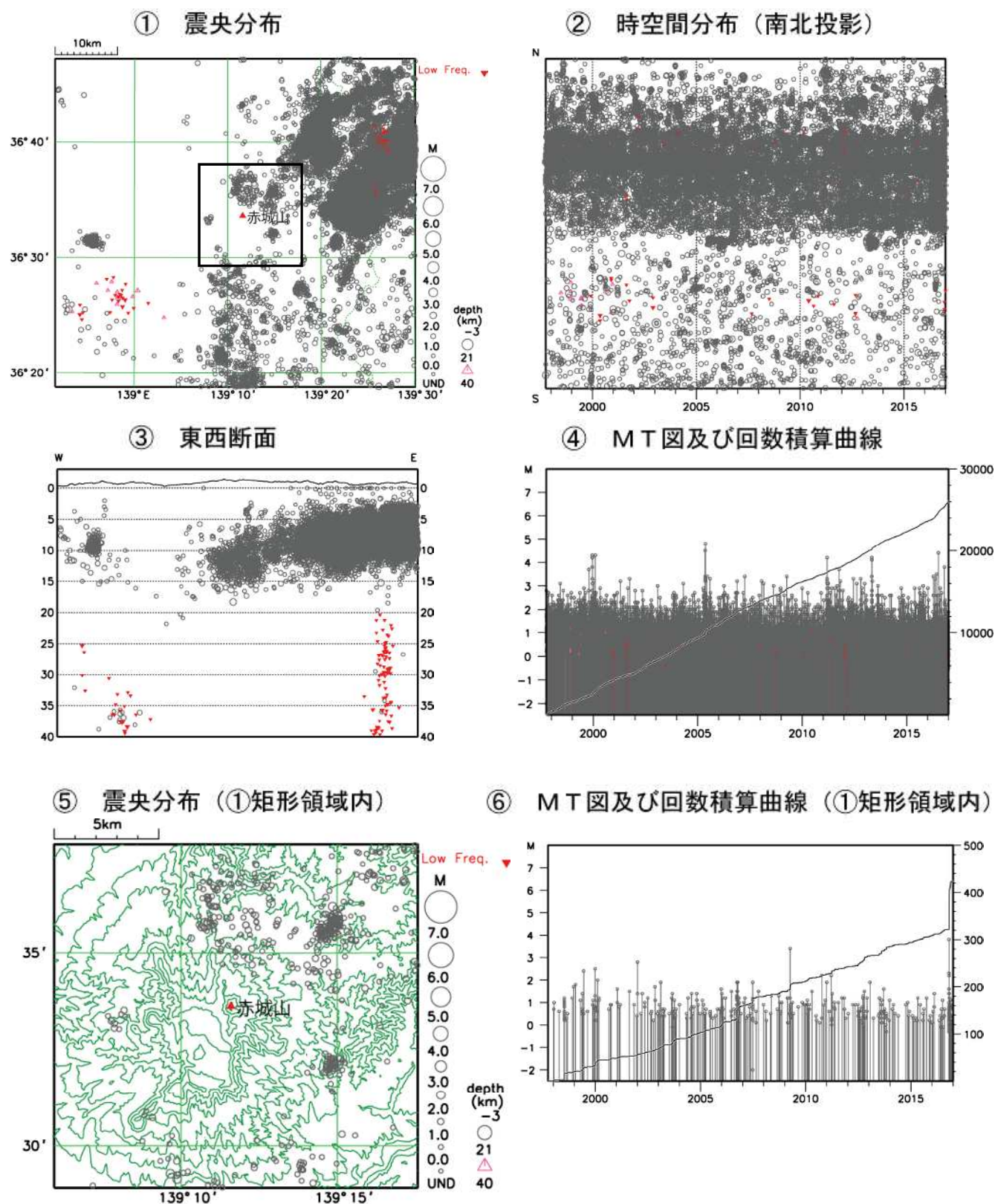


図3 赤城山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997年10月1日～2016年12月31日)

注) 2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

榛 名 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

2005 年頃から北東側 10km 付近で地震活動が見られたが、山体付近に発生する地震は少ない。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

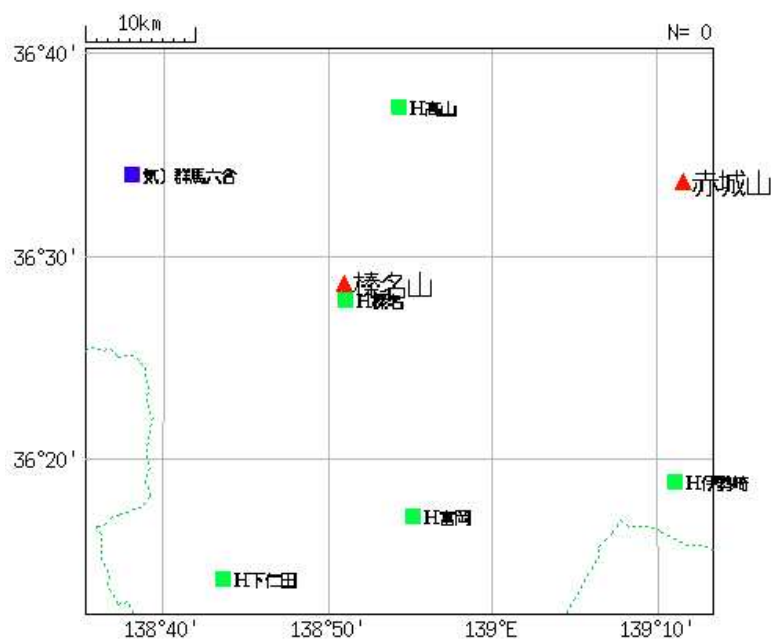


図 1 榛名山 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点 ■ 気) : 気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

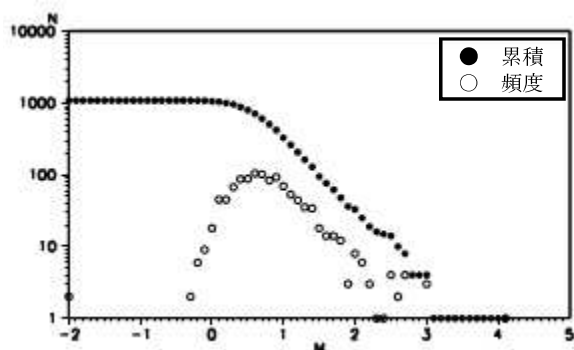


図 2 榛名山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

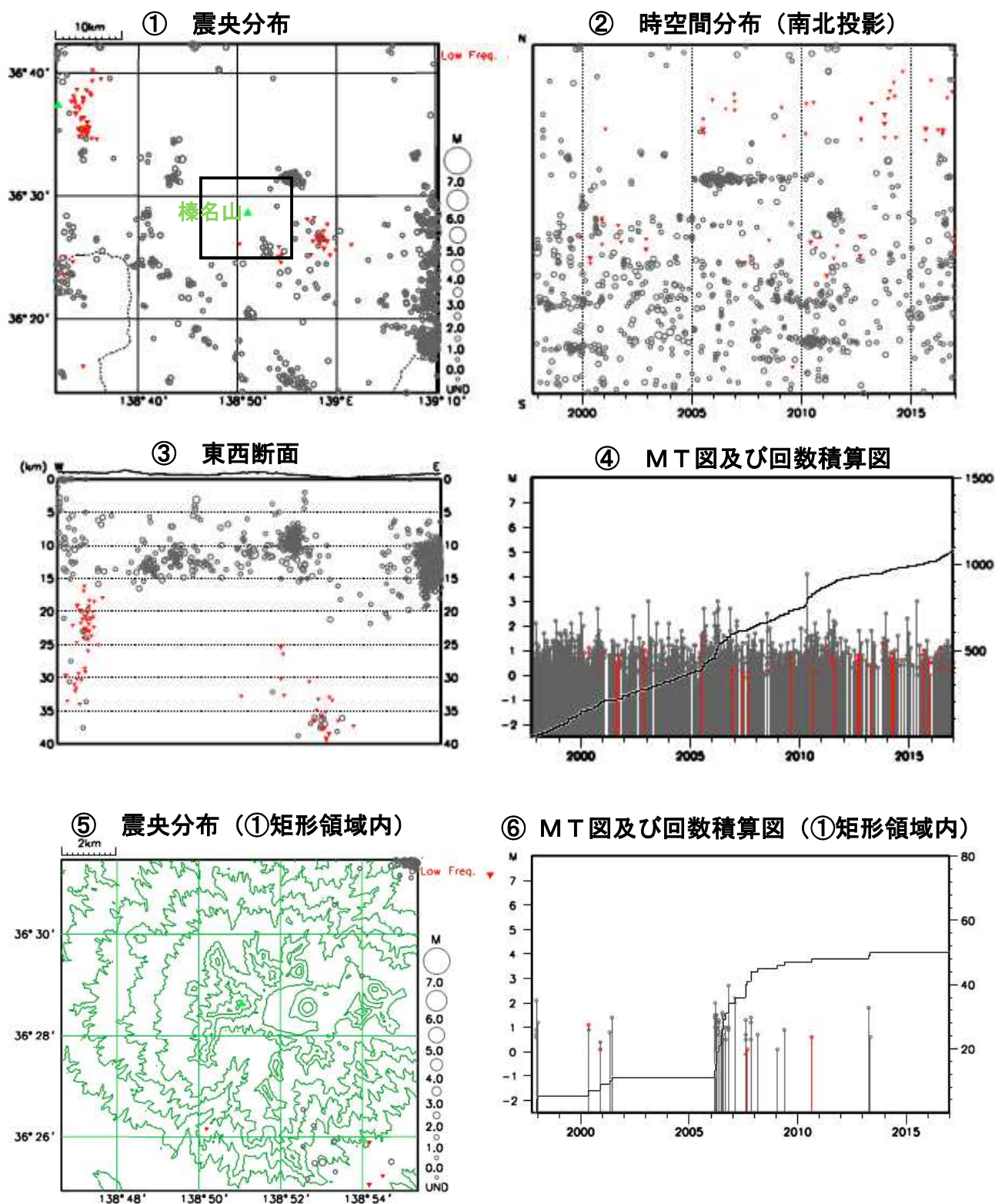


図3 榛名山 周辺の地震活動（1997年10月1日～2016年12月31日）

注）2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ（標高）を使用した。

横 岳

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

山体付近に地震は発生していない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降活発化したが、次第に低下している。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

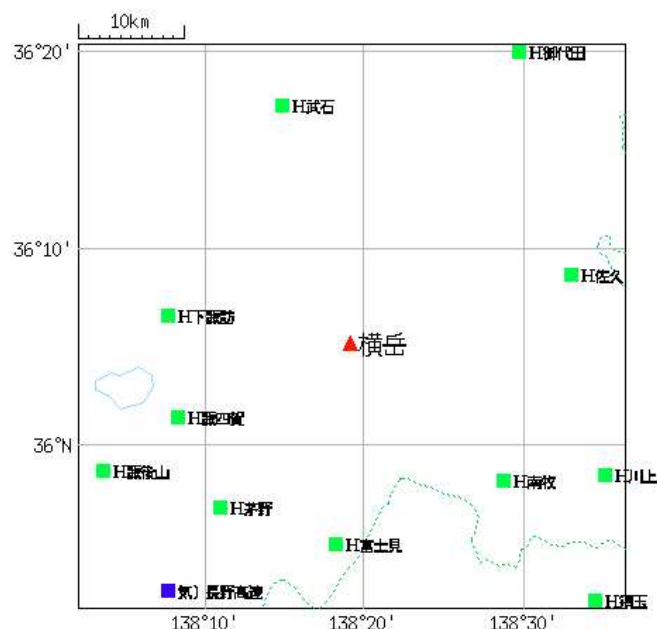


図 1 横岳 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点 ■ 気) : 気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

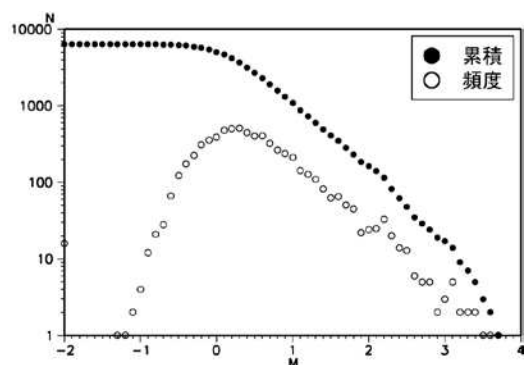


図 2 横岳

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

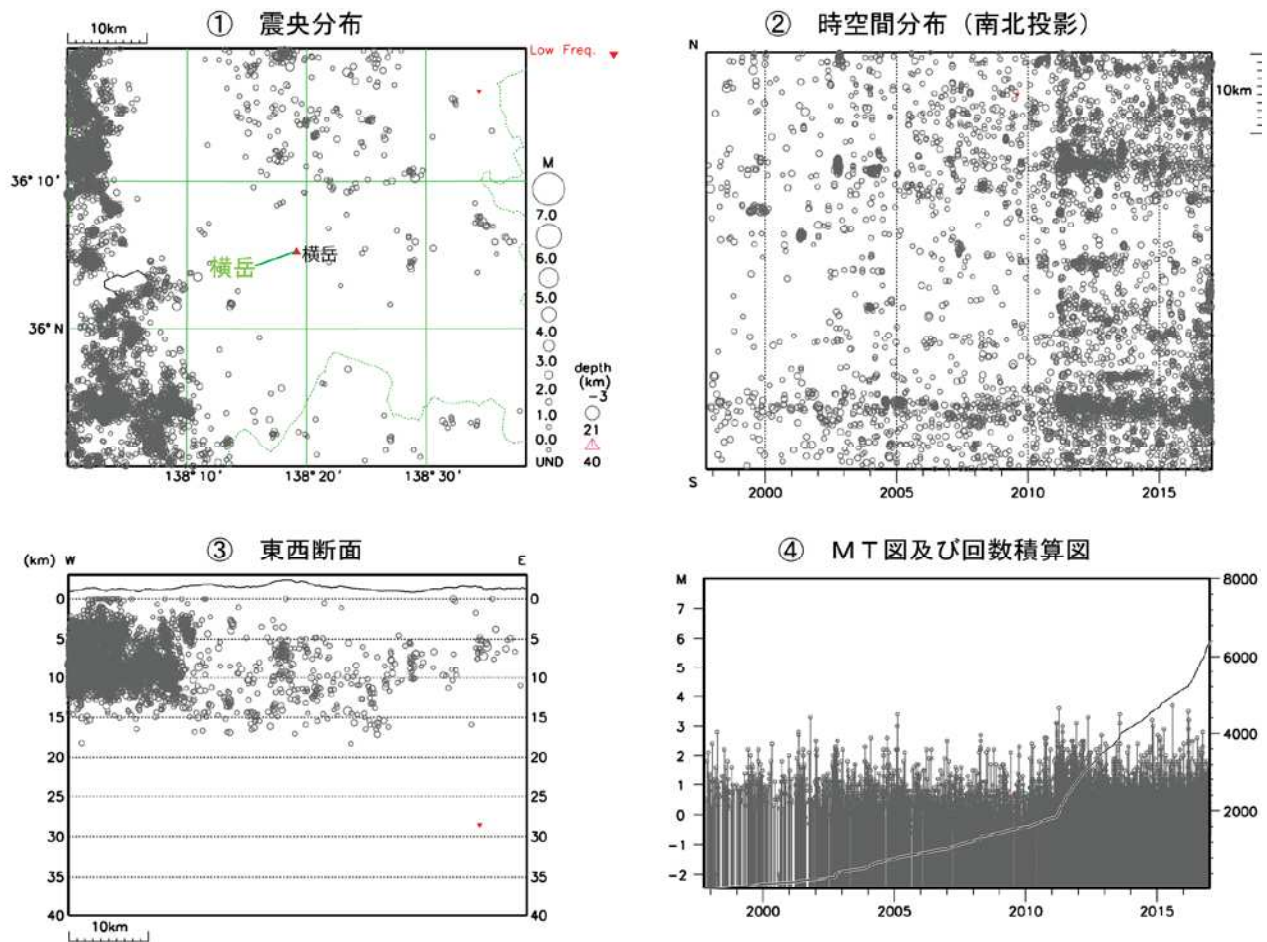


図3 横岳 一元化震源による周辺の地震活動（1997年10月1日～2016年12月31日）

注）2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図25000を使用した。

妙高山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・地震活動（図3）

山体付近に発生する地震はほとんどなく、周辺の地震活動にも特に変化は認められない。

- ・ 噴気等の状況

南側火口原の南地獄谷頭部には従来から噴気地帯があるが、噴気異常等に関する通報はない。

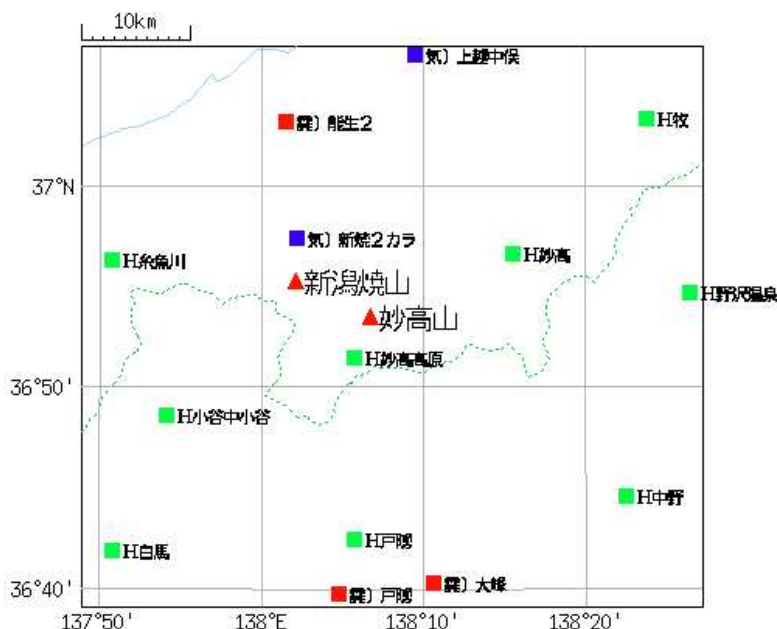


図1 妙高山 周辺の地震観測点

■(震)：東大震研観測点 ■(H)：防災科研観測点 ■(気)：気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

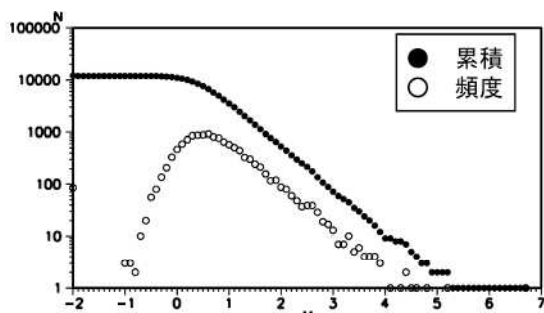


图2 妙高山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学、京都大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

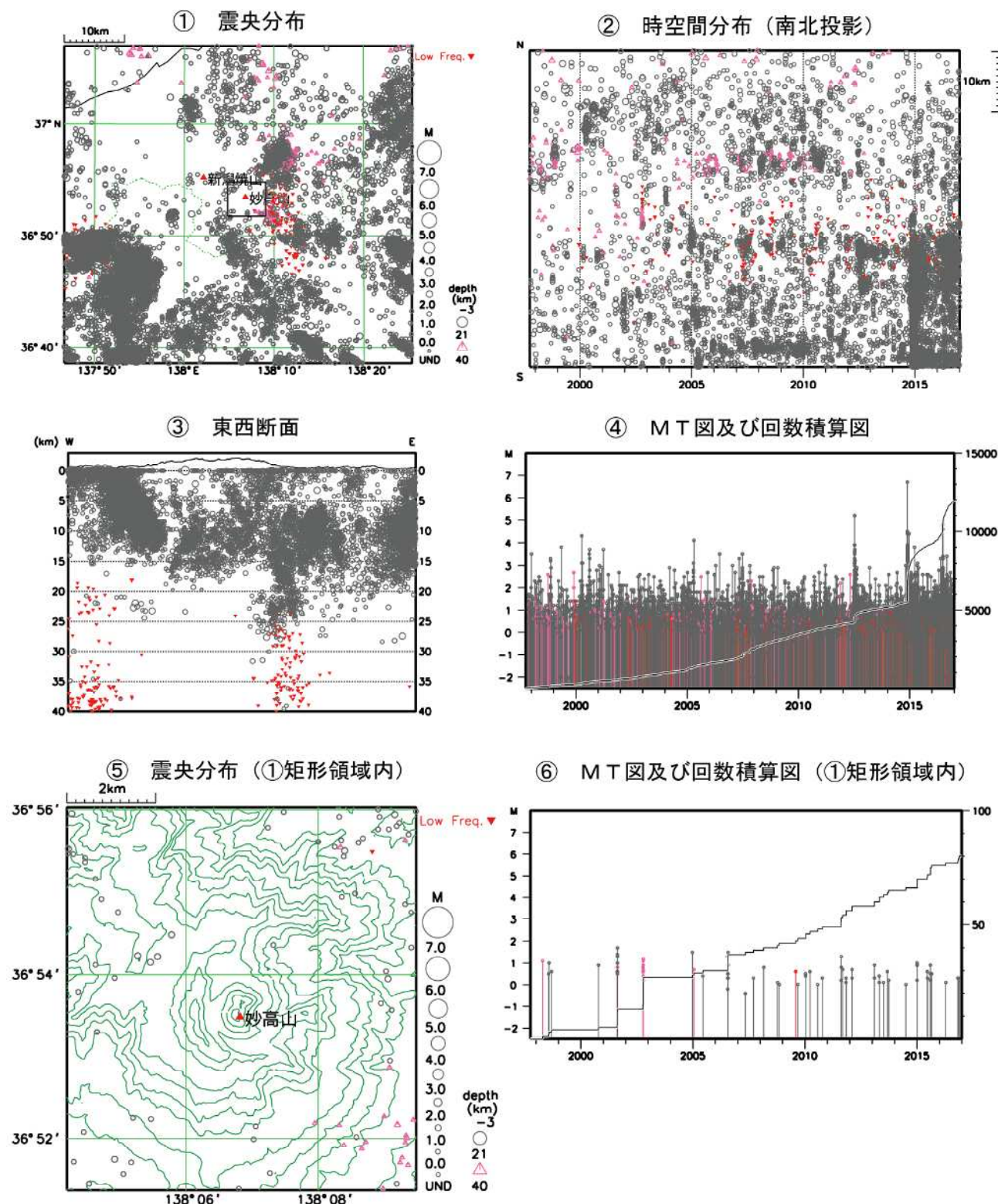


図3 妙高山 一元化震源による周辺の地震活動 (1997年10月1日～2016年12月31日)

注) 2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。

アカンダナ山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

山体付近に発生する地震は少ない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降活発化したが、次第に低下している。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

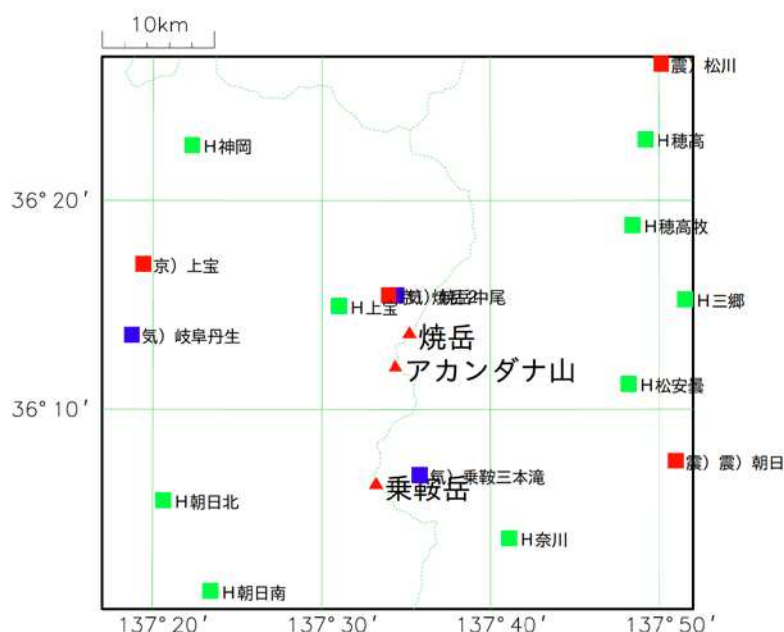


図 1 アカンダナ山 周辺の地震観測点

■ 京) : 京大観測点 ■ 震) : 東大震研観測点 ■ H) : 防災科研観測点 ■ 気) : 気象庁観測点
この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

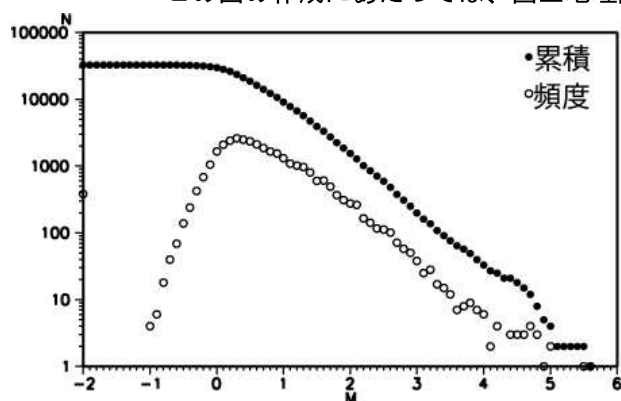


図 2 アカンダナ山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学、名古屋大学、京都大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

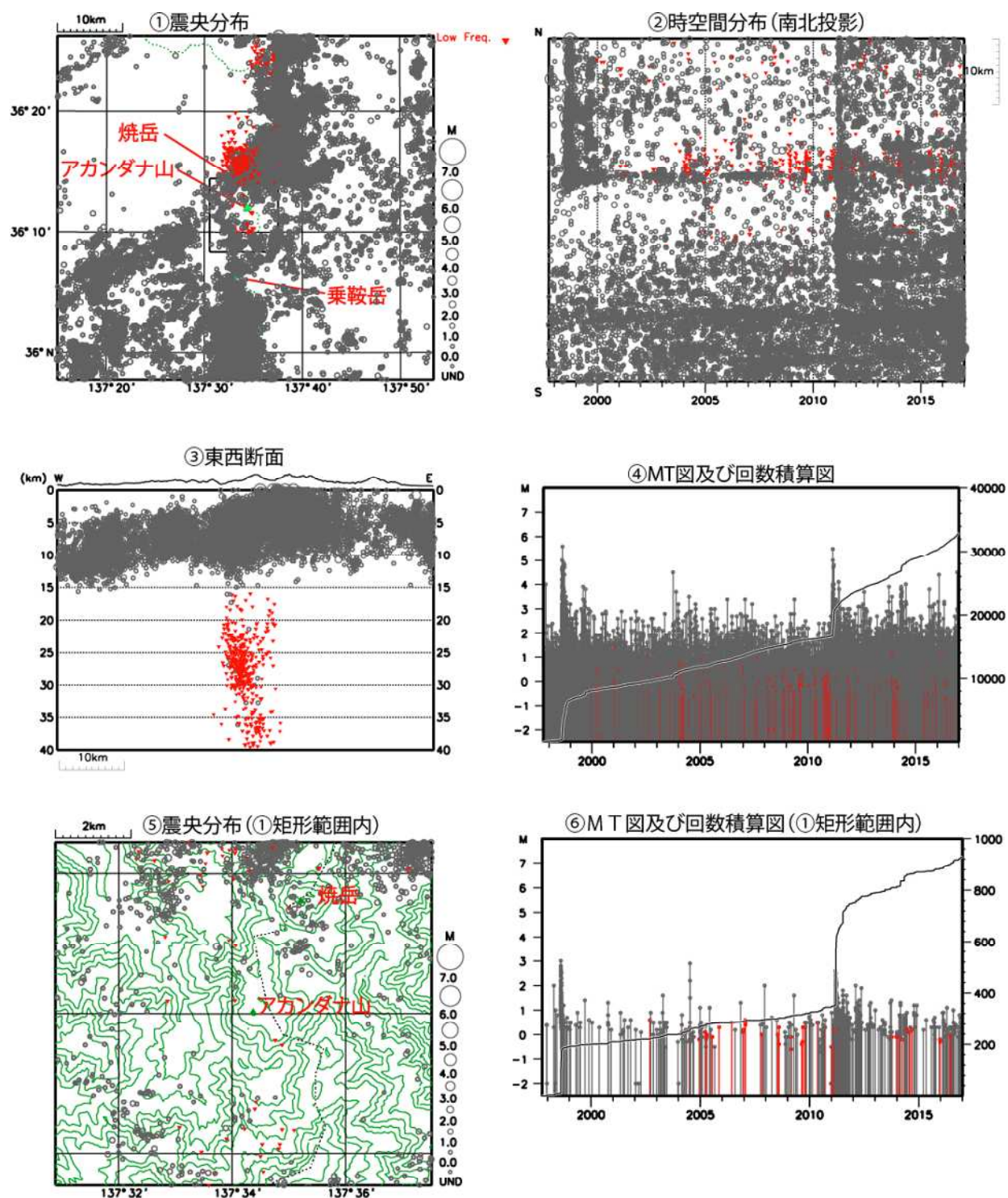


図3 アカランダナ山 一元化震源による周辺の地震活動(1997年10月1日～2016年12月31日)
 注) 2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上
 赤は低周波地震を示す。
 表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。
 この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図50mメッシュ(標高)を使用した。

利 島

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

島内に発生する地震は少ない。周辺の地震活動は東北地方太平洋沖地震（2011 年 3 月 11 日）以降やや活発化したが、その後すぐに低下した。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

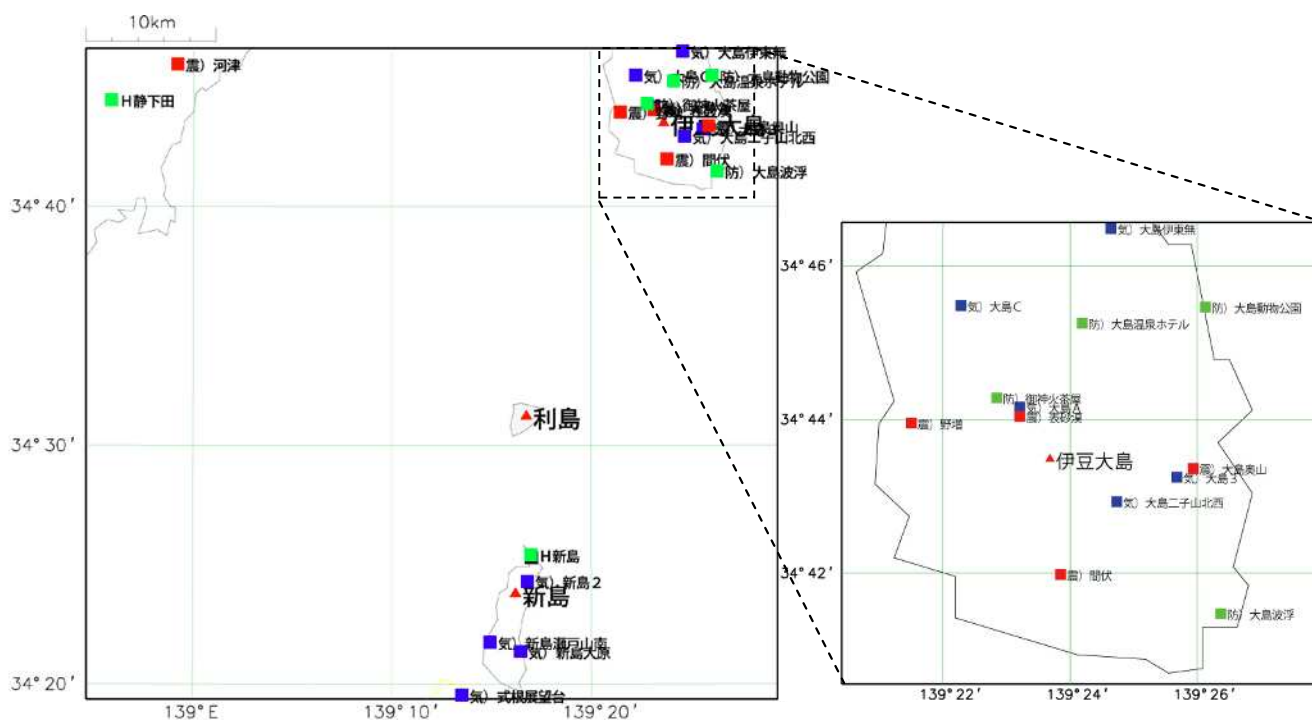


図 1 利島 周辺の地震観測点

■震：東大震研観測点 ■H：防災科研観測点 ■気：気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

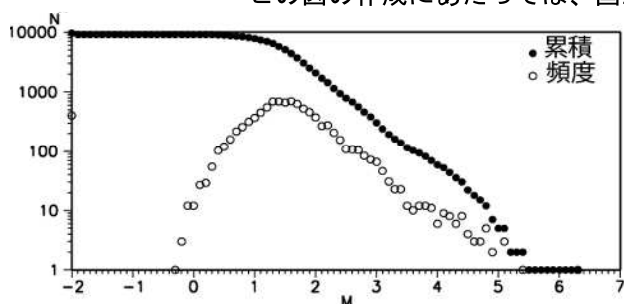


図 2 利島

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、東京大学及び国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

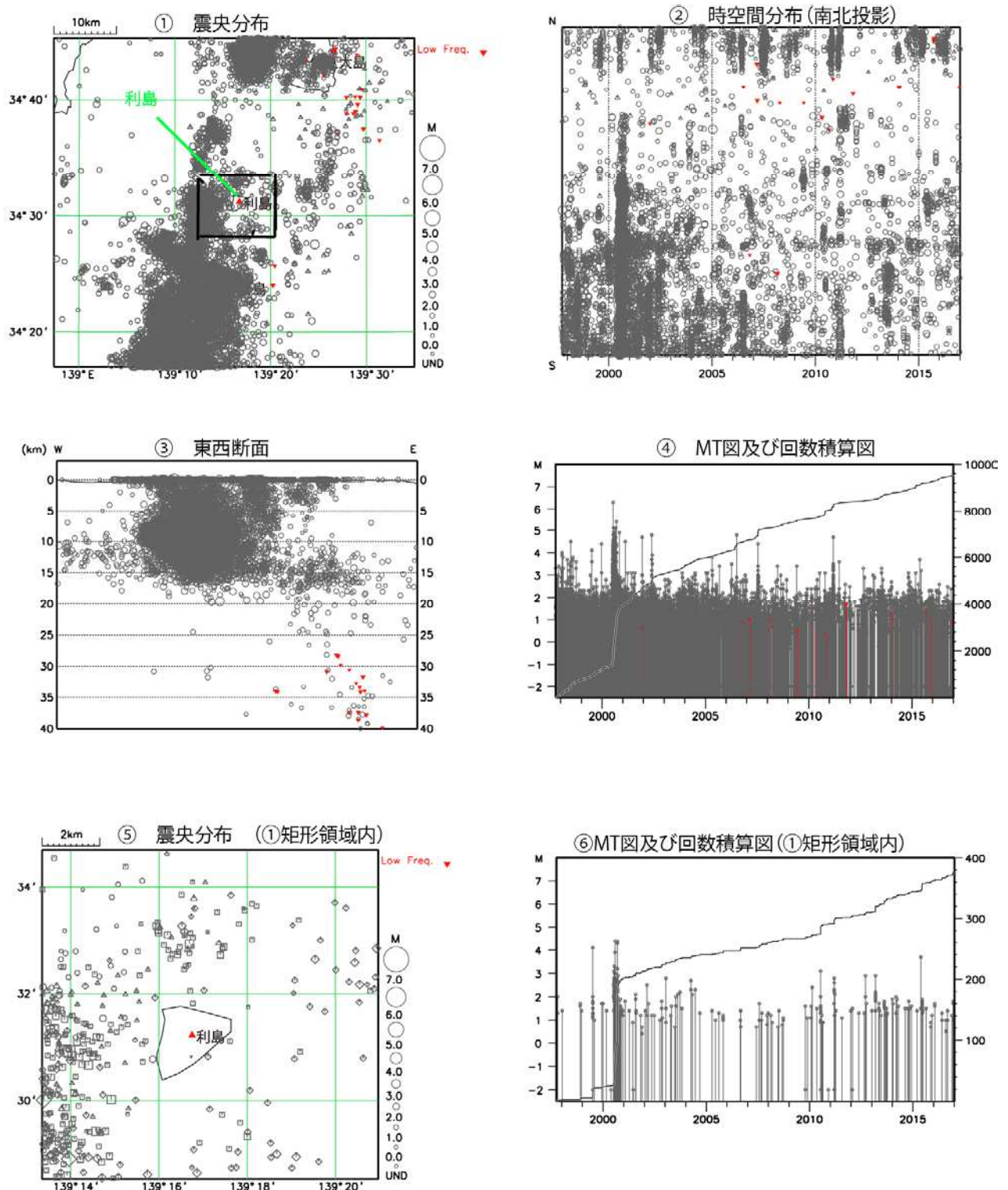


図3 利島 一元化震源による周辺の地震活動 (1997年10月1日～2016年12月31日)

注) 2002年10月以降、Hi-net追加により検知力向上

赤は深部低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

御 蔵 島

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化は認められていない。

・ 噴気等の状況

噴気はなく、異常等に関する通報もない。

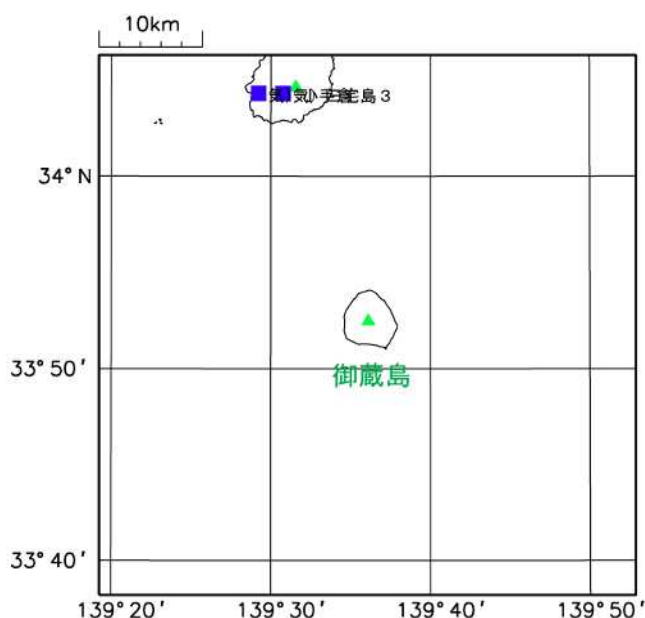


図 1 御蔵島 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点 ■ Q) : 気象庁観測点

・ 三宅島 3 (気象庁) は 2011 年 11 月で観測終了

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

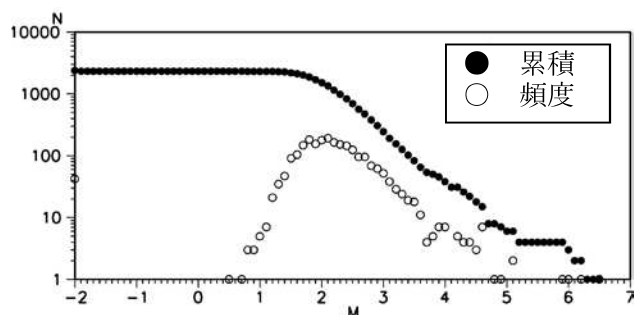


図 2 御蔵島

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

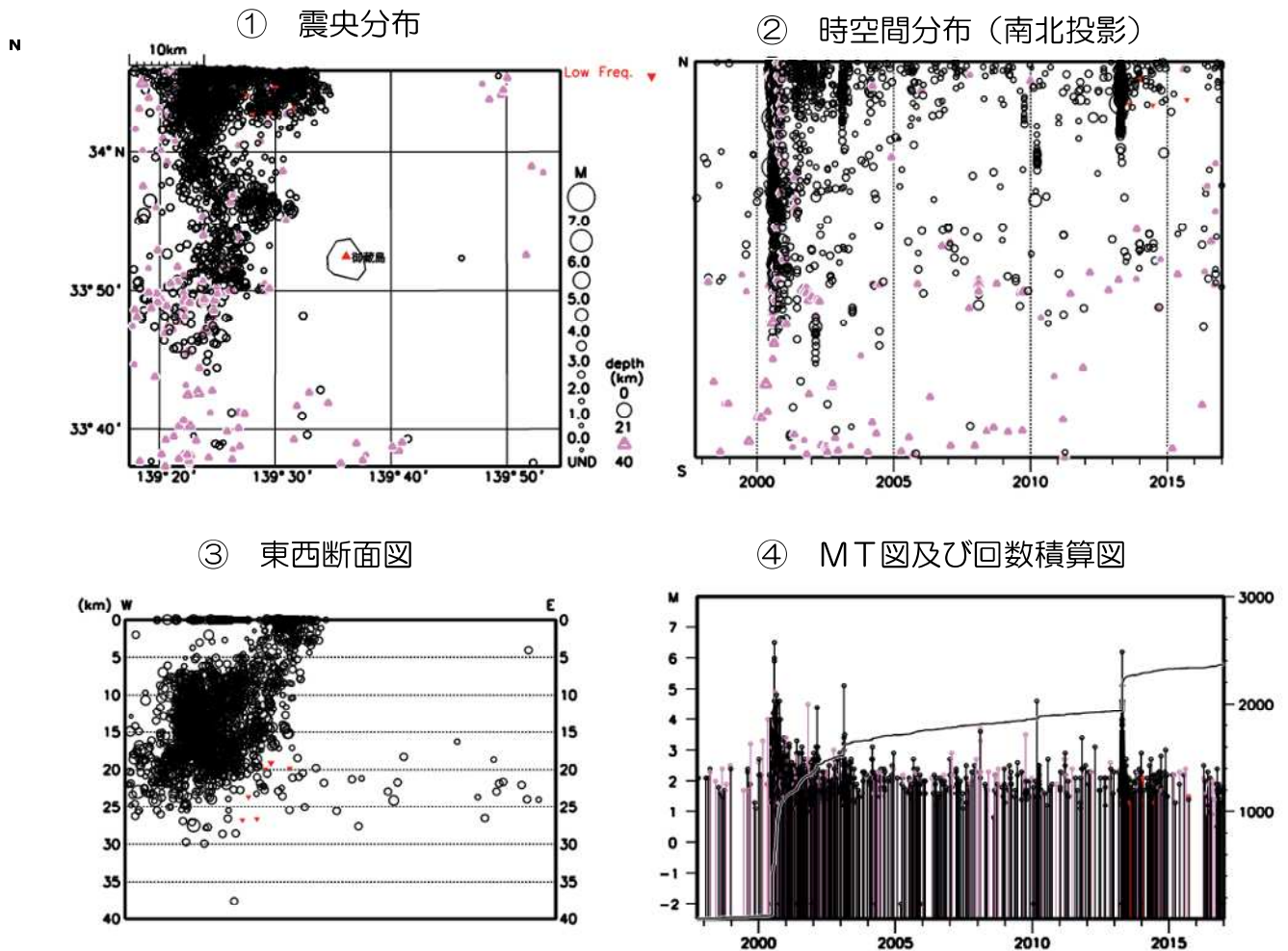


図 3 御蔵島 一元化震源による周辺の地震活動 (1997 年 10 月 1 日～2016 年 12 月 31 日)

注) 2002 年 10 月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は深部低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

ベヨネース列岩

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 4 日、3 月 29 日、11 月 25 日、12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

須美寿島

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 4 日の観測では、須美寿島の南岸から南東方向に長さ約 500 m、幅約 50m の帯状に分布する薄い黄緑色の変色水域が認められた。

同庁の 3 月 29 日の観測では、須美寿島の南東岸から北東方向に長さ約 250m、幅約 150m の帯状に分布する薄い青白色の変色水域が認められた。

同庁の 11 月 25 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。



図 1 須美寿島の変色水域（2016 年 3 月 4 日
西南西方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・須美寿島の南岸から南東方向に長さ約 500m、幅約 50m の帯状に分布する薄い黄緑色の変色水域が認められた。



図 2 須美寿島の変色水域（2016 年 3 月 29 日
南東方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・須美寿島の南東岸から北東方向に長さ約 250m、幅約 150m の帯状に分布する薄い青白色の変色水域が認められた。

伊 豆 島 島

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 4 日の観測では、硫黄山火口縁の南側に数条の噴気が確認された。また、北岸の船見岬から兵庫浦の海岸線に沿って長さ約 300m、沖方向へ幅約 200m の薄い褐色の変色水域が分布していた。南岸の燕崎～三ツ石付近の海岸線に沿って長さ約 800m、沖方向へ幅約 300m の薄い褐色の変色水域が分布していた。

同庁の翌 3 月 5 日の観測では、前日確認された変色水域は認められなかった。

同庁の 3 月 29 日の観測では、硫黄山火口からの噴気・噴煙は確認されなかった。

同庁の 11 月 25 日の観測では、硫黄山火口縁の南側に多数の白色噴気が確認された。また、北西側の 1 ヶ所でも白色噴気が確認された。北岸の兵庫浦から北ノ鼻付近の海岸線に幅約 500m の薄い黄緑色の変色水域が分布していた。また、南崎から涙ヶ浜にかけての南側の海岸線に幅 300m の薄い黄緑色の変色水が分布していた。

同庁の 12 月 24 日の観測では、硫黄山火口内の 1 ヶ所でごく弱い白色噴気が確認された。北岸の船見岬～兵庫浦付近の海岸線に幅約 300m、長さ約 1,200m の薄い黄緑色の変色水域が分布していた。南岸の三ツ石付近～燕崎の海岸線に幅約 500m、長さ約 1,400m の茶褐色及び薄い黄緑色の変色水域が分布していた。東岸の涙ヶ浜付近の海岸線に幅約 200m、長さ約 500m の薄い黄緑色の変色水域が分布していた。

その他、異常報告等はないことから、火口周辺に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。



図 1 硫黄山火口付近（2016 年 3 月 4 日
北西方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・硫黄山火口縁の南側に数条の噴気が確認された。



図 2 硫黄山火口付近（2016 年 11 月 25 日
北東方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・硫黄山火口縁の南側に多数の白色噴気が確認された。また、北西側の 1 ヶ所でも白色噴気が確認された。

嬬 婦 岩

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 5 日、3 月 29 日、11 月 25 日、12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

海 形 海 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

海 徳 海 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

噴 火 浅 根

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日の観測では、噴火浅根付近で直径約 30～100m の薄い青白色の変色水域が 3 ヶ所確認された。

同庁の 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。



図 1 噴火浅根付近（2016 年 3 月 29 日
西南西方向より撮影・海上保安庁提供）



図 2 噴火浅根付近（2016 年 3 月 29 日
北西方向より撮影・海上保安庁提供）

- ・ 直径約 30～100m の薄い青白色の変色水域が 3 ヶ所確認された。

北 福 徳 堆

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

福 徳 岡 ノ 場

(2016 年 12 月 31 日現在)

第三管区海上保安本部による上空からの観測で、火山活動によるとみられる変色水が確認された。小規模な海底噴火が発生するおそれがあり、周辺海域では警戒が必要。

平成 19 年 12 月 1 日に噴火警報（周辺海域警戒）を発表した。その後、警報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

第三管区海上保安本部の 2016 年 3 月 7 日の観測では、福德岡ノ場において、長さ約 1,000m、幅約 200～300m の帯状に分布するごく薄い緑色の変色水域が認められた。

同庁の 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。



図 1 福德岡ノ場の変色水域（2016 年 3 月 7 日 西北西方向より撮影・海上保安庁提供）

・長さ約 1,000m、幅約 200～300m の帯状に分布するごく薄い緑色の変色水域が認められた。

南日吉海山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

日 光 海 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

海上保安庁の 2016 年 3 月 29 日及び 12 月 24 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。

三 瓶 山

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（図 3）

山体付近に発生する地震は少なく、周辺の地震活動にも特に変化はない。

・ 噴気等の状況

山頂部の室の内火口には鳥地獄と呼ばれる噴気孔があるが、噴気異常等に関する通報はない。

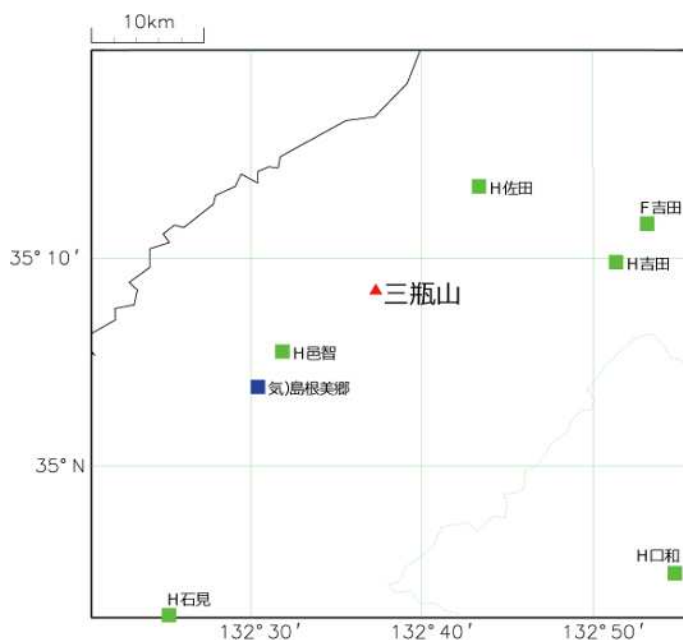


図 1 三瓶山 周辺の地震観測点

■ H) : 防災科研観測点 ■ 気) : 気象庁観測点

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 25000 を使用した。

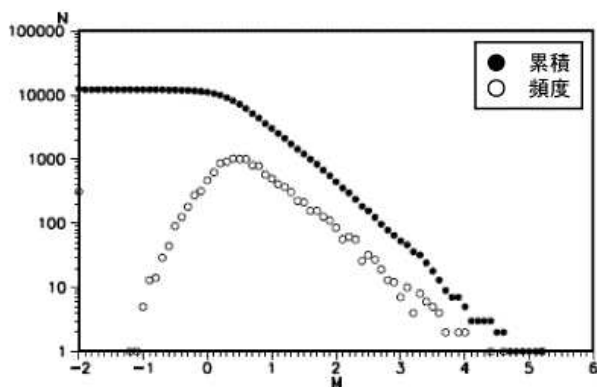


図 2 三瓶山

一元化震源によるマグニチュード別度数分布図
(図 3-①震央分布図の範囲内)

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータも利用して作成。

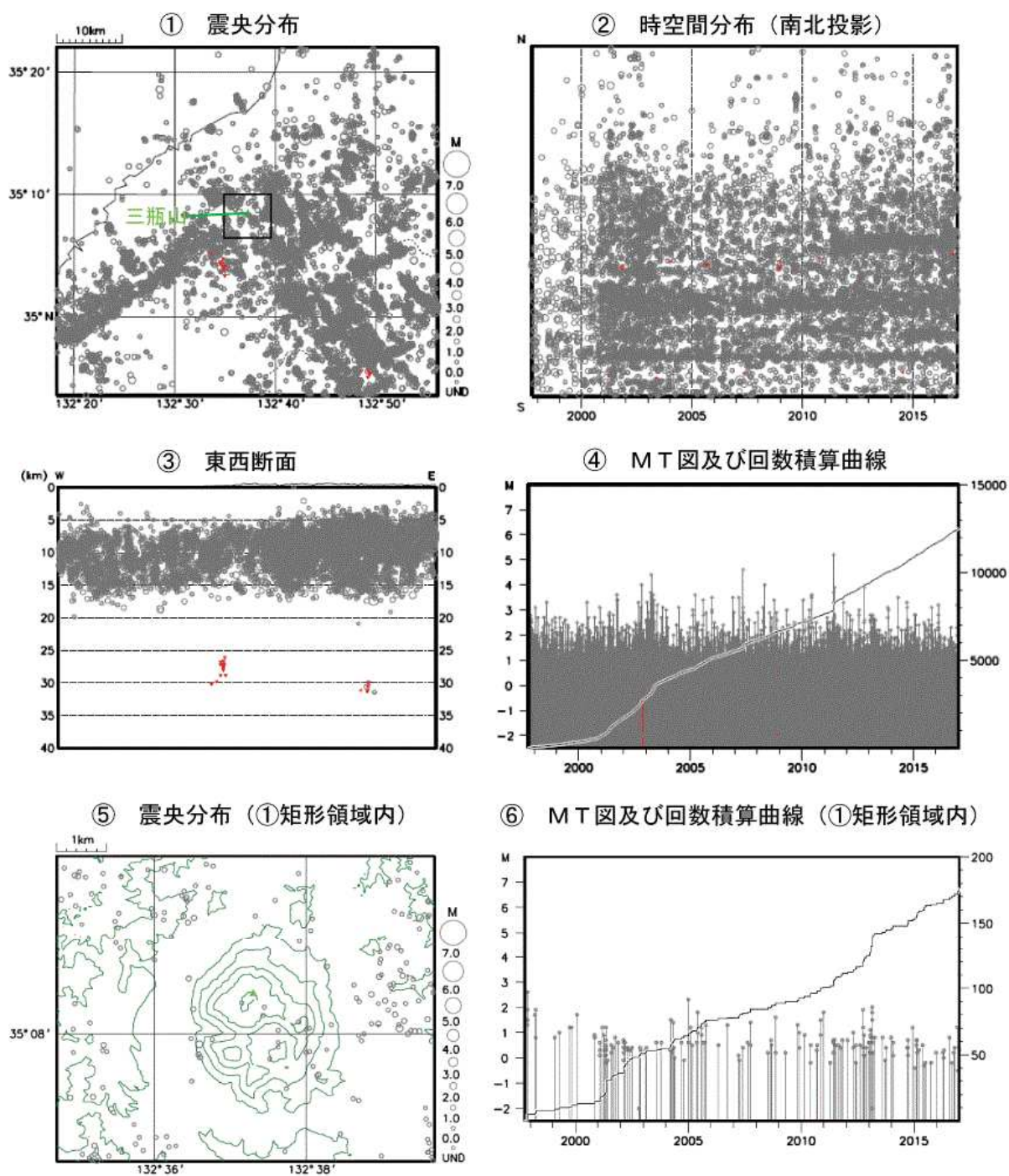


図3 三瓶山 周辺の地震活動 (1997年10月1日～2016年12月31日)

注) 2002年10月以降、Hi-net 追加により検知力向上

赤は低周波地震を示す。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この図の作成にあたっては、国土地理院発行の数値地図 50mメッシュ (標高) を使用した。

阿 武 火 山 群

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

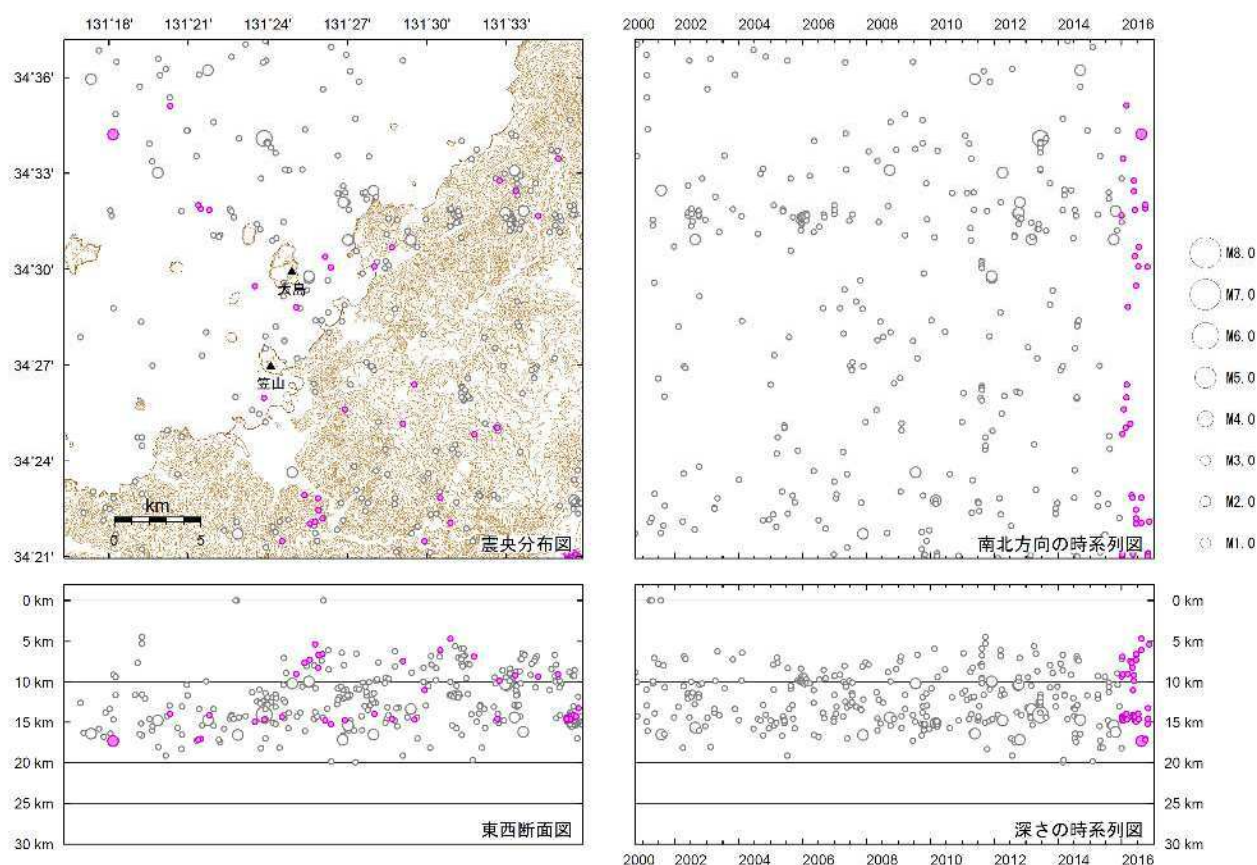
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・地震活動（第 1 図）

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

・噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



● : 2016 年 2 月～12 月の震源

○ : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源

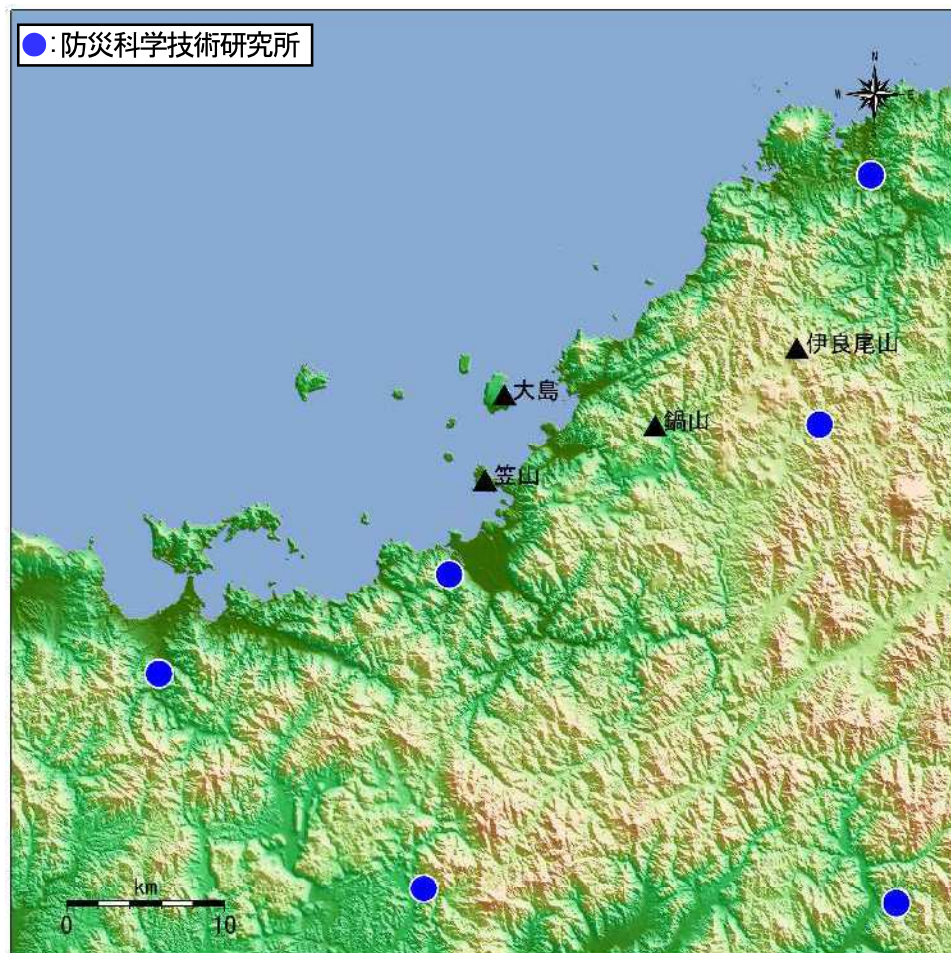
第 1 図 阿武火山群 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

＜2016 年 2 月～12 月 31 日の状況＞

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁のほか、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第3図 阿武火山群 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

由 布 岳 (2016 年 12 月 31 日現在)

由布岳周辺では、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の活動により地震活動が活発となっている。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。

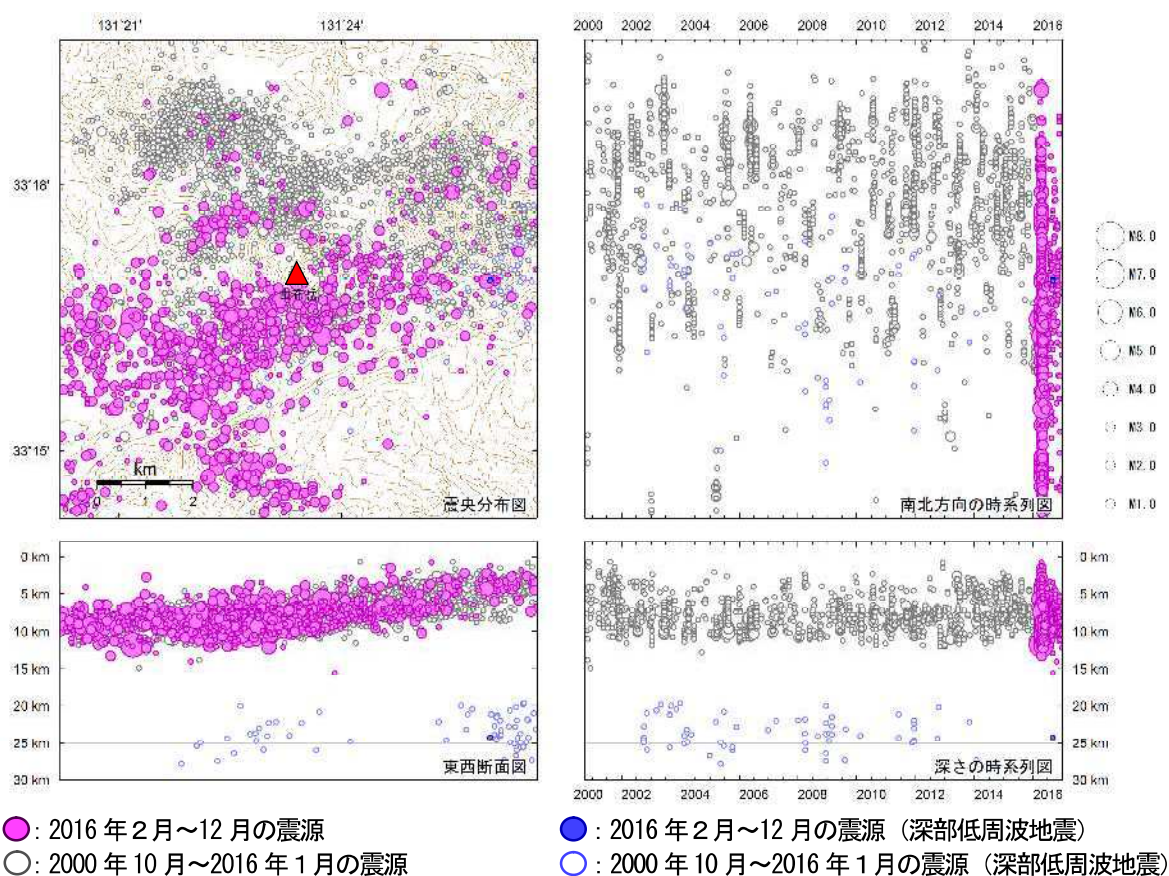
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・地震活動（第 1 図）

由布岳周辺では、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の活動により地震活動が活発となっている。

・噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



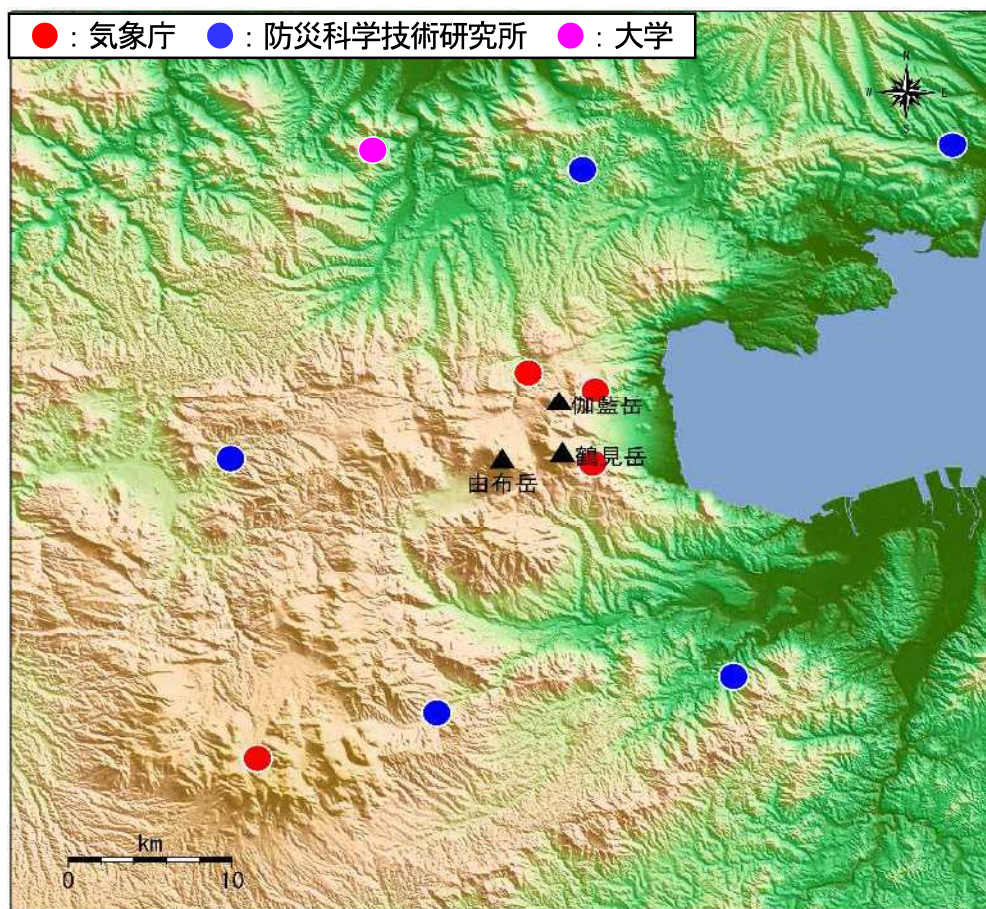
第 1 図 由布岳 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

<2016 年 2 月～12 月の状況>

由布岳周辺南側では、「平成 28 年（2016 年）熊本地震」の一連の活動により地震活動が活発となっている。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。



第2図 由布岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

福江火山群

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

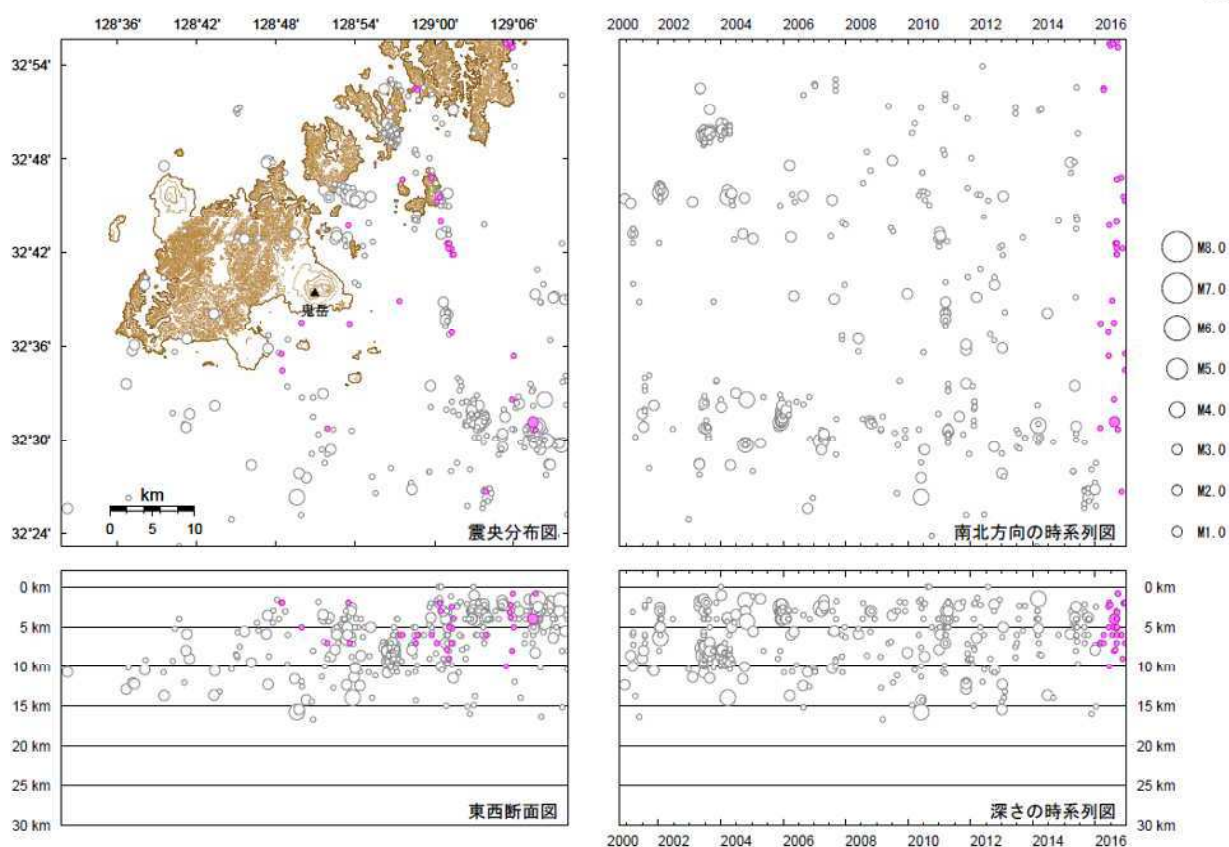
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・地震活動（第 1 図）

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

・噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



● : 2016 年 2 月～12 月の震源

○ : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源

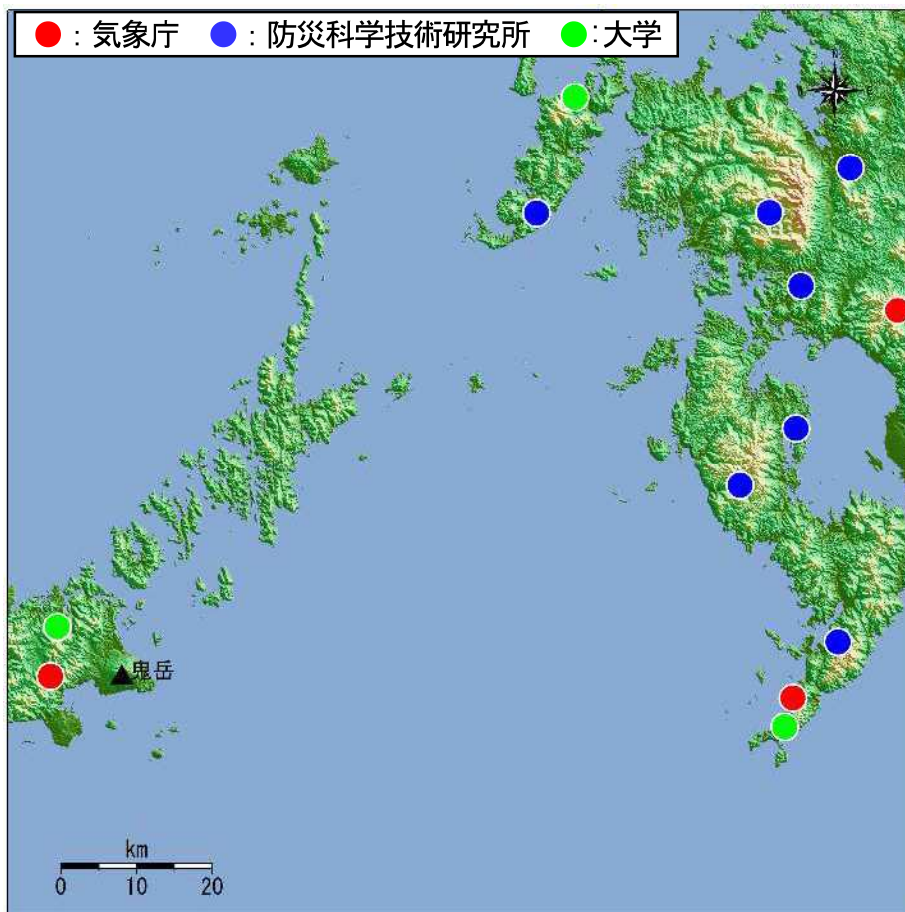
第 1 図 福江火山群 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

<2016 年 2 月～12 月の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁のほか、九州大学、独立行政法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 福江火山群 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

米 丸 ・ 住 吉 池

(2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

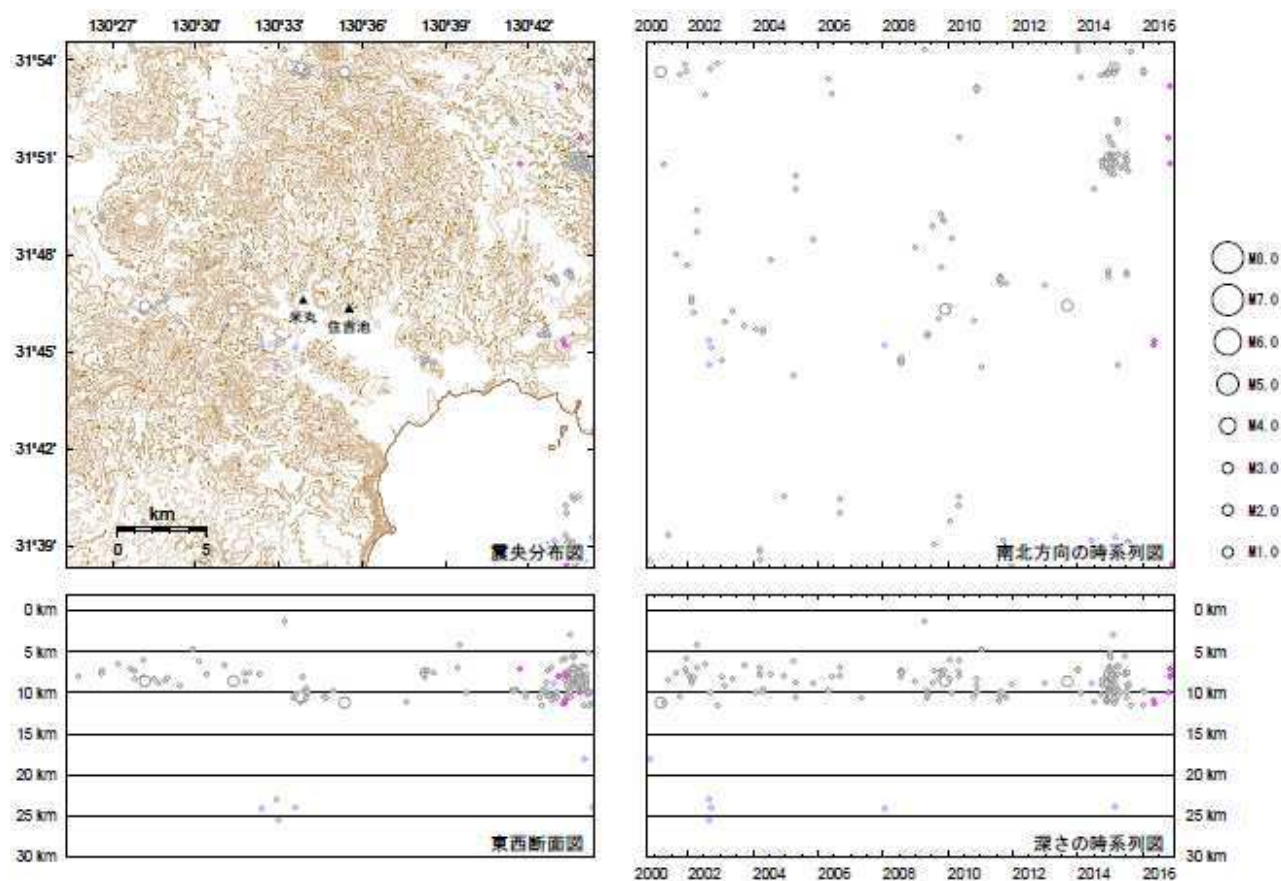
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・ 地震活動（第 1 図）

米丸・住吉池付近で発生する地震は観測されず、地震活動は静穏な状態で経過した。

・ 噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



● : 2016 年 2 月～12 月の震源

● : 2016 年 2 月～12 月の震源（深部低周波地震）

○ : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源

○ : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源（深部低周波地震）

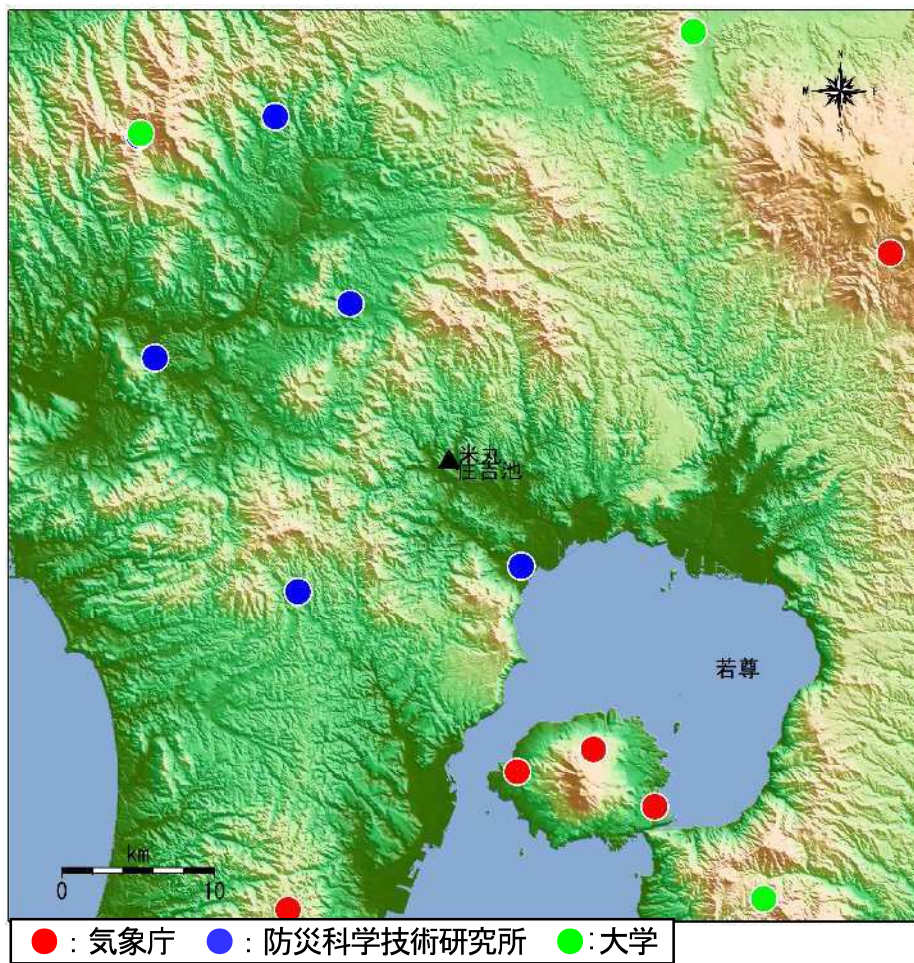
第 1 図 米丸・住吉池 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

＜2016 年 2 月～12 月の状況＞

米丸・住吉池付近で発生する地震はなく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第2図 米丸・住吉池 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

若 尊 (2016 年 12 月 31 日現在)

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はない。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

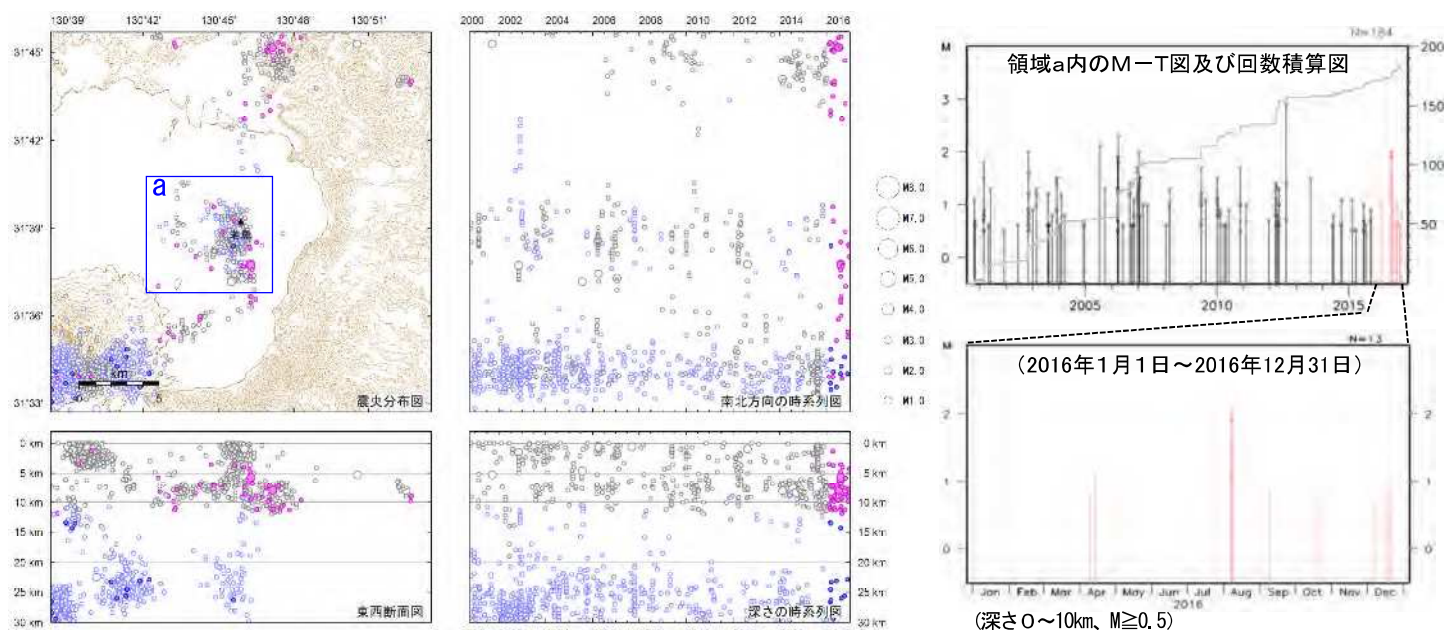
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・地震活動（第 1 図）

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

・噴気等の状況

海面に泡が湧出する現象（たぎり）について、異常に関する通報はなかった。



2016 年 2 月以降の地震を赤色で表示

- : 2016 年 2 月～12 月の震源
- : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源
- : 2016 年 2 月～12 月の震源（深部低周波地震）
- : 2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源（深部低周波地震）

第 1 図 若 尊 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

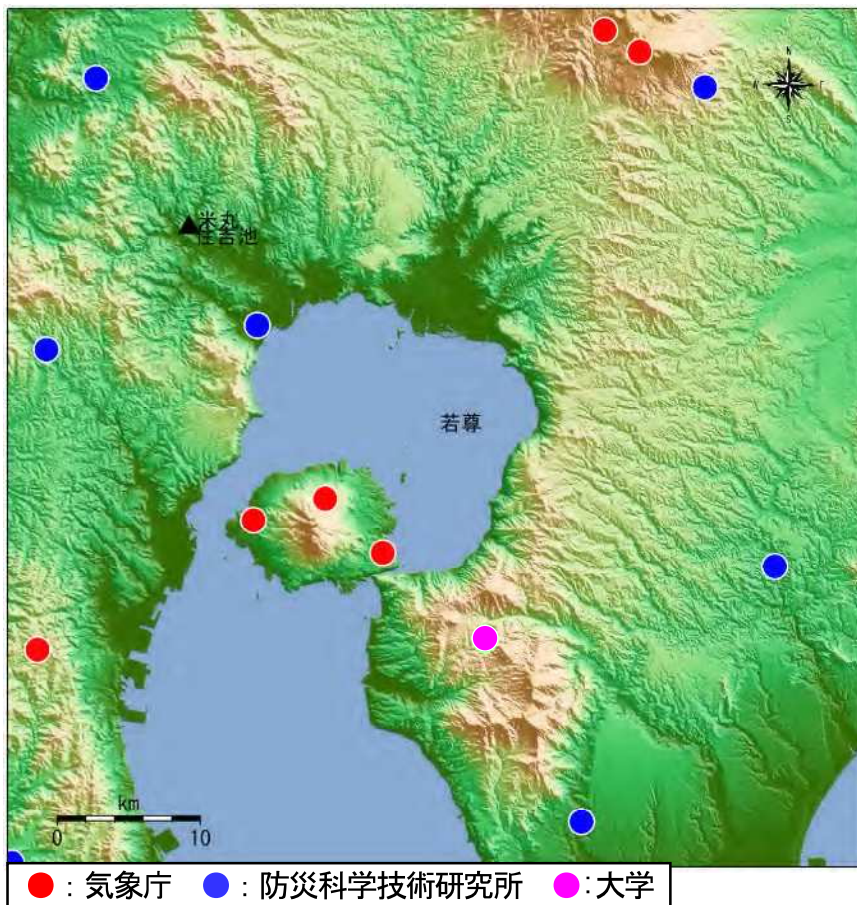
＜2016 年 2 月～12 月の状況＞

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。

表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第 2 図 若尊 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ (標高)』を使用した。

池 田・山 川

(2016 年 12 月 31 日現在)

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はない。その他の火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

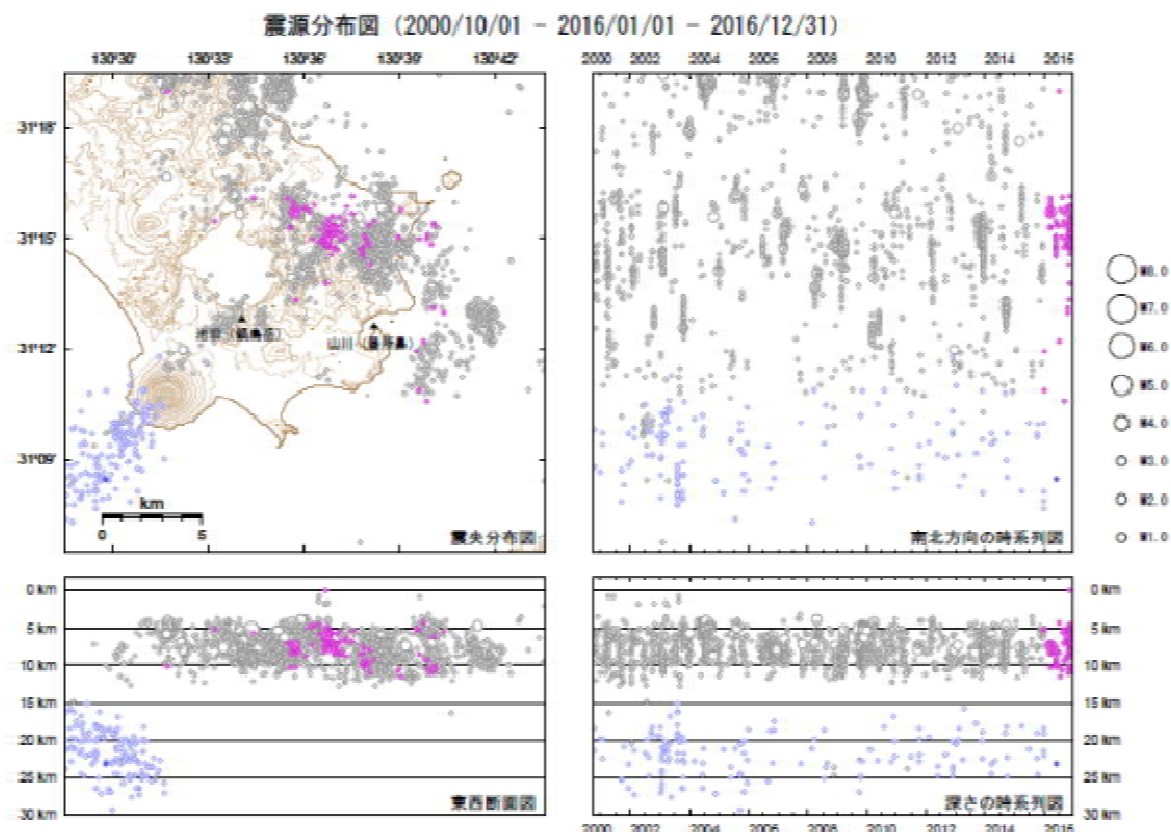
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・地震活動（第 1 図）

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

・噴気等の状況

噴気等の異常に関する通報はなかった。



●：2016 年 2 月～12 月の震源

●：2016 年 2 月～12 月の震源（深部低周波地震）

○：2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源

○：2000 年 10 月～2016 年 1 月の震源（深部低周波地震）

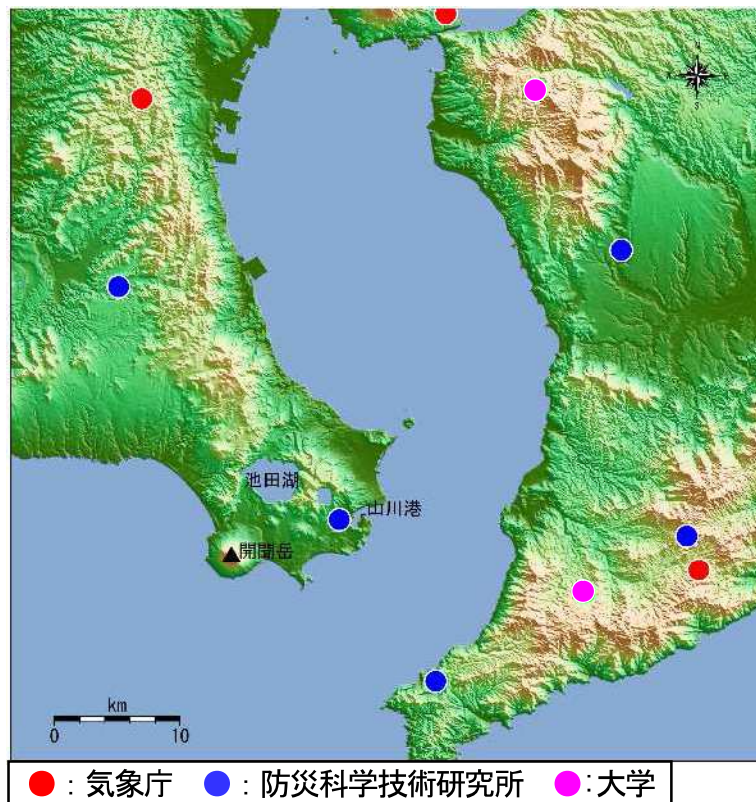
第 2 図 池田・山川 一元化震源による地震活動経過図（2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日）

<2016 年 2 月～12 月の状況>

周辺領域で時々地震はあるものの、発生状況に特段の変化はなく経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50mメッシュ（標高）』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。



第3図 池田・山川 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用した。

開 聞 岳 (2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・ 噴気等の状況（図 1）

噴気活動は認められない。なお、噴気等の異常に関する通報はなかった。

・ 地震活動（図 2）

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。



図 1 開聞岳 山体の状況 2016 年 5 月 31 日（海上自衛隊第 1 航空群 P-3C から撮影）
噴気は認められなかった。（山頂付近に認められるのは上昇流によってできた雲である）

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学、国立研究開発法人防災科学技術研究所のデータを利用して作成した。

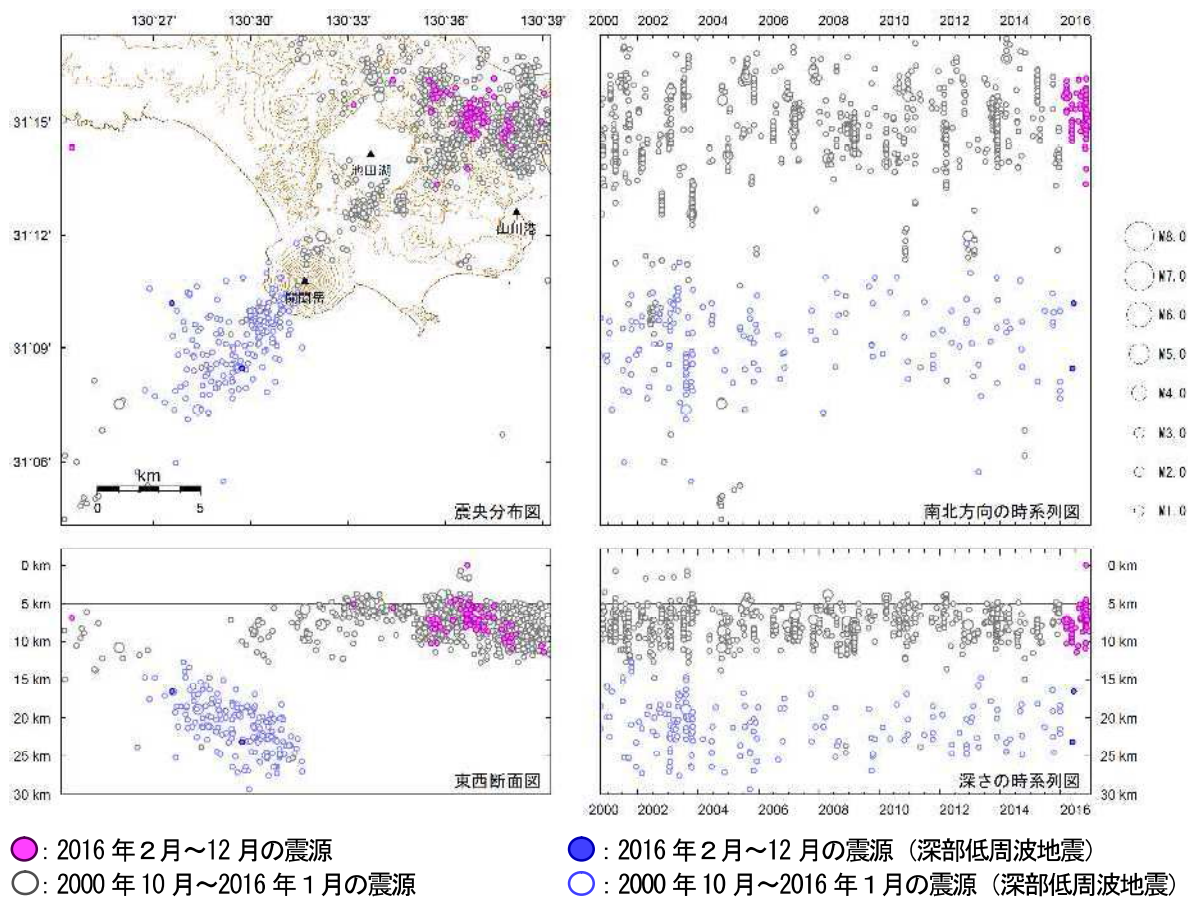


図 2 開間岳 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日)

<2016 年 2 月～12 月の状況>

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。

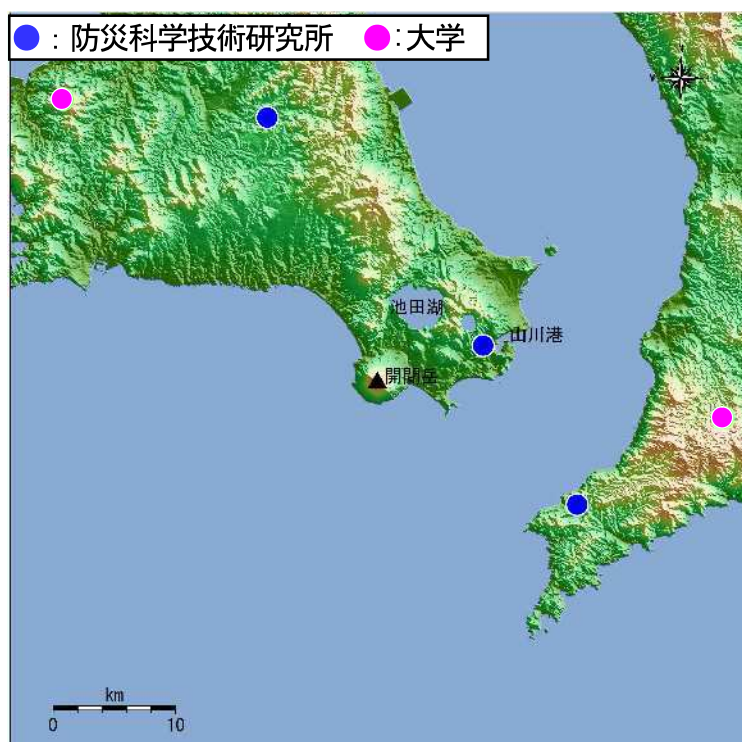


図 3 開間岳 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

口 之 島 (2016 年 12 月 31 日現在)

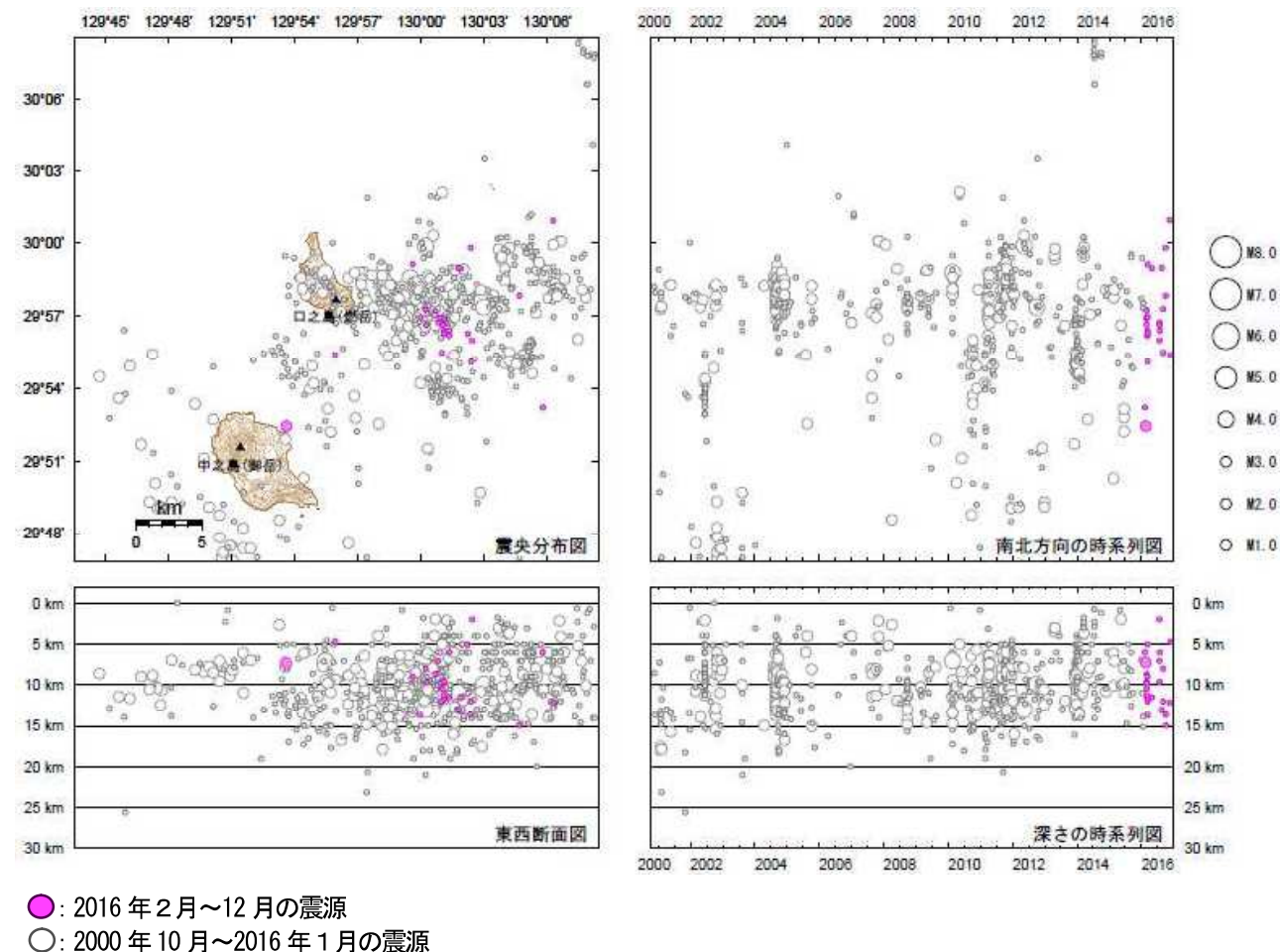
火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

- ・ 噴気等の状況（第 1 図）
噴気等の異常に関する通報はなかった。
- ・ 地震活動（第 2 図）
地震活動は静穏な状態で経過した。



第 1 図 口之島 (2016 年 1 月 22 日 フェリーから撮影)

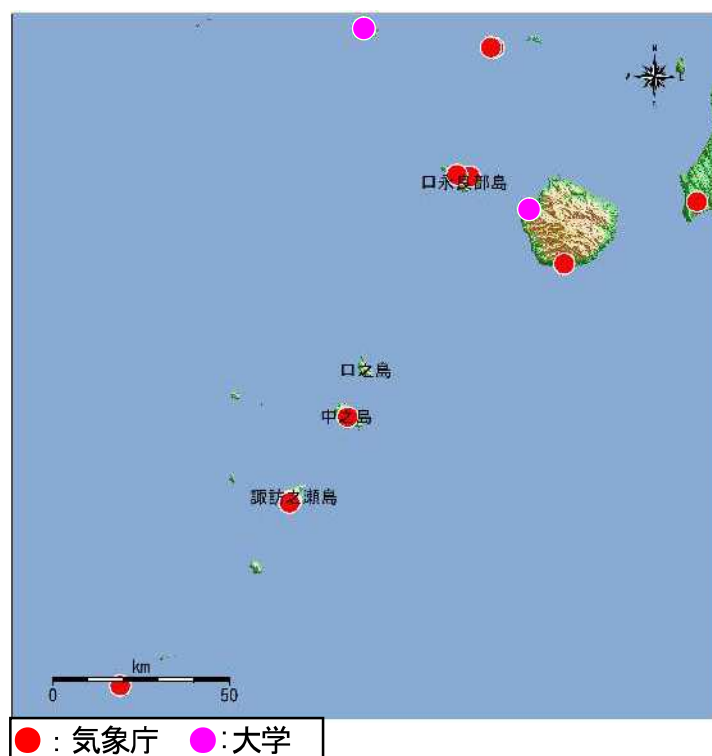


第 2 図 口之島 一元化震源による地震活動経過図 (2000 年 10 月～2016 年 12 月 31 日)

<2016 年 2 月～12 月 31 日の状況>

地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。



第 3 図 口之島 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用した。

中之島 (2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は見られない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

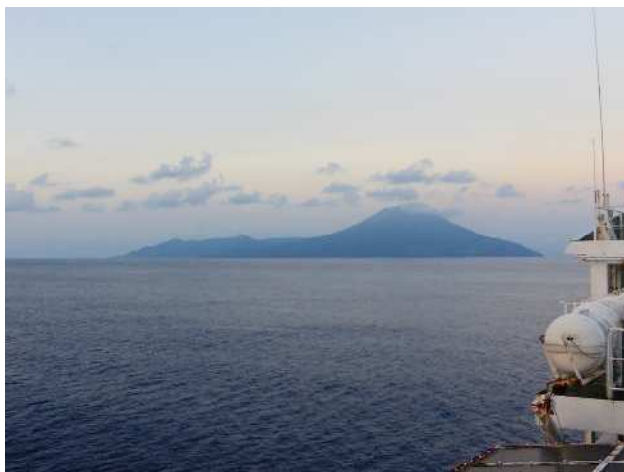
○ 概況（2016 年 2 月～12 月 31 日）

・ 噴気等の状況（第 1 図）

噴気等の異常に関する通報はなかった。

・ 地震活動（第 2 図）

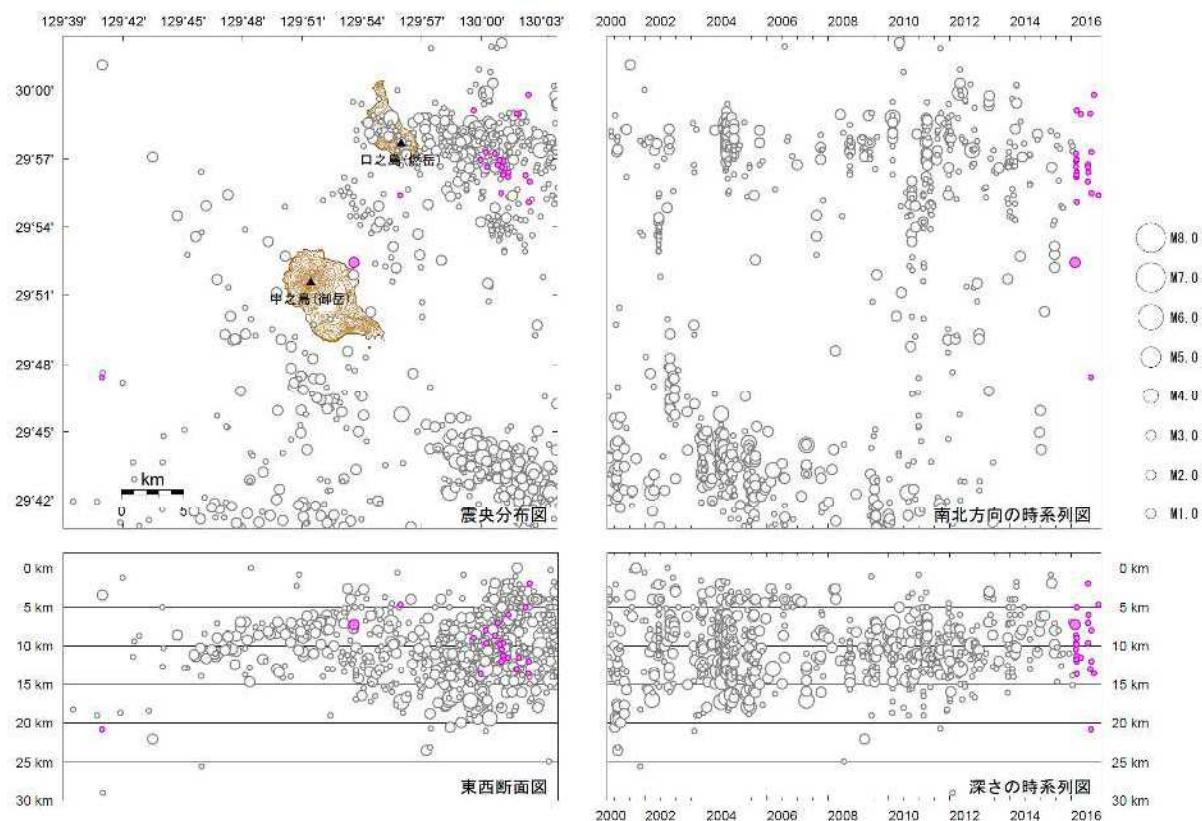
山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。



第 1 図 左図 中之島（2016 年 8 月 2 日 フェリー十島から撮影）

右図 中之島（2016 年 3 月 17 日 中之島地域気象観測点から撮影）

この資料は気象庁のほか、鹿児島大学のデータを利用して作成した。



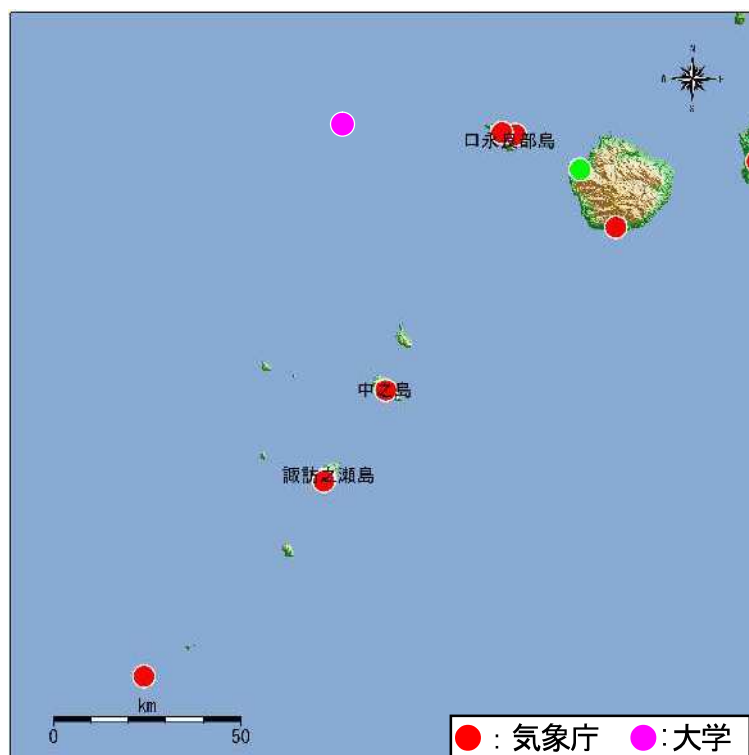
- : 2016年2月～12月の震源
○: 2000年10月～2016年1月の震源

第2図 中之島 一元化震源による地震活動経過図（2000年10月～2016年12月31日）

＜2016年2月～12月の状況＞

山体で発生する地震は少なく、地震活動は静穏な状態で経過した。

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用した。
表示している震源には、震源決定時の計算誤差の大きなものが表示されることがある。



第3図 中之島 周辺の地震観測点

この地図の作成には、国土地理院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用した。

硫黄島 (2017 年 1 月 20 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、静穏に経過しており、噴火の兆候は認められない。

噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 活動概況（2016 年 9 月～2017 年 1 月 20 日）

・ 噴気など表面現象の状況（図 2～3）

2016 年 11 月 25 日及び 2017 年 1 月 18 日に気象庁地球環境・海洋部が実施した海上からの観測では、島の北側に位置する硫黄岳火口、及び島の中央部に位置するグスク火山火口で、従来から認められている少量の噴気を観測した。硫黄島周辺に変色水は観測されなかった。

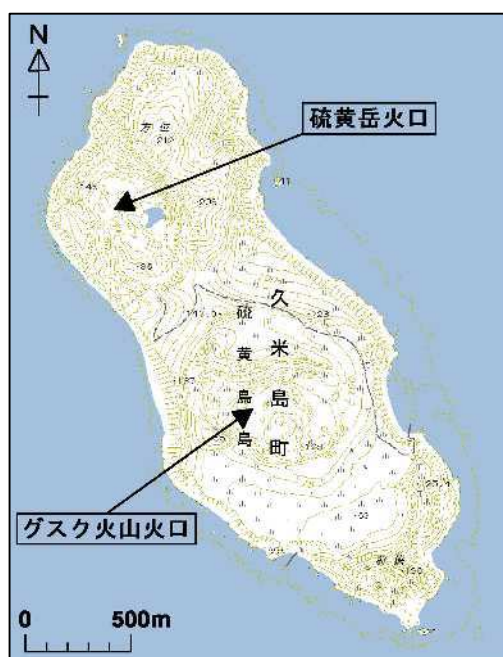


図 1 硫黄島 火口位置図

この図の作成には国土地理院発行の 2 万 5 千分の 1 地形図(硫黄島)を複製した。



図 2 硫黄島 火口の状況 (2016 年 11 月 25 日)
上：硫黄岳火口 (南西側から撮影) 下：グスク火山火口 (南東側から撮影)
気象庁地球環境・海洋部の観測による

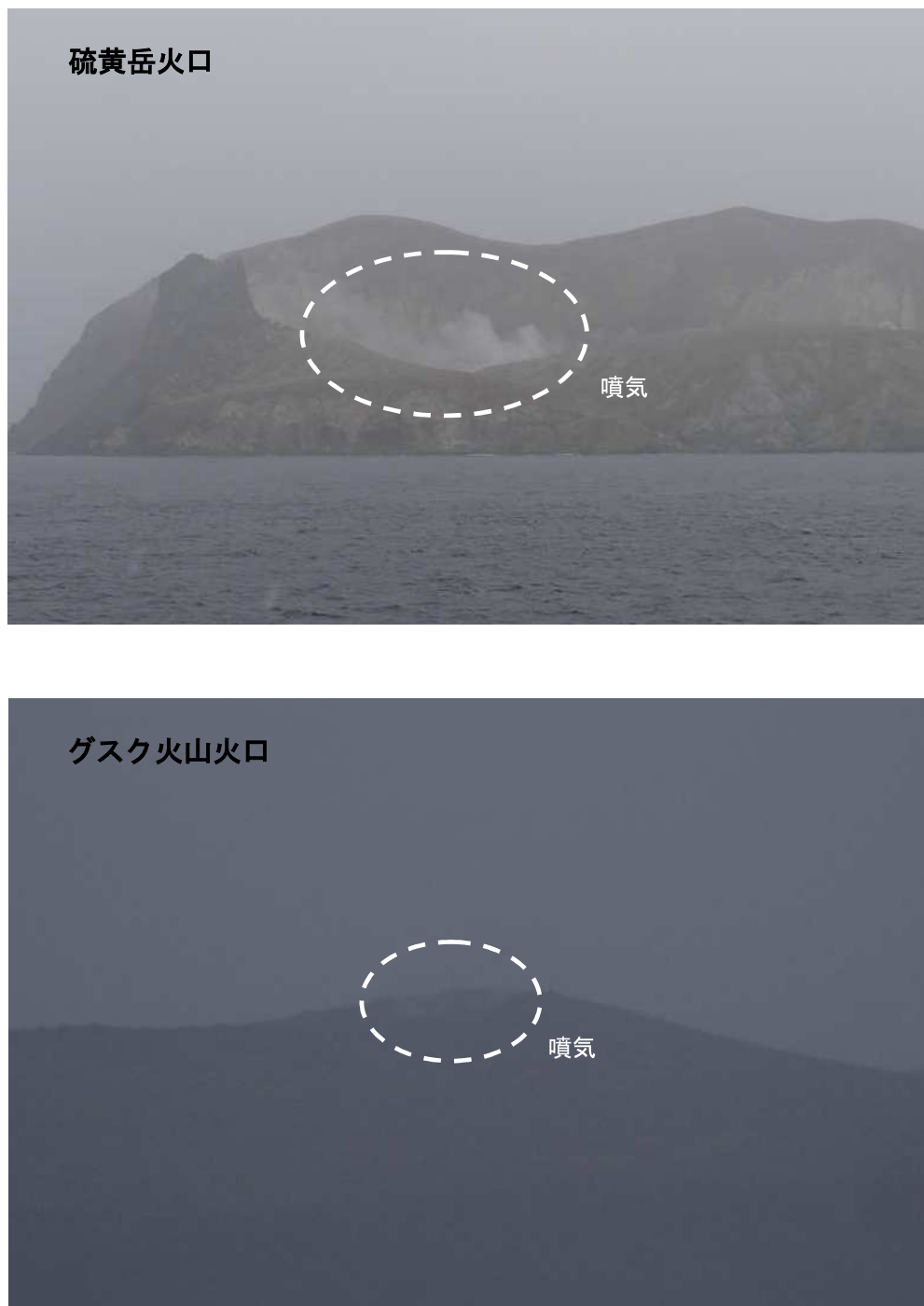


図3 硫黄島 火口の状況（2017年1月18日）

上：硫黄岳火口（南西側から撮影） 下：グスク火山火口（南東側から撮影）

気象庁地球環境・海洋部の観測による

※降雨のため視程が悪かった

西表島北北東海底火山 (2016 年 12 月 31 日現在)

火山活動に特段の変化はなく、噴火の兆候は認められない。
噴火予報（活火山であることに留意）の予報事項に変更はない。

○ 概況（2016 年 1 月～12 月 31 日）

第十一管区海上保安本部の 2016 年 1 月 13 日、2 月 5 日、3 月 3 日、5 月 23 日、10 月 3 日、11 月 16 日、12 月 15 日の観測では、変色水域等の特異事象は認められなかった。

その他、異常報告等はないことから、周辺海域に影響を及ぼすような噴火の兆候は認められない。